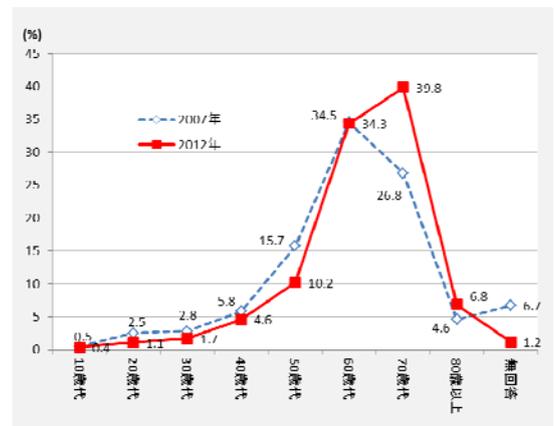


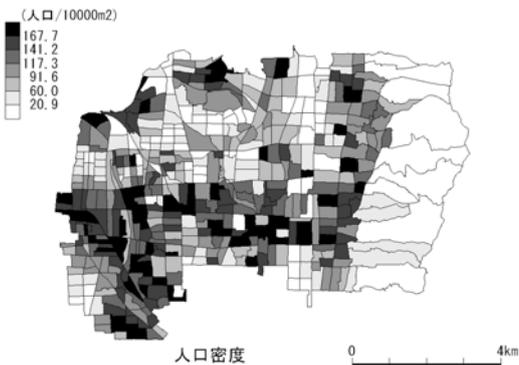
ボランティア活動に関するアンケート

ボランティアグループ・NPOの組織・活動に関するアンケート

調査結果報告書



(ボランティアの年齢)



社会福祉法人 東大阪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター

作成協力 大阪商業大学 宍戸ゼミナール

はじめに

東大阪市社会福祉協議会は、1982年（昭和57年）にボランティアセンターを開設し、ボランティア養成のための講座の開催や東大阪市ボランティア連絡会との連携を図りながら様々な事業を展開し、ボランティア活動の推進に努めてまいりました。そして、「誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくり」を目指し、2004年（平成16年）にボランティアグループだけでなく、校区福祉委員会やNPO、市民活動団体とも協働していくための拠点として現在の「ボランティア・市民活動センター」が誕生しました。

今回実施したアンケート調査は、ボランティアグループやNPOの現状を把握するとともに、ボランティア活動をしている一人ひとりの活動に対する意識と実情を把握し、今後のボランティア・市民活動センターの役割や使命をより明確にし、事業活動を推進するための道標にしたいと考えております。

社会福祉協議会は、「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として、社会福祉法に明記され、市内の地域福祉を牽引する役割が期待されています。また、社会情勢の大きな変化もあり、ボランティアや市民活動に対する期待は、ますます大きくなってきています。障がいがあっても、高齢になっても、市民誰もが安全で安心して暮らせる社会を実現できるよう、ボランティア・市民活動センターは今後も人々との「絆」や「輪」を大切にし、より強いつながりをつくるプラットフォームとしての役割を担ってまいりたいと考えております。

最後になりましたが、今回のアンケート調査にご協力をいただきましたボランティアグループおよびNPOの皆様、ボランティアの皆様から心からお礼を申し上げます。

また、ご多忙ながらこの報告書の発行にいたるまで、全面的にご協力いただきました大阪商業大学の宍戸邦章准教授ならびに宍戸ゼミナールの皆様に厚く御礼申し上げます。

平成25年3月

社会福祉法人 東大阪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター

目 次

調査の概要

- (1) 調査の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (2) 調査の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (3) 調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- (4) 調査結果の活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

調査の結果

1 ボランティア活動に関するアンケート（個人票）

- (1) ボランティア参加者の基本的属性・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- (2) ボランティア活動の現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- (3) ボランティア活動に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・ 33

2 ボランティアグループ・NPO の組織・活動に関するアンケート（団体票）

- (1) 団体の基本的属性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
- (2) 団体の活動現状・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
- (3) 団体の活動に対する評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58

調査結果からみえてきたこと・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

自由回答欄の回答内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72

調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82

調査の概要

(1) 調査の目的

東大阪市社会福祉協議会では、ボランティア活動や NPO 活動等の市民活動を行っている方々のご意見や活動に関する課題を把握し、活動をいっそう推進していただくための支援や新たな担い手の拡充を図っていく取り組みなどに反映していくよう、定期的にアンケート調査を実施しています。

2001（平成 13）年度には、「ボランティアの意識についての調査」、2004（平成 16）年度には「ボランティア・NPO 活動に関する調査」、2007（平成 19）年度には、「ボランティア活動に関する調査」と「ボランティアグループ・NPO の組織・活動に関する調査」を実施してまいりました。これらの過去の調査を踏まえつつ、2012 年度には社会情勢の変化などに対応した市民活動を推進するよう、新たな調査項目を組み込みつつ、2007 年度の調査と比較可能な調査を実施しました。

(2) 調査の内容

調査はボランティア個人を単位とした「ボランティア活動に関する調査（個人票）」と、ボランティア団体や NPO 法人を単位とした「ボランティアグループ・NPO の組織・活動に関する調査（団体票）」の 2 つを実施しました。「ボランティア活動に関する調査」では、ボランティアをしている個人の基本的な属性、活動の状況、活動を始めたきっかけ、活動への評価、ボランティア・市民活動センターへの要望等を尋ねています。「ボランティアグループ・NPO の組織・活動に関する調査」では、団体の基本的な属性、活動状況、他団体との連携状況、活動に対する評価、行政やボランティア・市民活動センターへの要望等を尋ねています。

(3) 調査の方法

いずれの調査も郵送法によって、2012 年 9～10 月に実施しました。調査の概要は下記の通りです。

①ボランティア活動に関する調査（個人票）

調査対象 東大阪市社会福祉協議会に登録しているボランティアグループの会員及び東大阪市社会福祉協議会に登録している個人ボランティア 2,175 名。

有効回収数 1,003 票（有効回収率 46.1%）

②ボランティアグループ・NPO の組織・活動に関する調査（団体票）

調査対象 東大阪市社会福祉協議会に登録しているボランティアグループ（142 団体）と東大阪市に拠点を置く NPO 法人（143 団体）の合計 285 団体。

有効回収数 97 票（有効回収率 34.0%）

(4) 調査結果の活用

本調査の結果は、東大阪市社会福祉協議会およびボランティア・市民活動センターにおいて実施する市民活動を推進・支援する事業に反映するとともに、東大阪市をはじめとする関係機関等においても活用されるよう周知を図ります。

また、2014（平成26）年度に東大阪市社会福祉協議会が呼びかけて策定する次の5年間の「地域福祉活動計画」に反映するとともに、東大阪市が策定する「東大阪市地域福祉計画」にも反映されるよう、はたらきかけていきます。

調査の結果

1 ボランティア活動に関するアンケート（個人票）

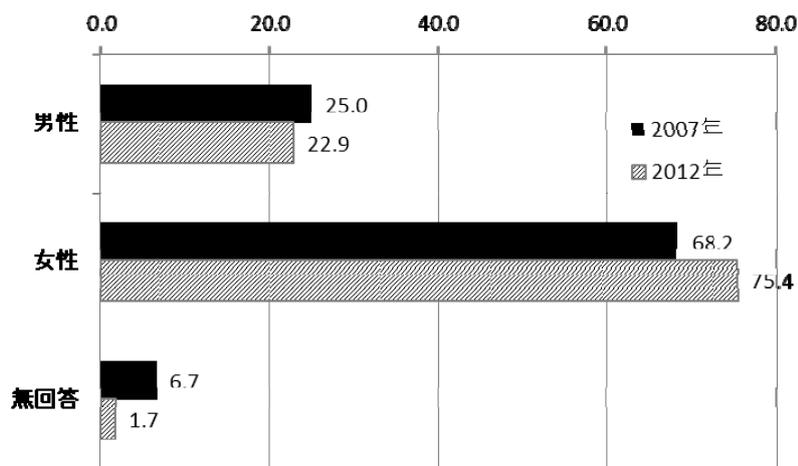
(1) ボランティア参加者の基本的属性

Q1 あなたの性別をお答えください。

登録ボランティアの4人に3人が女性、4人に1人が男性である。

《度数分布の結果》

女性の回答者が圧倒的に多い。2012年の結果は、男性22.9%、女性75.4%である。女性の割合は、男性の約3倍となっている。5年前である2007年の調査結果と比較すると、男性の割合が減少し、女性の割合が増加していることが分かる。社会福祉協議会では福祉系のボランティアが多いため、女性の割合が多いと考えることができる。



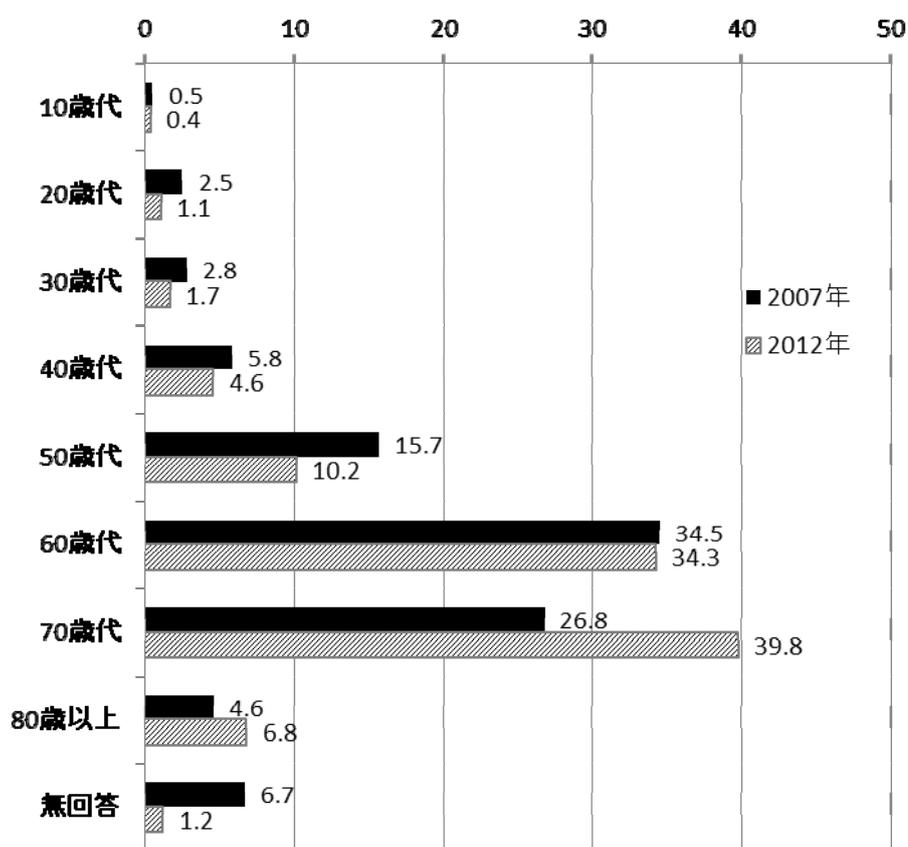
登録ボランティアの性別 (%)

Q2 あなたの現在の年齢をお答えください。

70歳代の回答者が一番多く、5年前より13%増加している。60歳以上のボランティアが8割を占める。

《度数分布の結果》

2012年の結果をみると、最も大きな割合を占めるのは70歳代の39.8%であり、次いで60歳代の34.3%となっている。60歳以上が8割を占める。2007年と比較して、70歳代と80歳以上の割合が増加しており、10歳代～50歳代までの割合が減っている。これは、ボランティアの高齢化を示す結果である。60歳以上の高齢者の方々がボランティア活動を続けやすい環境を整えると同時に、50歳代以下の人々がボランティア活動に参加しやすい仕組みづくりが求められている。



登録ボランティアの年齢 (%)

Q3 あなたが現在お住まいの地域は、東大阪市内のどこにあたりますか。あてはまるリージョンに○をつけてください。

D や F や B といった東大阪市内南部のリージョンにおいてボランティアが多く、E や C といった北部のリージョンにおいて少ない。

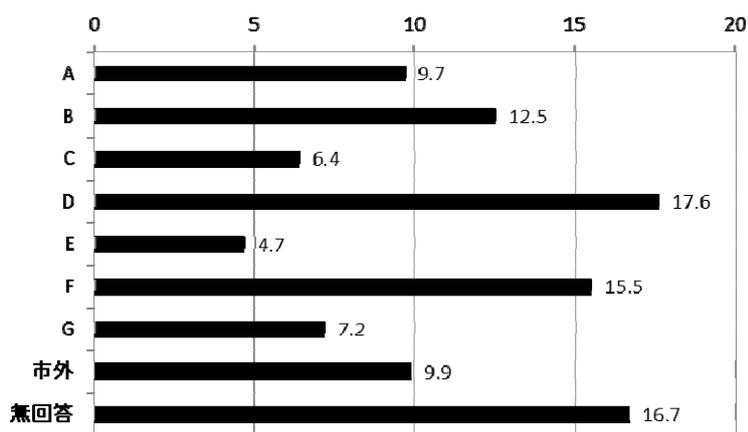
A 地域	58,374	(11.5%)
B 地域	68,048	(13.4%)
C 地域	63,559	(12.5%)
D 地域	97,147	(19.1%)
E 地域	34,575	(6.8%)
F 地域	100,865	(19.9%)
G 地域	85,111	(16.8%)
全市	507,679	(100.0%)



2012年12月の人口

《度数分布の結果》

ボランティアの居住しているリージョンの分布をみると、最も割合が多いのはDリージョンの17.6%、次いでFリージョンの15.5%、Bリージョンの12.5%である。2012年12月の人口（上記表）に示すように、人口の多さが反映されていると思われる。人口に占める登録ボランティアの比率でみると、GリージョンやCリージョンでボランティアの比率が低い。無回答の割合が16.7%と高いのは、自分自身の居住地がどのリージョンに含まれるのか分からない回答者が多かったためである。リージョンの行政区分が、まだ地域住民に浸透していない可能性が高い。



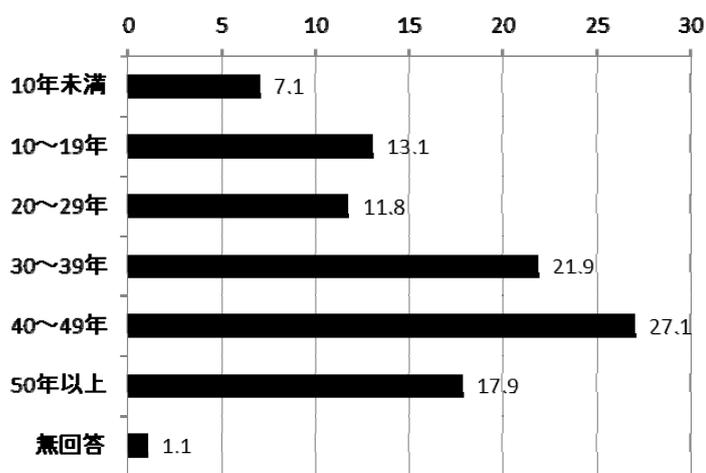
ボランティアが居住しているリージョン (%)

Q4 あなたは、現在の地域に住んで、おおよそ何年になりますか。

ボランティアの居住年数は30年以上が67%を占める。東大阪市南部において、居住年数が長いボランティアが多い。

《度数分布の結果》

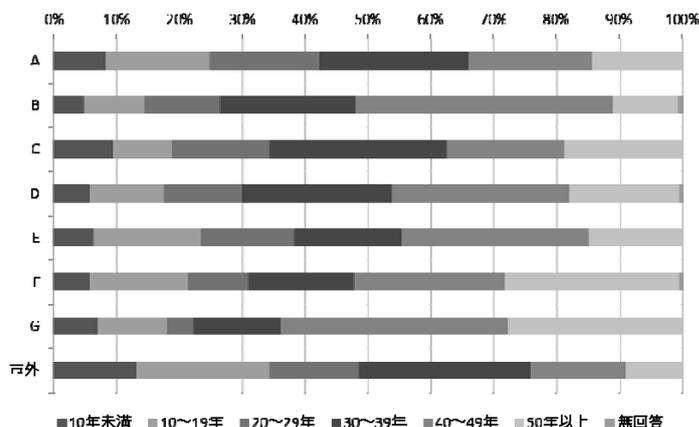
30～39年以上住んでいる人々の割合が21.9%、40～49年以上住んでいる人々の割合が27.1%となっている。30年以上住んでいる人々で67%を占めており、ボランティアをしている人々は比較的長い期間、東大阪市に在住の人々であるということが分かる。居住年数が短い人々、すなわち、新しく東大阪市に転入してきた人々が、ボランティア活動や地域活動に参加できるような環境づくりが求められている。



ボランティアの居住年数の分布 (%)

《クロス集計の結果（地域別）》

リージョン別にボランティアの居住年数をみると、BやFやGのリージョンでは40年以上居住している人々が半数以上を占めている。これらの地域では、長い間、東大阪市内に住んでいる人々によってボランティア活動が担われている。逆に、AやCやEといった東大阪市北部の地域では、30年未満の人々が4割程度占めている。地域によって、ボランティアをしている人々の属性に違いがあることが分かる。



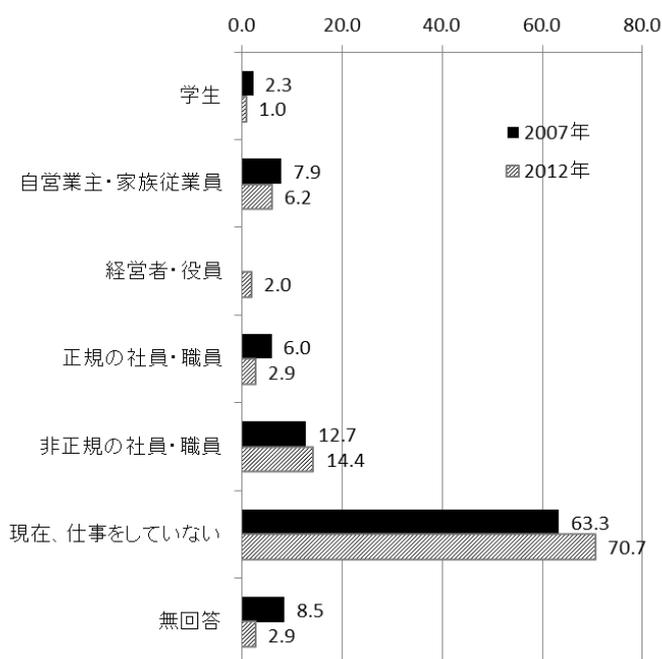
地域別ボランティアの居住年数 (%)

Q5 あなたは現在、収入をとまなうお仕事をしていますか。している場合、その主なお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

男女での就労状態には、さほど差は見られないが、年齢が上がるにつれて無職層が増加する。

《度数分布の結果》

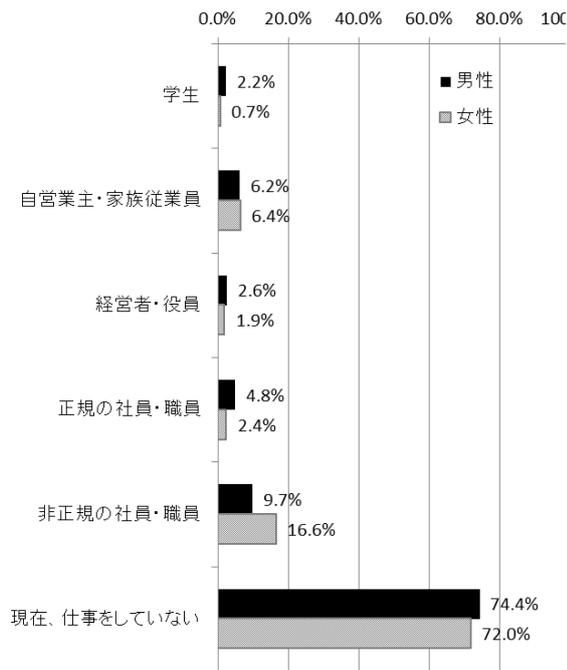
ボランティアをしている人々の就労状態は、2007年と比較して大きな違いはない。2012年の結果をみると、60歳以上の人々の割合が多いことを反映して、無職の人々の割合が70.7%を占める。次に多いのが非正規雇用（パートやアルバイトなど）の割合であり、14.4%を占める。学生や正規雇用の人々の割合は非常に低い。



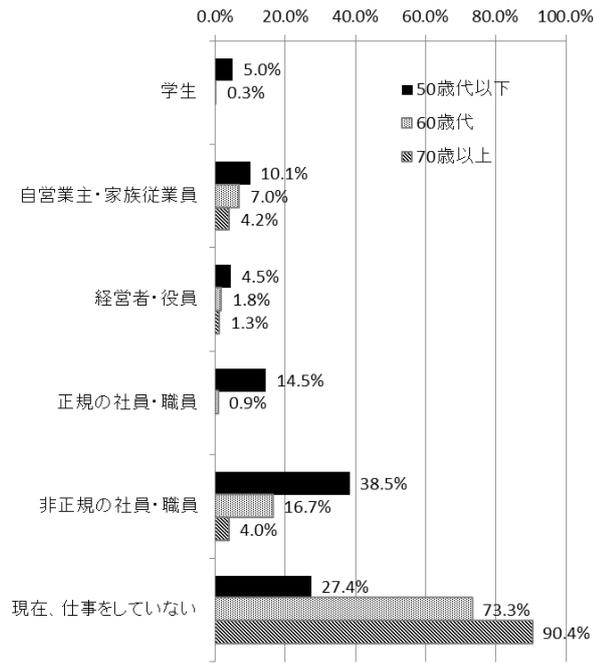
ボランティアの就労状態 (%)

《クロス集計の結果（性別・年齢層別）》

ボランティアの就労状態を性別、年齢層別にみると、男女差は見られない。パート・アルバイトで女性の割合が16.6%と高い程度である。年齢層別にみると、50歳以下の層では就労している人々の割合が高い。自営業10.1%、正規の社員14.5%、パート・アルバイト38.5%となっている。60歳以上になると、就労している人々の割合が大きく減少する。60歳代の無職の割合は73.3%、70歳以上では90.4%にのぼる。



性別と就労状態 (%)



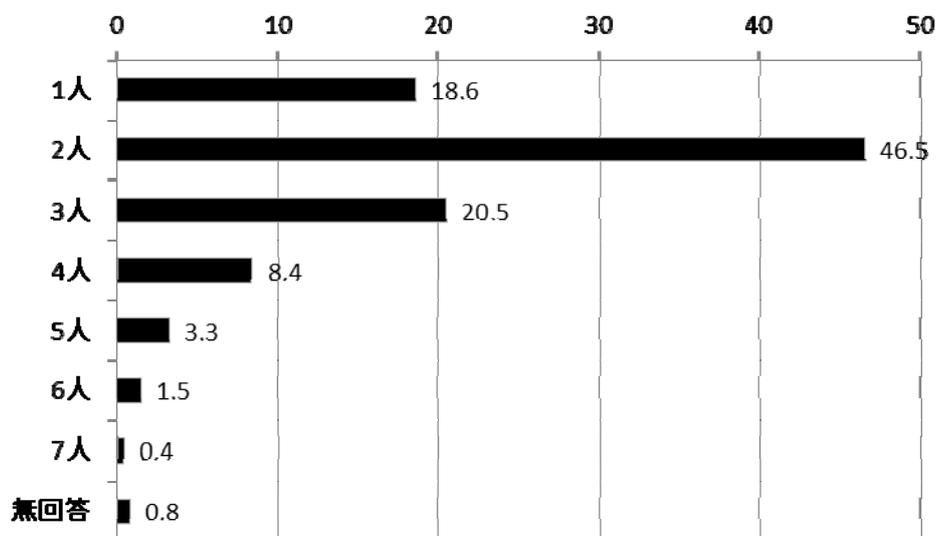
年齢層と就労状態 (%)

Q6 現在、一緒に住んでいる方は、あなたを含めて何人ですか。

世帯人数は2人が5割、次いで3人と1人が2割と、小規模の世帯であることが分かる。

《度数分布の結果》

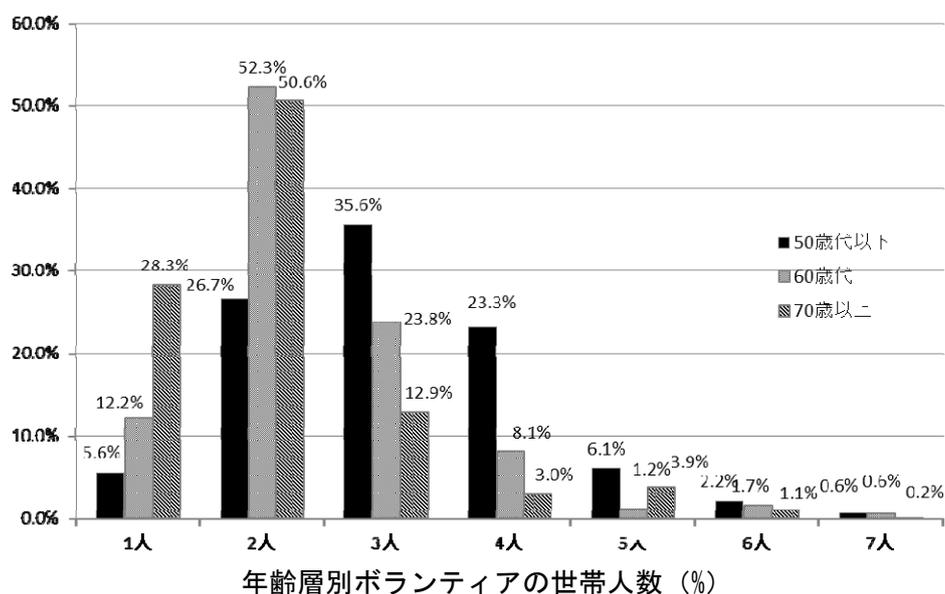
ボランティアの世帯人数は「2人」が46.5%と最も多く、次いで「3人」が20.5%、「1人」が18.6%となっている。4人以上の世帯の割合は少ない。



ボランティアの世帯人数 (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

世帯人数を年齢層別にみると、50歳代以下では「3人」が35.6%と最も多く、次いで「2人」が26.7%、「4人」が23.3%となる。60歳代では「2人」が52.3%と半数以上を占める。70歳以上では、「2人」が50.6%、「1人」が28.3%となる。高齢になるにつれて世帯規模が縮小している。70歳以上では「1人」と「2人」の合計割合が約8割を占める結果である。

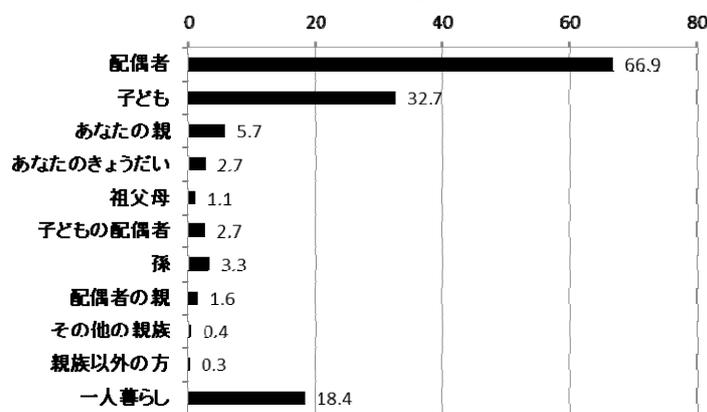


Q7 現在、あなたと一緒に住んでいる方は、どなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。一人暮らしの方は、11に○をつけてください。

同居家族の続き柄は配偶者、子どもが多く、その次に一人暮らしが多い。

《度数分布表の結果》

同居人の続き柄は、「配偶者」が66.9%、次に「子ども」が32.7%と高い割合である。「一人暮らし」が18.4%とこちらも高い値となっている。配偶者と子ども以外の親族の割合は、軒並み低い値となっており、ボランティアしている人々の家族構成は、単身世帯、夫婦世帯、配偶者と子からなる核家族世帯が多くを占めていることが分かる。



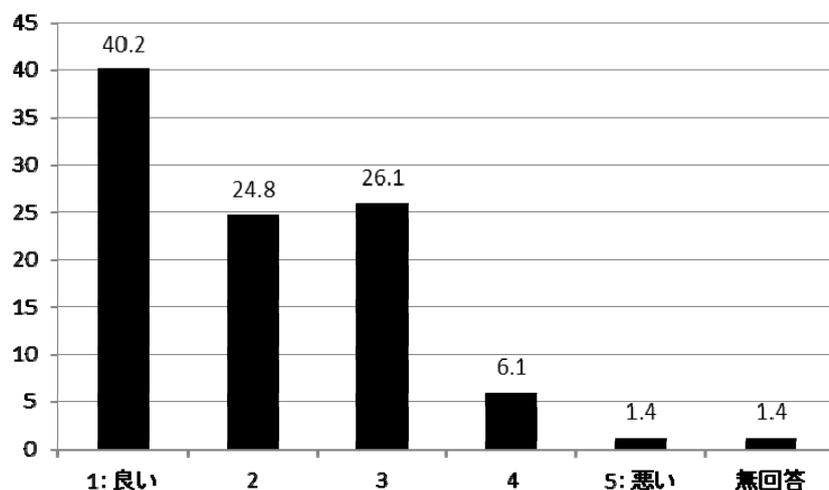
同居家族の続き柄 (%)

Q8 あなたの現在の健康状態は、いかがですか。

健康状態は65%の人が良い(1+2)と答えており、悪い(4+5)と答えている人の割合は7.5%である。

《度数分布の結果》

ボランティアしている人の多くは高齢であるにもかかわらず、現在の健康状態を「良い」と回答する人が40.2%と多い。次いで、「3」(良くも悪くもない)が26.1%、「2」(ある程度良い)が24.8%となっている。健康状態が良くない(4+5)という回答は7.5%と少ない。健康状態が良いからボランティア活動ができるのか、それとも、ボランティア活動によって健康状態が保たれているのか、といった因果関係については今回の調査結果だけでは分からない。



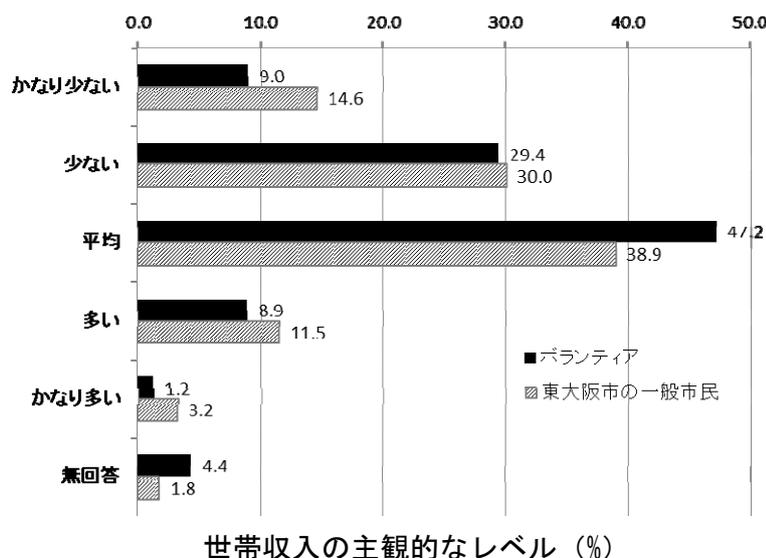
ボランティア参加者の健康状態 (%)

Q9 世間一般と比べて、あなたの世帯収入はどれくらいですか。

ボランティア参加者の世帯年収は、東大阪市の一般市民と比較して、高いわけでも低いわけでもなく、平均的な傾向である。

《度数分布の結果》

2010年に東大阪市の一般市民(20~79歳の601人)を対象とした調査結果と今回のボランティア調査を比較すると、ボランティアしている人の世帯収入のレベルは、「平均」と答える人の割合が47.2%と多い傾向にある。ボランティア参加者の世帯収入は、東大阪市の一般市民と比較して、高いわけでも低いわけでもない。

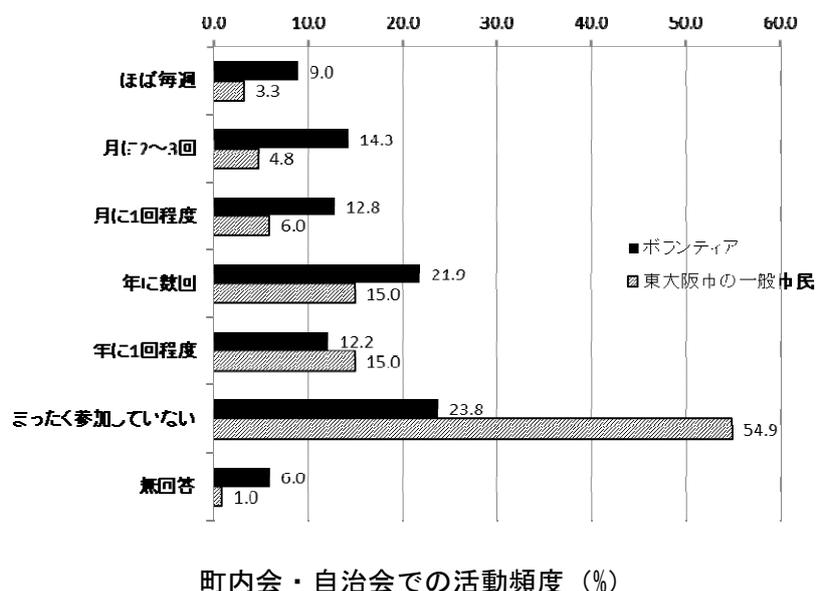


Q27 あなたご自身は、どのくらいの頻度で、町内会・自治会の活動（これに関連した地域活動を含む）に参加していますか。

東大阪市の一般市民と比較して、ボランティア参加者は町内会・自治会活動にも積極的に参加している。特に70歳以上のボランティア参加者で、その傾向が顕著である。

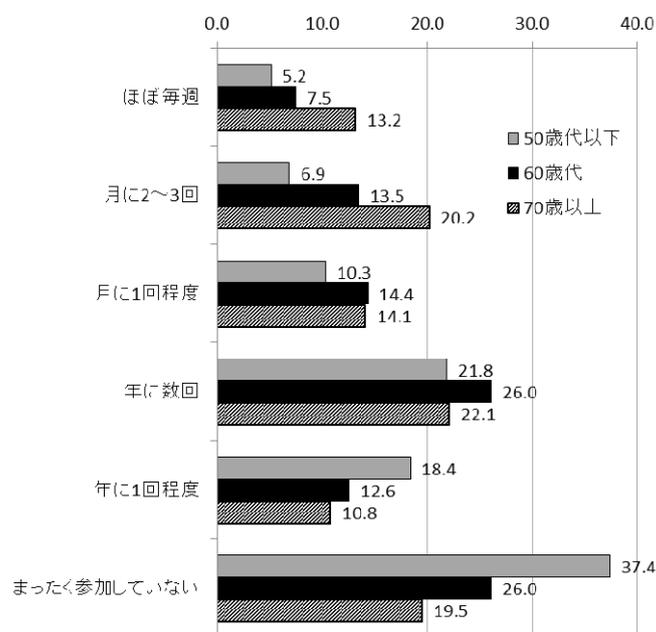
《度数分布の結果》

2010年に東大阪市の一般市民（20～79歳の601人）を対象とした調査結果と今回のボランティア調査を比較すると、ボランティア参加者の町内会・自治会での活動頻度は高い傾向にある。東大阪市の一般市民では、「まったく参加していない」が54.9%も占めるが、ボランティア参加者は23.8%にとどまる。ボランティア活動をしている人は、町内会や自治会での活動にも積極的であり、ボランティアに参加する経路として、町内会や自治会での活動が機能している、と考えることができる。



《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

2012年のボランティア調査において、年齢層別に町内会・自治会活動頻度をみると、年齢層によって明確な違いがある。50歳代以下では、「まったく参加していない」が37.4%を占めるが、70歳以上では19.5%にとどまる。70歳以上のボランティア参加者は、社会福祉協議会での登録ボランティアだけでなく、町内会・自治会活動も並行して行っている。



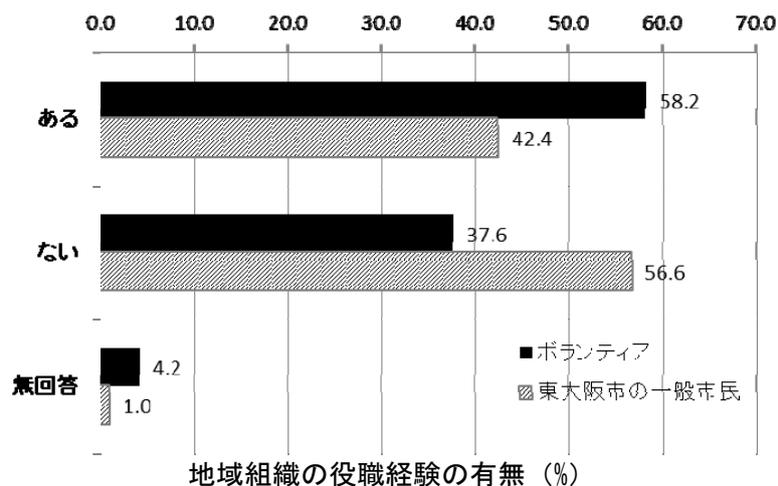
年齢層別ボランティア参加者の町内会・自治会活動頻度 (%)

Q28 あなたは、これまでに地域組織（町内会・自治会、PTA、子ども会、女性部会、青年団など居住地域内の組織）の役職に就いたことがありますか。

東大阪市の一般市民と比較して、ボランティア参加者は地域組織の役職に就いたことがある人の割合が高い。

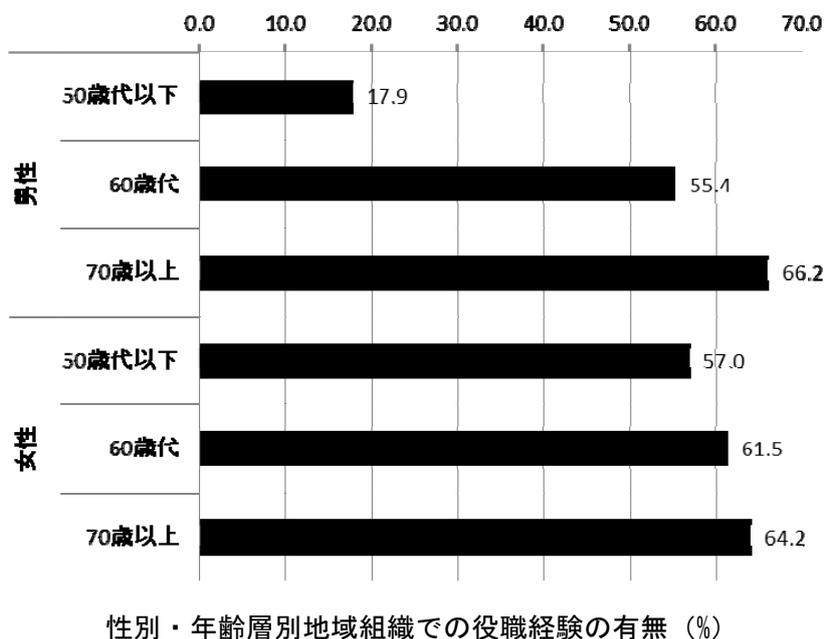
《度数分布の結果》

2010年に東大阪市の一般市民（20～79歳の601人）を対象とした調査結果と今回のボランティア調査を比較すると、ボランティア参加者の地域組織での役職経験は高い傾向にある。ボランティア参加者のうち、地域組織の役職に就いたことがあると回答した人の割合は58.2%であるのに対して、東大阪市の一般市民では42.4%にとどまる。ボランティア参加者は、地域におけるリーダー的存在であることが分かる。



《クロス集計分析の結果（性別・年齢層別）》

2012年のボランティア調査において、性別・年齢層別に地域組織での役職経験をみると、男女とも高齢層ほど役職経験者が多いことが分かる。70歳以上の層では、男性の66.2%が、女性の64.2%が、地域組織での役職を経験している。



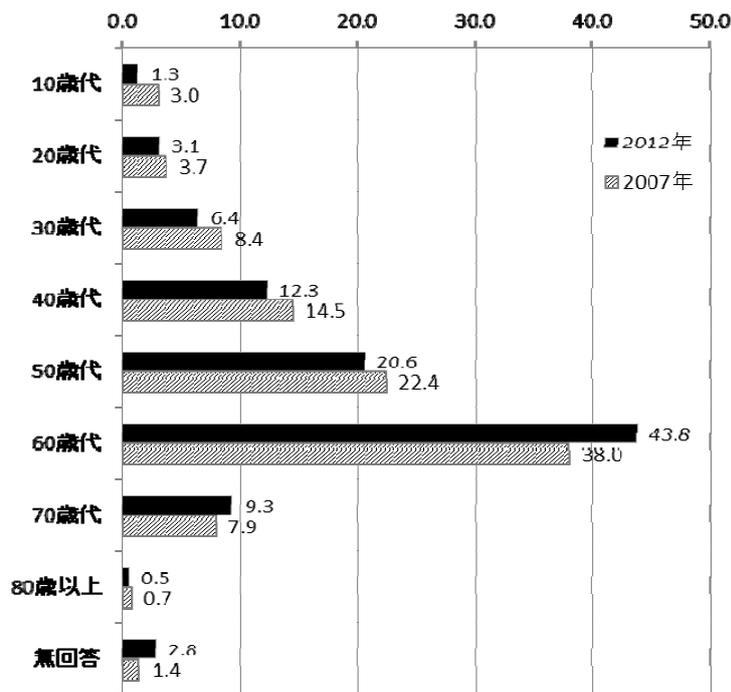
(2) ボランティア活動の現状

Q10 あなたが現在のボランティア活動をはじめた年齢はおおよそ何歳頃からですか。

ボランティア活動をはじめた年齢は60歳代からが最も多く38.0%である。

《度数分布の結果》

ボランティア開始年齢は、2007年・2012年ともに大きな違いはなく、開始年齢は高い傾向にある。60歳代から始める人が2007年では43.8%、2012年では38.0%と一番多い。60歳代は退職する時期であり、就労に代わってボランティアを開始する人が多いためであろう。10歳代～30歳代から始めている人の割合は多くなく、40歳代から1割を超え始める。



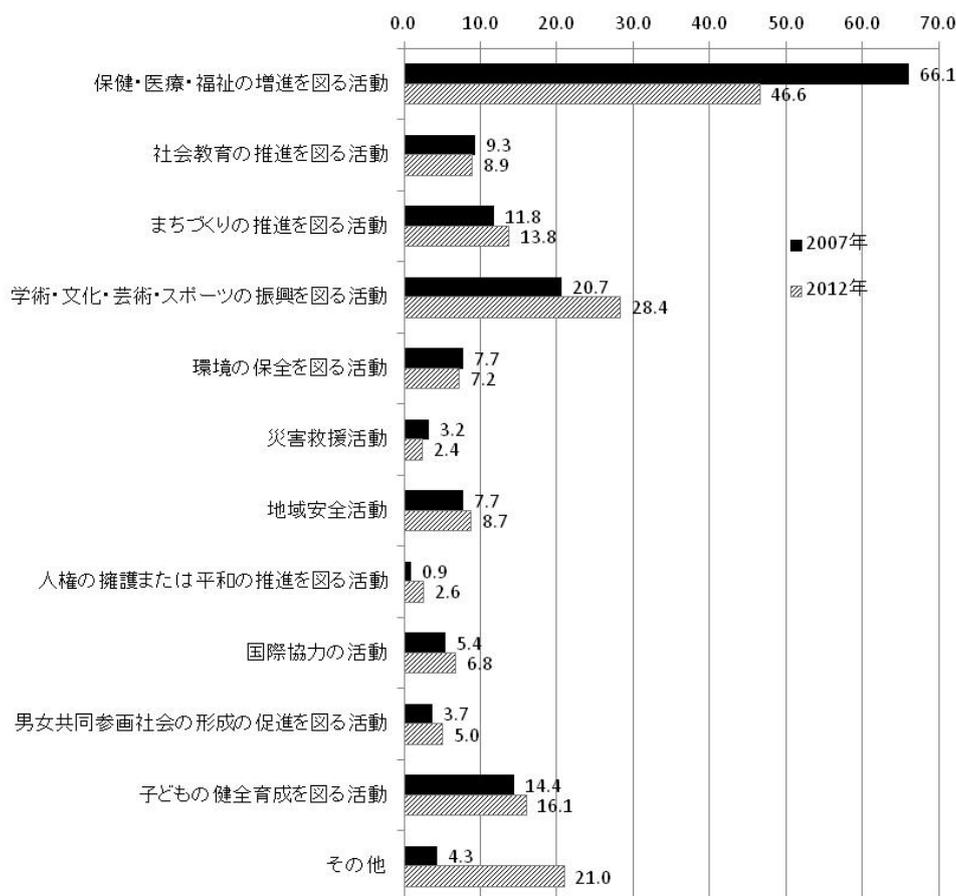
ボランティア活動を開始した年齢 (%)

Q11-1 あなたは現在、どのようなボランティア活動を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

最も多いボランティア活動は、「保健・医療・福祉の増進を図る活動」である。ただし、2007年と比較して2012年では2割程度減少している。

《度数分布の結果》

社会福祉協議会の登録ボランティアに対する調査のため、最も多かったボランティア活動の内容は、「保健・医療・福祉の増進を図る活動」である。ただし、2007年に66.1%だった割合が、2012年では46.6%と減少傾向にある。次に多いボランティア活動は、「学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動」である。2007年は20.7%であったが、2012年は28.4%となっている。3番目に多いのが「子どもの健全育成を図る活動」であり、2012年で16.1%となっている。「保健・医療・福祉の増進を図る活動」が減少した代わりに、他のボランティア活動が増加傾向にあり、ボランティア活動の多様化がみてとれる。

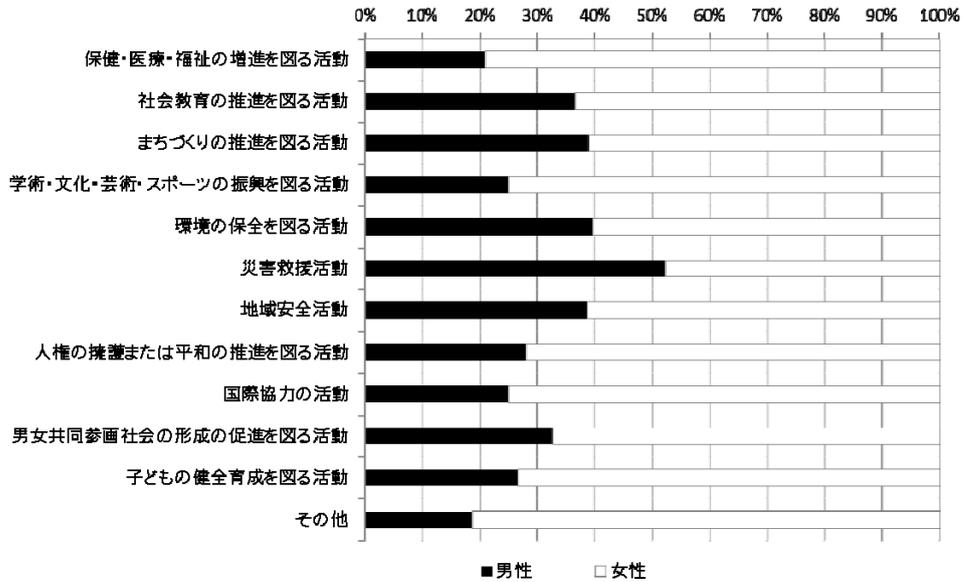


ボランティア活動の内容 (%)

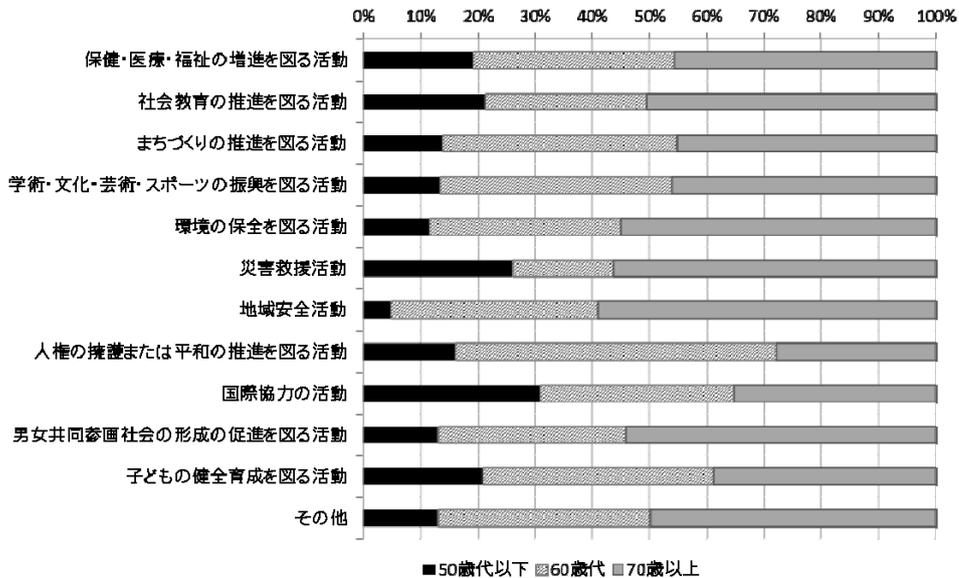
《クロス集計分析の結果（性別・年齢層別）》

ボランティア活動の内容を性別にみると、「災害救援活動」をはじめ、「環境保全活動」、「まちづくりの活動」、「地域安全活動」では男性の比率が4割～5割を占めている。逆に、「保健・医療・福祉の増進を図る活動」や「学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動」や「国際協力の活動」では女性の比率が7割～8割を占めている。

ボランティア活動の内容別に年齢構成をみると、「災害救援活動」や「国際協力の活動」では50歳代以下の割合が3割程度存在している。最も高齢化が進んでいる活動内容は、「地域安全活動」であり、70歳以上の層が6割を占めている。



ボランティア活動内容別の男女の割合 (%)



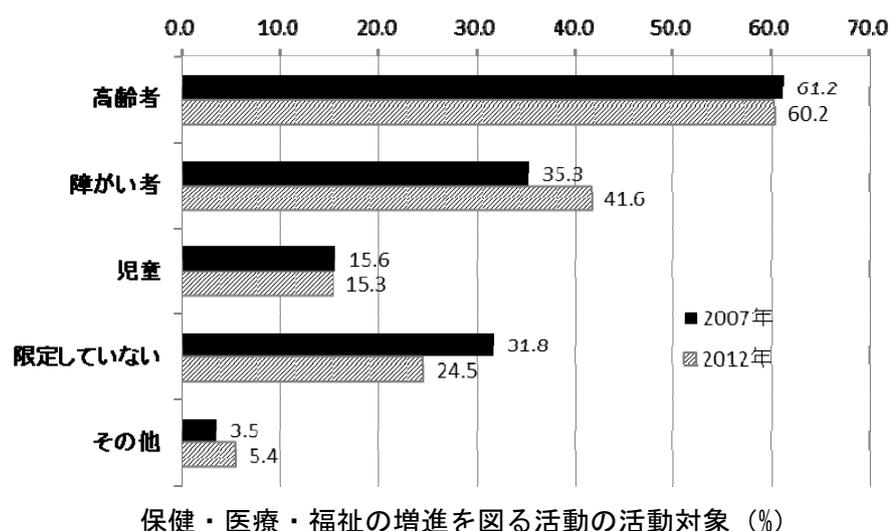
ボランティア活動内容別の年齢構成 (%)

Q11-2 保健・医療・福祉の増進を図る活動をされている方にお聞きします。その活動の対象者はどのような方々ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

保健・医療・福祉分野のボランティア活動の対象は、高齢者が6割、障がい者が4割、児童が15%である。

《度数分布の結果》

Q11-1 で「保健・医療・福祉の増進を図る活動」を選択した人に限定して、ボランティア活動の対象者を見てみると、少子高齢化が進んでいることもあり「高齢者」が最も多い割合を占めている。2007年で61.2%、2012年においても60.2%である。次に多いのが、「障がい者」を対象とした活動であり、2007年に35.3%、2012年に41.6%となっており、この5年間で6ポイント程度伸びている。対象を限定していない割合は、5年前より7ポイント程度減少している。ボランティア自身の年齢層は60歳代、70歳代が多かったことは先述したが、そのことから、高齢者が高齢者に対してボランティア活動を行っているということになる。

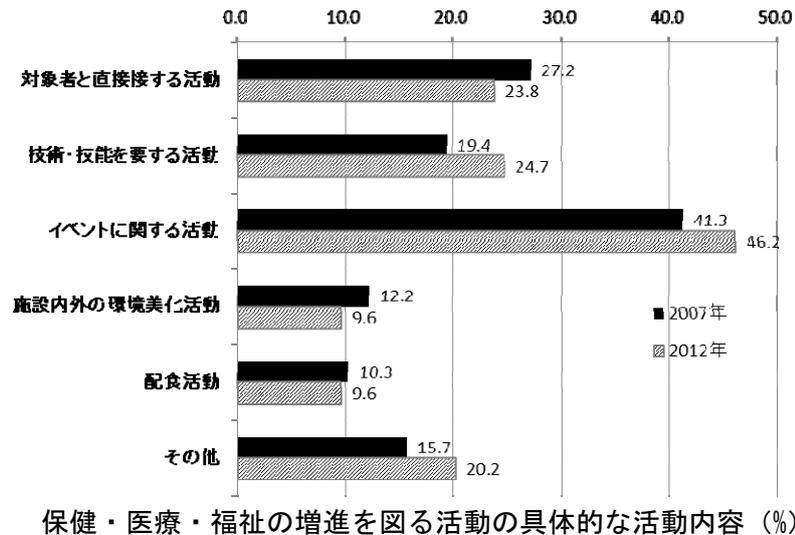


Q11-3 その活動の具体的な内容はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

イベントに関する活動が46.2%と最も多く、次いで「技術・技能を要する活動」、「対象者と直接接する活動」となっている。

《度数分布の結果》

Q11-1 で「保健・医療・福祉の増進を図る活動」を選択した人に限定して、ボランティア活動の具体的な内容を見てみると、「イベントに関する活動」が46.2%を占め、最も多い。2007年と比較して約5ポイント増加している。次いで、「技術・技能を要する活動」が24.7%、「対象者と直接接する活動」が23.8%となっている。5年前と比較して、「技術・技能を要する活動」は増加傾向にあり、「対象者と直接接する活動」は減少傾向にある。

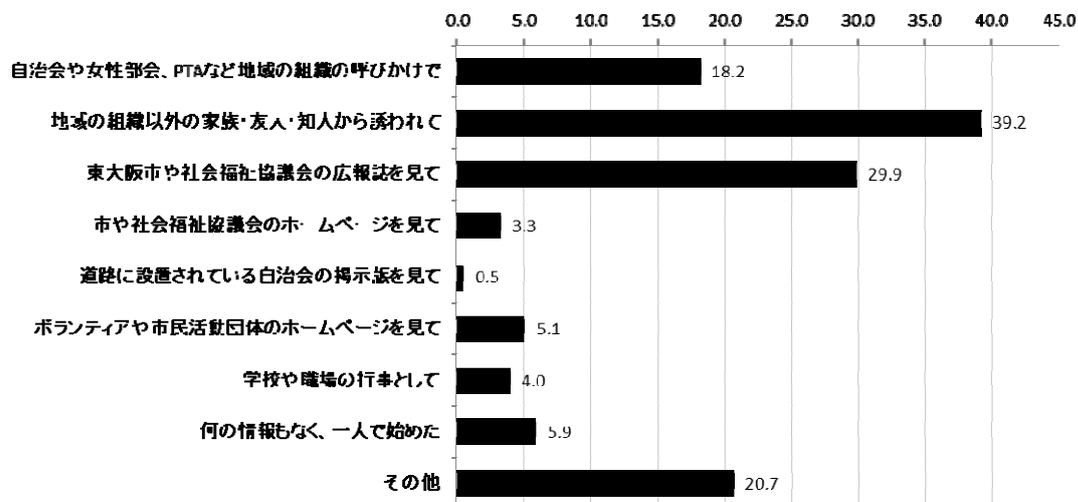


Q12 現在のボランティア活動を始めた最初のきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

ボランティア活動に参加したきっかけは、地域組織や地域組織以外の人々の呼びかけや誘い、および広報誌の影響が大きい。

《度数分布の結果》

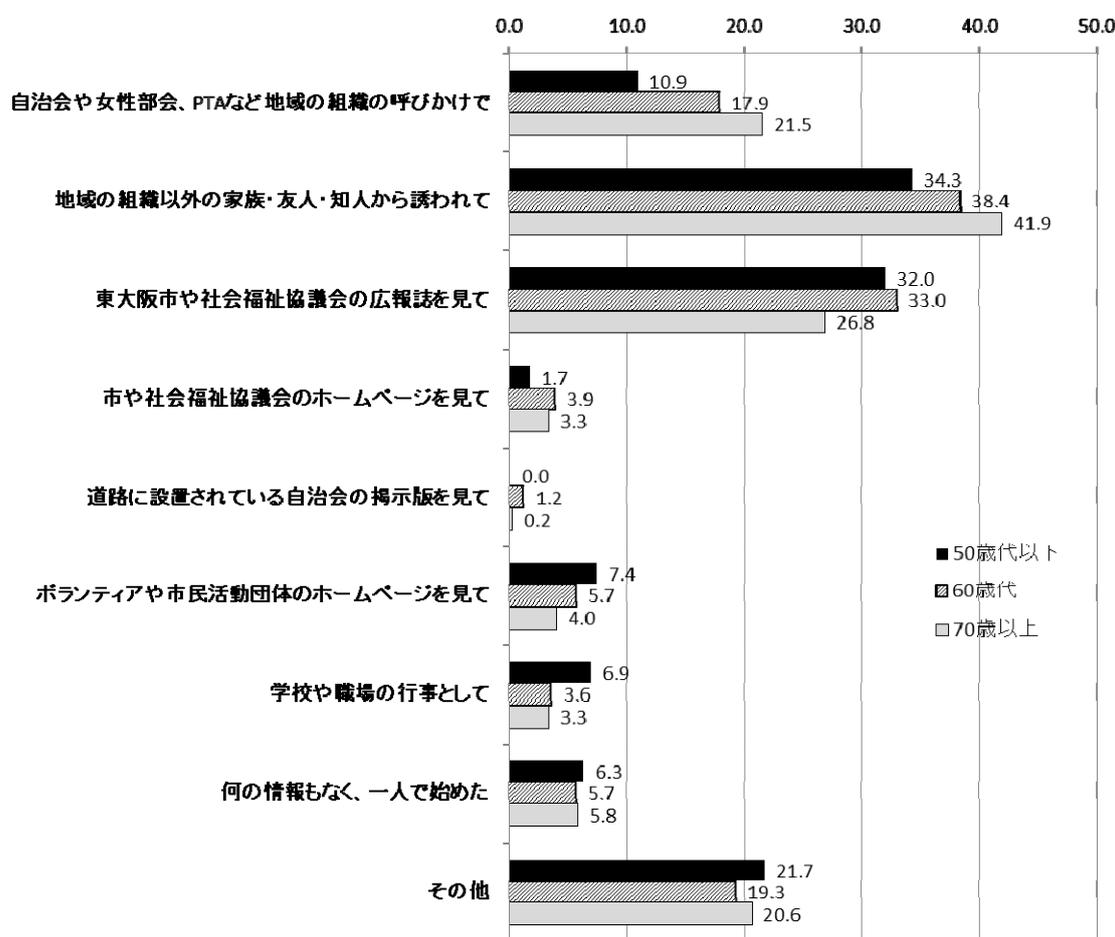
ボランティア活動を始めた最初のきっかけが最も多かったのは、「地域の組織以外の家族・友人・知人から誘われて」の39.2%である。次に、「東大阪市や社会福祉協議会の広報誌を見て」の29.9%が多い。3番目に多かったのは、「自治会や女性部会、PTAなど地域の組織の呼びかけで」の18.2%である。最も少なかったものは「道路に配置されている自治会の掲示板を見て」の0.5%である。この結果から、身近な居住地域内の人々の口コミや広報誌が、ボランティア活動の認知度および参加のきっかけに影響していることが分かる。



ボランティア活動を始めたきっかけ (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

分析の結果、年齢層によって参加のきっかけが異なることが明らかになった。50歳代以下の層では、市や社会福祉協議会の広報誌（32.0%）、ボランティアや市民団体のホームページ（7.4%）、学校や職場の行事（6.9%）から、というきっかけが目立つ。逆に70歳以上の高齢層では、地域組織の呼びかけ（21.5%）や家族・友人・知人からの誘い（41.9%）といった口コミの影響が目立つ。



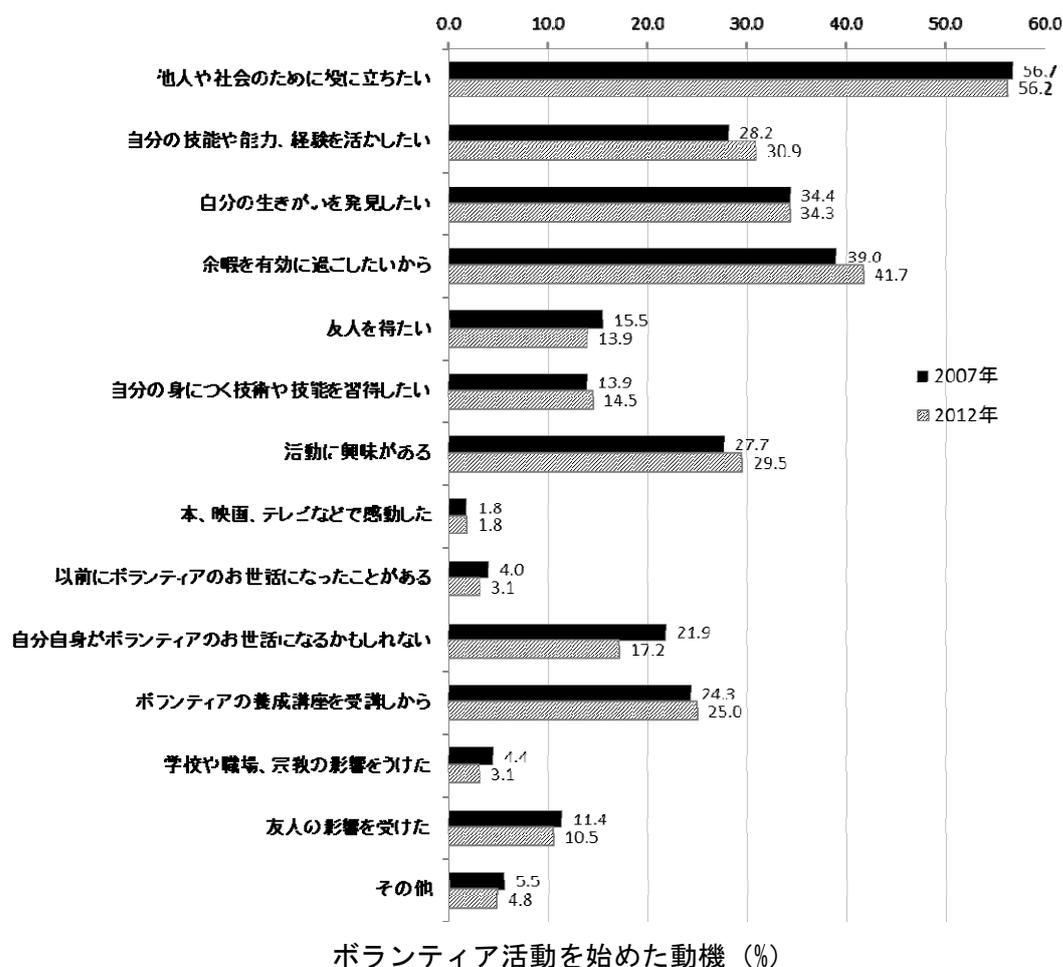
年齢層別ボランティア活動を始めたきっかけ（%）

Q13 あなたが現在のボランティア活動をはじめた動機は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

ボランティアを始めた動機の1位は「他人や社会のために役に立ちたい」、2位は「余暇を有効に過ごしたい」、第3位が「自分の生きがいを発見したい」。年齢層によって動機が異なる。

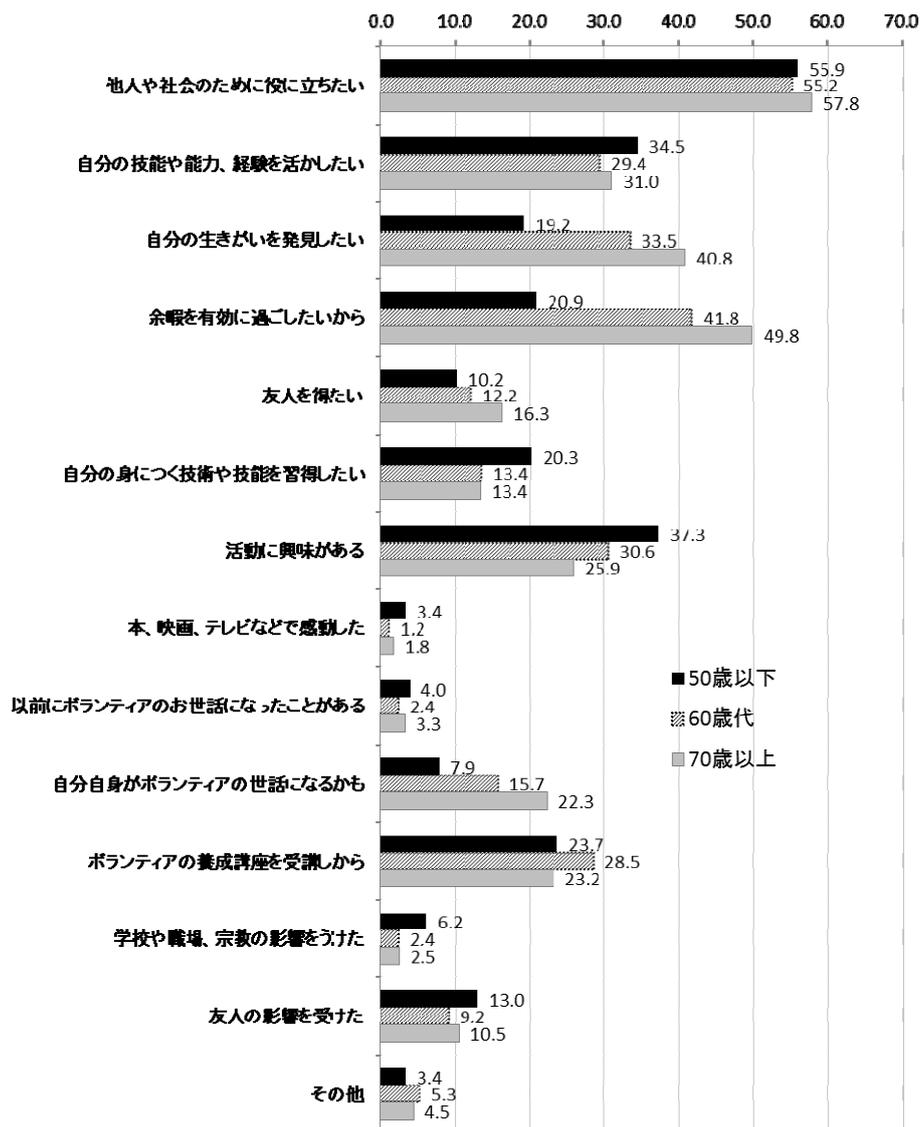
《度数分布の結果》

ボランティア活動を始めた動機をみると、2007年とほぼ同様の結果が得られた。「他人や社会のために役に立ちたい」という動機が最も多く56.2%である。次いで、「余暇を有効に過ごしたい」(41.7%)であり、第3位が「自分の生きがいを発見したい」(34.3%)である。他人のために、といった利他的な動機だけでなく、ライフスタイルや生きがい作りといった自分自身にメリットになる動機も上位に挙げられている点が興味深い。60歳以上のボランティアが多いが、ボランティア活動は自分自身のライフスタイルを豊かにしていくような活動として捉えられているともいえる。



《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

年齢層別にみると、「他人や社会のために役に立ちたい」はどの年齢層でも高い割合を示している。50歳代以下の層で多い動機は、「自分の技能や能力、経験を活かしたい」、「活動に興味がある」、「技術や技能を習得したい」である。ボランティアの活動内容に共感でき、その活動において自分自身の能力を活かし、高めることができる、という要素が重要視されている。逆に70歳以上の層で多い動機は、「生きがいを発見したい」、「余暇を有効に過ごしたい」、「友人を得たい」、「自分自身がボランティアのお世話になるかもしれない」といったものであり、老年期のライフスタイルの再構築や地域内での助け合いの仕組みづくりに関心があるようである。



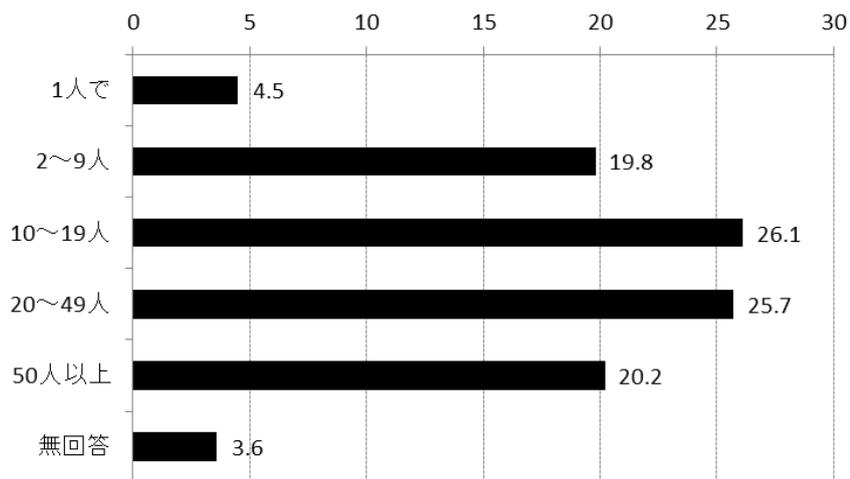
年齢層別ボランティア活動を始めた動機 (%)

Q14 現在のボランティア活動はおおよそ何人のメンバーでしていますか。複数の団体に加入している方は、最も積極的に参加している団体についてお答えください。

団体のメンバーが10人～19人の規模が一番多く、次いで20～49人の規模が多い。

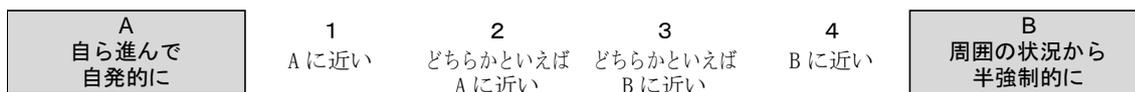
《度数分布の結果》

ボランティア団体のメンバーの人数が10人～19人が一番多く26.1%である。次いで、20人～49人の25.7%、50人以上の団体で活動している人は20.2%である。1人で活動している人は4.5%と少ない。ボランティア団体のメンバーの規模は、少ないものから多いものまで多様である。



活動しているボランティア団体のメンバーの数 (%)

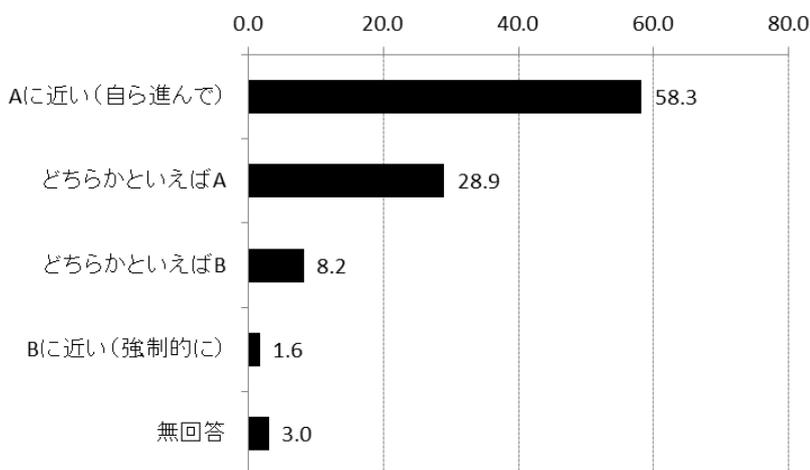
Q15 あなたがボランティア活動に参加した時の状況は、次のA・Bのどちらに近かったですか。あてはまる番号(1～4)に○をつけてください。



自発的にボランティアを始めた人が87.2%を占め、半強制的にボランティアを始めた人は1割以下である。

《度数分布の結果》

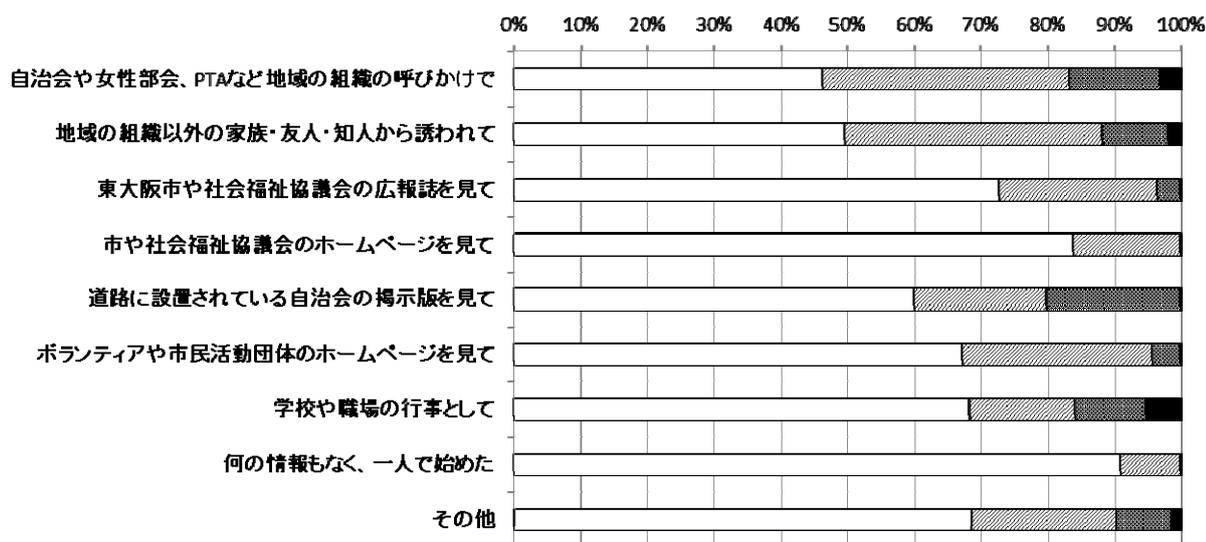
自ら自発的にボランティア活動を始めた人が圧倒的に多い一方で、わずかではあるが半強制的に始めた人も存在する。半強制的にボランティアを始めた人が、今後自発的に参加できるような環境づくりを考えていく必要があるだろう。



ボランティア参加時の状況 (A: 自発的～B: 半強制的) (%)

《クロス集計分析の結果（参加のきっかけ別）》

参加のきっかけによって、参加時の自発性・半強制性は異なるだろうか。分析の結果をみると、地域組織の呼びかけや友人・知人からの勧誘では、参加時の自発性が若干低い傾向にある。逆に、広報誌やホームページを経由した参加では、参加時の自発性が高い傾向にある。半強制的に参加したと回答するボランティアは、活動を短期間で辞めてしまう可能性が高いと考えられる。ただ、ボランティアの数が増えればよい、と考えるのではなく、より自発的に参加できるような仕組みづくりについて、今後検討する必要がある。



□ 自発的に ■どちらかといえば自発的に ■どちらかといえば半強制的に ■半強制的に

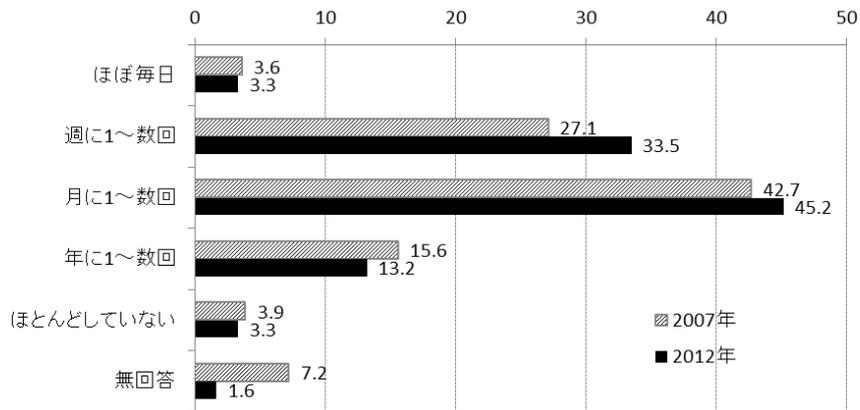
参加のきっかけ別参加時の状況 (%)

Q16 現在、あなたはどのくらいの頻度で、ボランティア活動を行っていますか。

ボランティア活動の頻度は、2007年と比較して、緩やかな増加傾向にある。月に1～数回活動している人が最も多い。高齢層の方が頻繁に活動している。

《度数分布の結果》

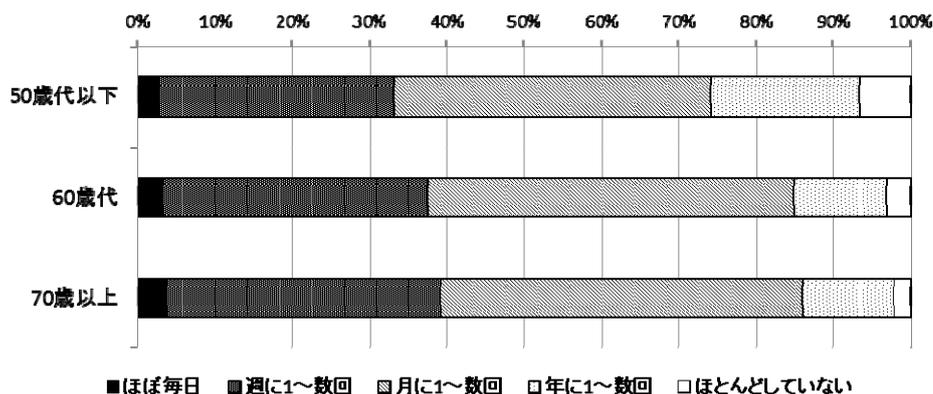
2007年と2012年を比較すると、ボランティア活動に頻繁に参加している人の割合が緩やかに増加している。週に1～数回参加している割合が6ポイント増加し33.5%、月に1～数回参加している割合が3ポイント増加し45.2%となっている。



ボランティア活動の頻度 (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

年齢層別にボランティアの活動頻度をみると、50歳代以下で活動頻度が低く、60歳以上で高いという傾向が読み取れる。50歳代以下では就労している者が多く、頻繁に活動することが難しいのであろう。



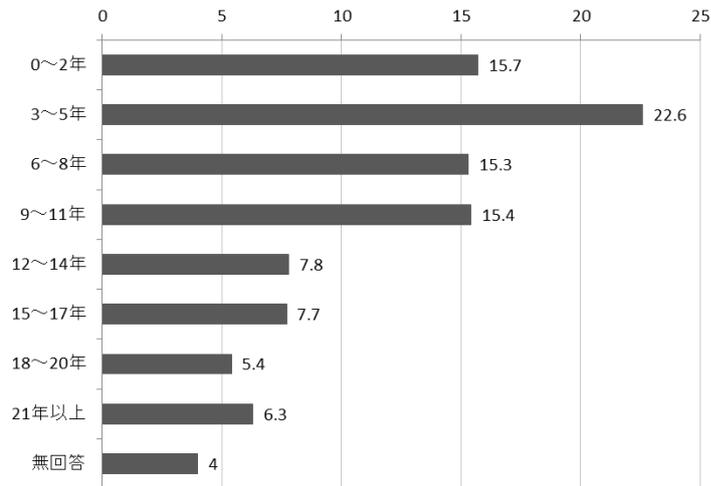
年齢層別ボランティア活動の頻度 (%)

Q17 あなたは、現在行っているボランティア活動を何年間続けていますか。

ボランティア活動の継続期間は、3～5年が最も多い。年齢層が高いほど、継続期間も長くなる傾向にある。

《度数分布の結果》

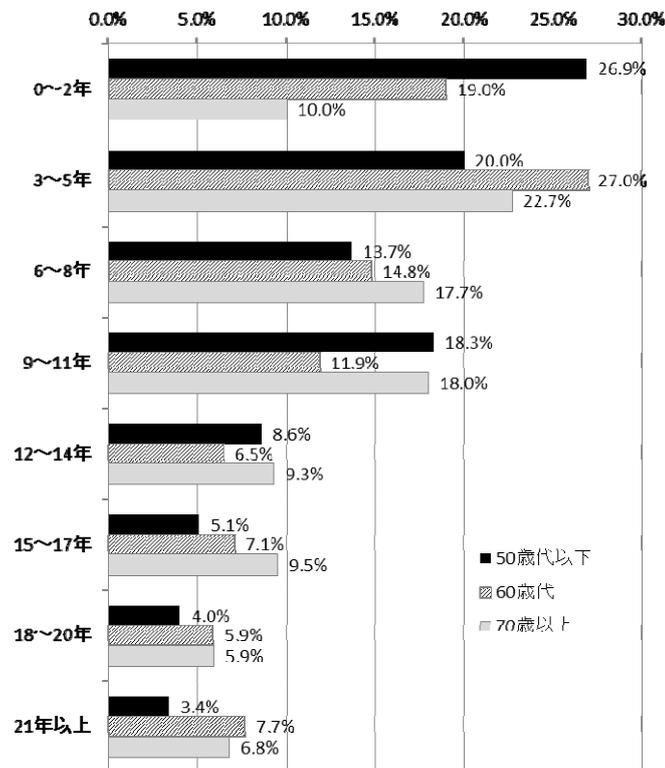
ボランティア活動の継続年数は、おおむね0～11年の間に分布しているが、3～5年が22.6%と最も多い。12年以上を境に、ボランティア活動を継続する割合が低下している。しかし、21年以上継続しているボランティアも6.3%いる。今後、ボランティア活動を取り巻く環境を整えることにより、ボランティアがより長く活動を継続できるようにすることが必要である。



ボランティア活動の継続年数 (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

年齢層別にボランティア活動の継続期間をみると、50歳代以下の層では、0～2年が26.9%と最も多く、次いで3～5年が20.0%となっている。60歳代では、3～5年が27.0%と最も多く、次いで0～2年が19.0%となる。70歳以上の層では、3～5年が22.7%と最も多く、次いで9～11年が18.0%となる。先に、ボランティア活動を始めた年齢において、60歳代から始めた割合が多いことを確認したが、この時期から5年以上続くかどうかが大なるポイントになりそうである。ボランティア活動中に生じる不満や問題点を少しでも軽減することで、ボランティア活動を続けたい人が、できるだけ長く続けられるような取り組みが必要であろう。



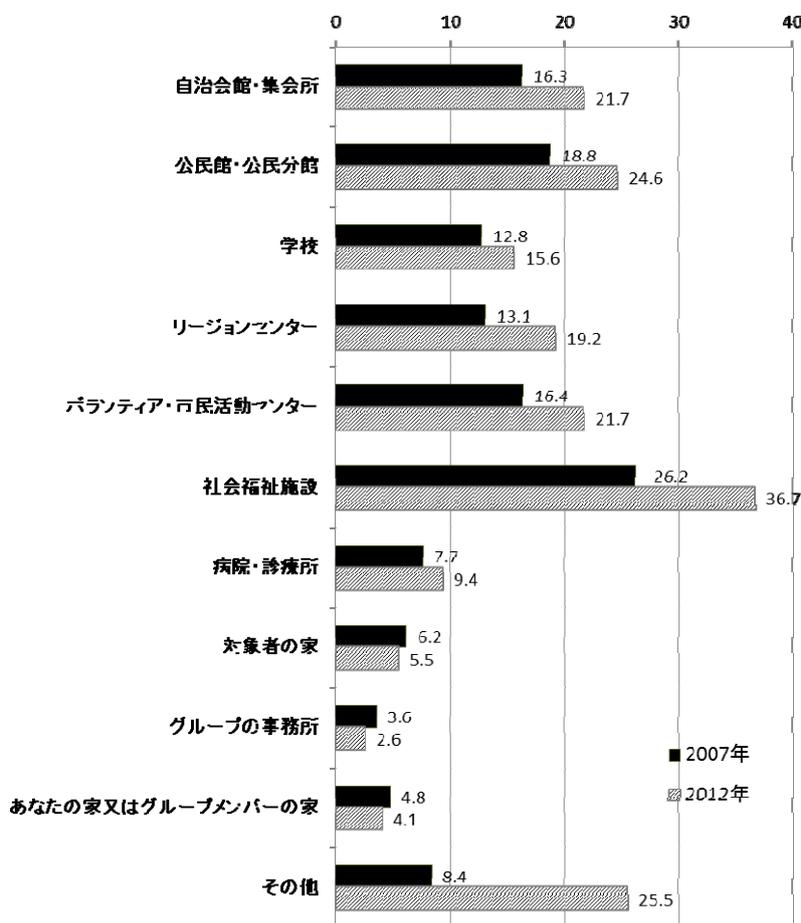
年齢層別ボランティア活動の継続年数 (%)

Q18 あなたが行っているボランティア活動の活動場所はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

一番多く利用されている活動場所は社会福祉施設であり、次いで「公民館・公民分館」や「自治会館・集会所」、「ボランティア・市民活動センター」と続く。

《度数分布の結果》

2007年と2012年のいずれの年でも、最も多い活動場所は「社会福祉施設」である。次に多く利用されているのは「公民館・公民分館」である。3番目に多く利用されているのは、「自治会館・集会所」と「ボランティア・市民活動センター」となっている。ほとんどの施設において、2007年より2012年の方が利用率が高くなっている。



ボランティア活動の活動場所 (%)

《クロス集計分析の結果（活動分野別・地域別）》

ボランティア活動内容によって、活動場所がどのように異なるのかをクロス集計表によって示す。「その他の場所」を除き、よく利用される活動場所の上位3つを灰色にハイライトしている。「自治会館・集会所」の利用が最も多いボランティア活動は、「まちづくり活動」、「環境保全活動」、

「災害救援活動」、「地域安全活動」である。「公民館・公民分館」の利用が最も多いボランティア活動は、「国際協力活動」である。「学校」の利用が最も多いボランティア活動は「子どもの健全育成活動」である。「ボランティア・市民活動センター」の利用が最も多いボランティア活動は、「人権擁護・平和推進活動」である。「社会福祉施設」の利用が最も多いボランティア活動は、「保健・医療・福祉活動」、「社会教育活動」、「学術・文化・芸術・スポーツ活動」、「男女共同参画社会の促進活動」である。

リージョン別に活動場所をみると、「自治会・集会所」の利用はB、D、E、Fで多く、「公民館・公民分館」の利用はC、E、F、Gが多い。「学校」の利用は、A、E、Gが多い。リージョンセンターはA、D、Eが多い。「ボランティア・市民活動センター」はC以外の地域で多い。

ボランティア活動の内容別活動場所の利用率（％）

	自治会館・集会所	公民館・公民分館	学校	リージョンセンター	ボランティア・市民活動センター	社会福祉施設	病院・診療所	対象者の家	グループの事務所	メンバーの家
保健・医療・福祉の増進を図る活動	24%	26%	17%	20%	25%	48%	13%	7%	3%	5%
社会教育の推進を図る活動	18%	33%	27%	26%	32%	35%	5%	6%	8%	6%
まちづくりの推進を図る活動	39%	35%	22%	33%	23%	30%	12%	6%	5%	9%
学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動	23%	28%	19%	21%	28%	42%	11%	4%	4%	3%
環境の保全を図る活動	29%	19%	28%	13%	24%	27%	7%	16%	6%	4%
災害救援活動	55%	41%	27%	27%	50%	50%	18%	27%	5%	23%
地域安全活動	53%	39%	33%	24%	28%	28%	8%	15%	4%	6%
人権の擁護または平和の推進を図る活動	28%	36%	36%	20%	44%	36%	12%	16%	20%	24%
国際協力の活動	17%	48%	5%	42%	13%	13%	5%	2%	2%	8%
男女共同参画社会の形成の促進を図る活動	35%	35%	25%	29%	31%	44%	10%	10%	19%	13%
子どもの健全育成を図る活動	32%	33%	39%	34%	23%	37%	8%	7%	6%	11%

リージョン別活動場所の利用率（％）

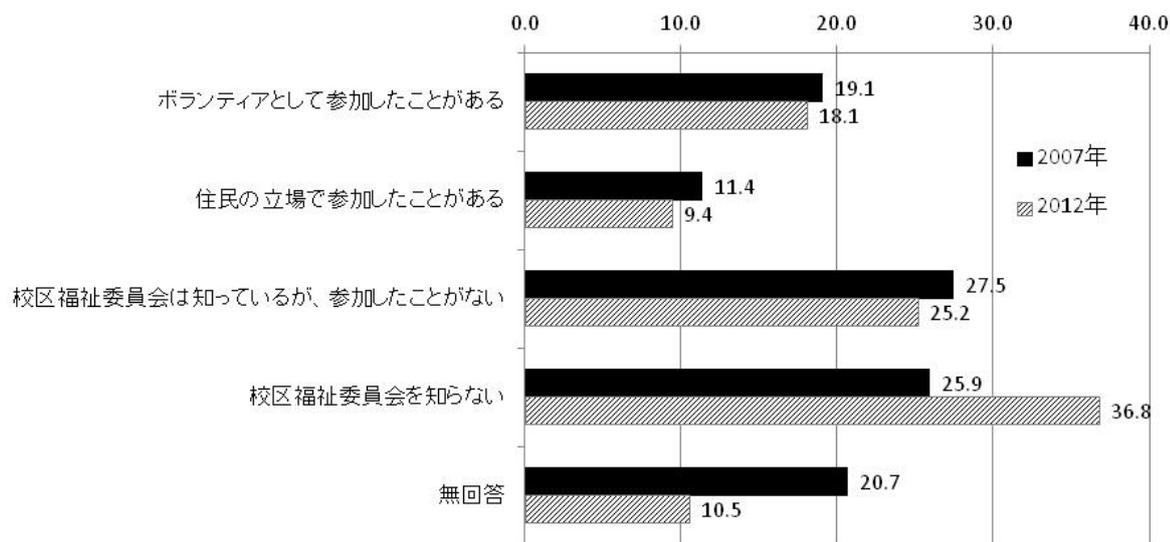
	自治会館・集会所	公民館・公民分館	学校	リージョンセンター	ボランティア・市民活動センター	社会福祉施設	病院・診療所	対象者の家	グループの事務所	メンバーの家
A	14%	17%	21%	28%	23%	28%	1%	9%	2%	4%
B	25%	16%	19%	20%	24%	37%	10%	7%	3%	3%
C	19%	24%	11%	18%	16%	35%	6%	10%	0%	0%
D	23%	19%	13%	22%	21%	39%	10%	6%	2%	5%
E	24%	27%	24%	22%	22%	38%	9%	4%	4%	7%
F	23%	28%	9%	13%	24%	36%	12%	5%	3%	5%
G	17%	32%	25%	16%	23%	34%	10%	7%	6%	4%

Q19 あなたは校区福祉委員会の活動に参加していますか。

校区福祉委員会を知らない割合が依然として高い。校区福祉委員会への参加率（ボランティアとして+住民として）は3割程度である。

《度数分布の結果》

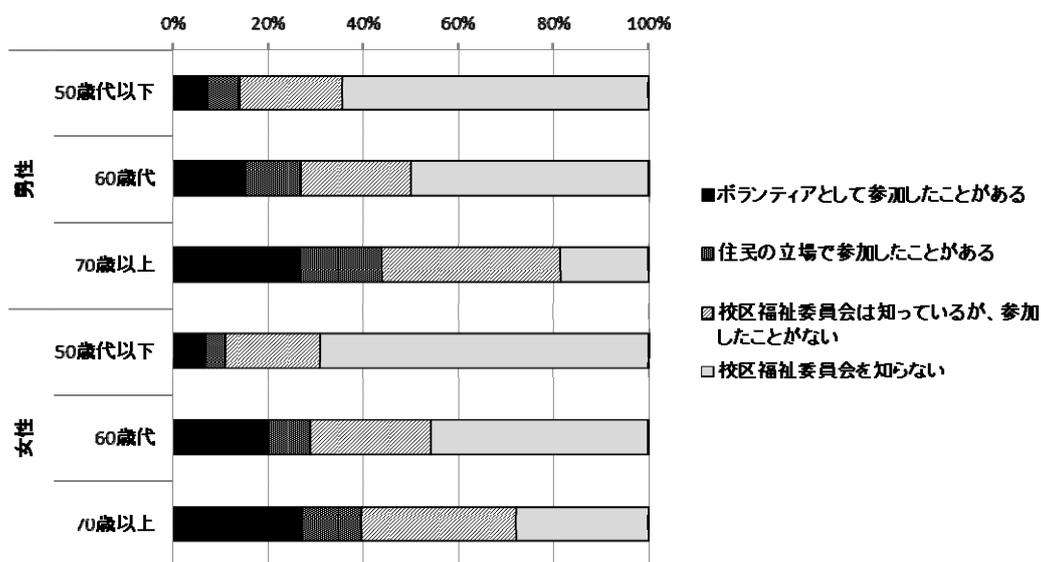
校区福祉委員会活動の認識については、2007年と比較して、2012年に増加しているとはいえない。「ボランティアとして参加したことがある」は18.1%、「住民の立場で参加したことがある」が9.4%となっており、2007年と比較して校区福祉委員会への参加率に変化はみられない。「校区福祉委員会を知らない」とする割合は36.8%となっており、2007年よりも増加したように見えるが、これは無回答の影響であろう。2007年調査では、無回答が20.7%と多いが、この多くは「校区福祉委員会を知らない」人々であると思われる。ボランティアの3人に1人は校区福祉委員会活動を知らない。



校区福祉委員会活動への参加と認知度 (%)

《クロス集計分析の結果（性別・年齢層別）》

校区福祉委員会活動について、目立った男女差はない。年齢層による違いは明確である。50歳代以下では、「ボランティアとして参加したことがある」「住民の立場で参加したことがある」と回答した割合が15%程度にとどまるが、70歳以上の層では、4割程度まで増加する。50歳代以下では、「校区福祉委員会を知らない」と回答した割合が6割を超えるが、70歳以上の層では2~3割程度である。



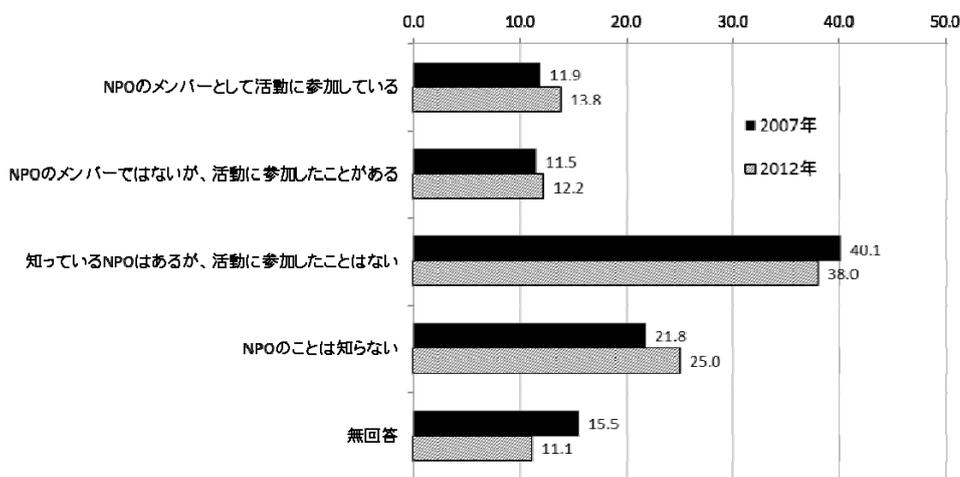
性別・年齢層別校区福祉委員会活動への参加と認知度 (%)

Q20 あなたはNPO（非営利組織）の活動に参加していますか。

「知っているNPOはあるが、活動に参加したことがない」が依然として最も多く、NPO活動への参加率（メンバーとして+メンバー以外で）は26%程度となっている。

《度数分布の結果》

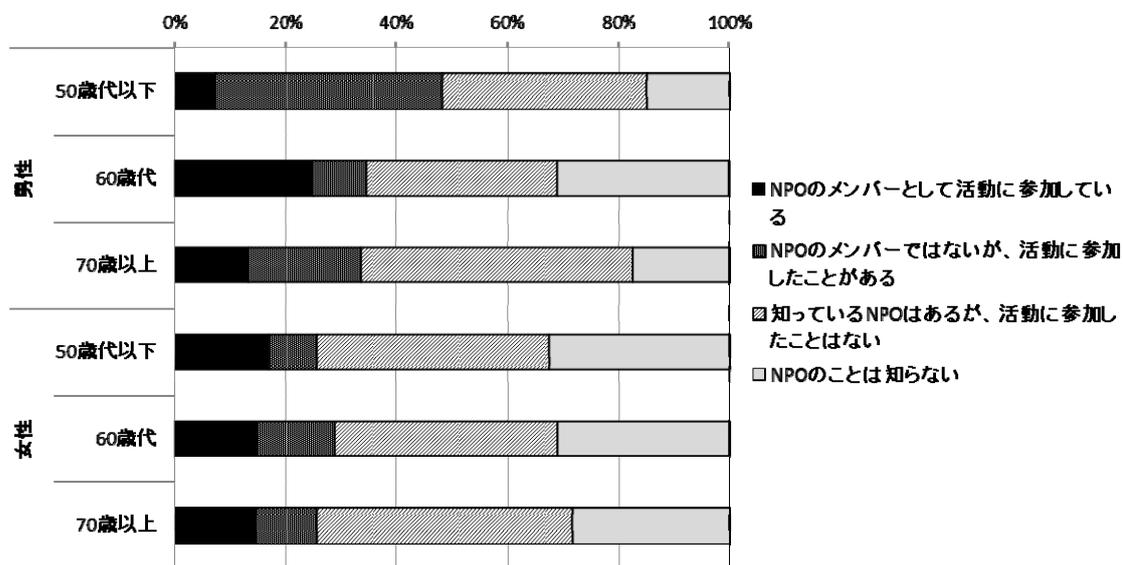
NPO活動についても、2007年と比較して大きな変化はみられない。「知っているNPOはあるが、活動に参加したことはない」が38.0%と最も多く、次いで「NPOのことは知らない」とする割合が25.0%となっている。NPOになんらかの形でかかわった経験がある人の割合は、26.0%となっている。



NPO活動への参加と認知度 (%)

《クロス集計分析の結果》

NPO 活動について、男性は女性よりも参加率および認知度が若干高い傾向にある。特に 50 歳代の男性において、NPO への参加率が 5 割前後と高い。



性別・年齢層別 NPO 活動への参加と認知度 (%)

Q23 あなたが現在行っているボランティア活動の地理的な範囲は、おおよそどのくらいの範囲ですか。

ボランティア活動の地理的範囲は、東大阪市全域に及ぶものが 63.7%を占める。

《度数分布の結果》

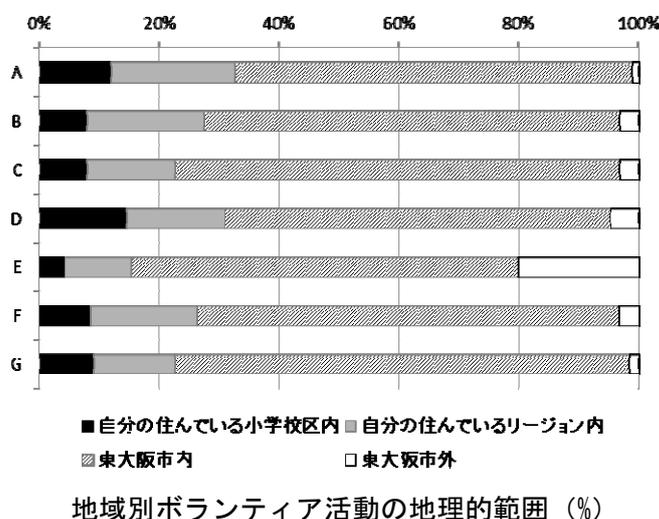
ボランティア活動の地理的な範囲を見ると、「自分の住んでいる小学校区内」が 10.1%、「自分の住んでいるリージョン内」が 15.0%と少ない傾向にある。多くのボランティアは東大阪市全域で活動している。東大阪市外での活動は 6.5%にとどまる。



ボランティア活動の地理的範囲 (%)

《クロス集計分析の結果（地域別）》

7つのリージョン別にボランティア活動の地理的範囲をみると、AやDのリージョンでは小学校区内での活動や、リージョン内での活動が若干多い傾向にある。Eリージョンでは大阪市外での活動が多い傾向にある。

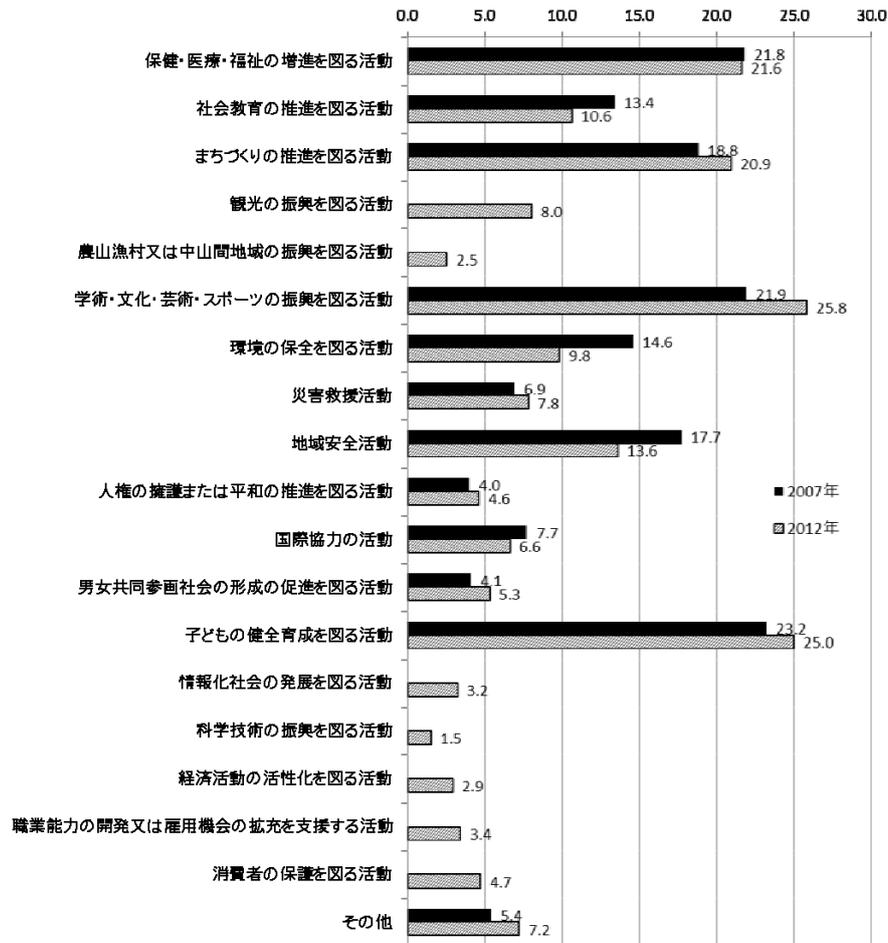


Q24 あなたは今後してみたいと思うボランティア活動がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

今後してみたいボランティア活動で上位に上がるのは、「学術・文化・スポーツの振興を図る活動」、「子どもの健全育成を図る活動」、「保健・医療・福祉の増進を図る活動」、「まちづくりの推進を図る活動」である。

《度数分布の結果》

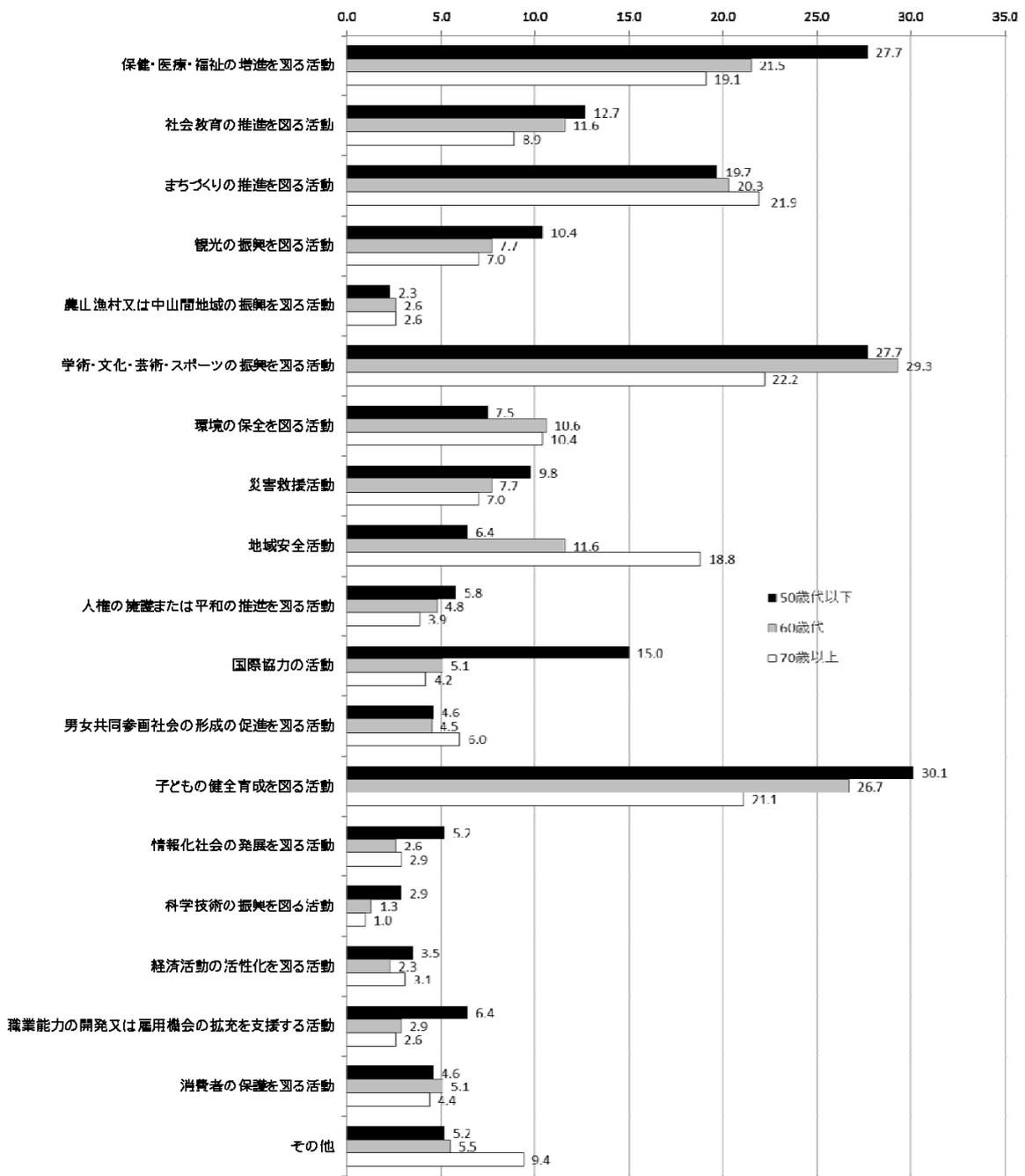
今後してみたいボランティア活動を尋ねると2007年と2012年で大きな変化は見られない。なお2007年の調査項目のうち、横棒グラフがないのは2012年のみで尋ねた調査項目である。今後してみたいボランティア活動のうち、回答割合が20%を超えるのは、「学術・文化・スポーツの振興を図る活動」(25.8%)、「子どもの健全育成を図る活動」(25.0%)、「保健・医療・福祉の増進を図る活動」(21.6%)、「まちづくりの推進を図る活動」(20.9%)である。



今後してみたいボランティア活動 (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

年齢層別に今後してみたいボランティア活動を分析すると、年齢層による違いが明確である。50歳代以下の層で人気が高いボランティア活動の分野は、「保健・福祉・医療」、「社会教育」、「観光」、「国際協力」、「子どもの健全育成」、「職業能力や雇用支援」である。逆に、高齢層で人気が高いボランティアの分野は、「まちづくり」、「環境保全」、「地域安全」である。年齢の若い層では子どもに関連する活動や身近な居住地域外に展開するボランティア活動に対して興味があるようであり、高齢層では身近な地域社会生活の改善に関するボランティア活動に対して興味があるといえる。



年齢層別今後してみたいボランティア活動 (%)

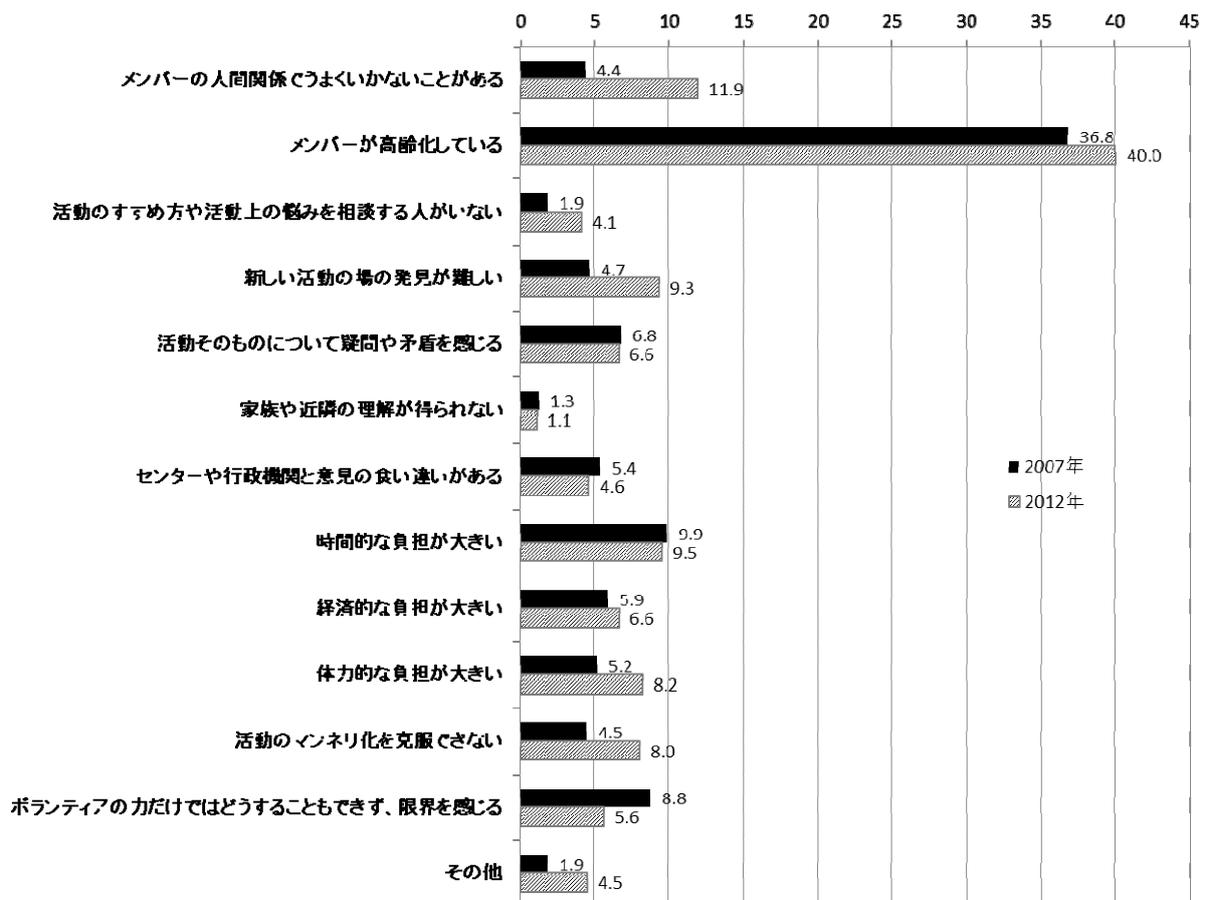
(3) ボランティア活動に対する評価

Q21 あなたはボランティア活動で次のような問題や悩みを感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

2007年と比較して大きな変化はないが、「メンバーの高齢化」と「メンバー間の人間関係」の問題に悩んでいるボランティアが増加している。年齢層によって感じる問題点や悩みが異なる。

《度数分布の結果》

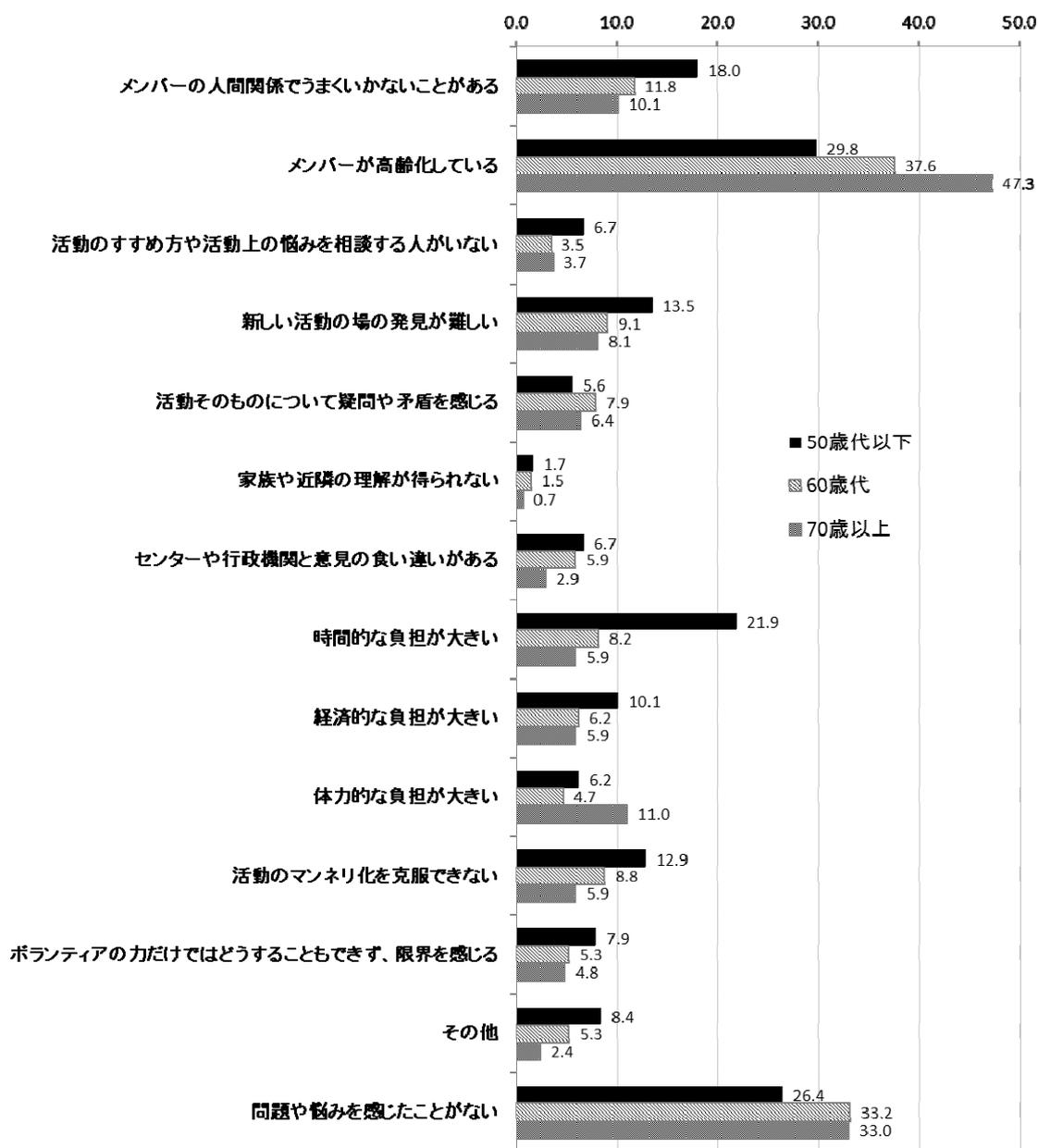
2007年と比較して、ある程度明確に増加した問題や悩みは、「メンバーの人間関係」、「メンバーの高齢化」、「悩みを相談する人がいない」、「新しい活動場所の発見」、「体力的な負担」、「活動のマンネリ化」である。これらの課題について、ボランティア・市民活動センターの機能強化を図るとともに、今後の地域福祉活動計画策定の中で特に力をいれなければならない改善点となるであろう。



ボランティア活動で感じる問題点や悩み (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

年齢層別にボランティア活動で感じる問題点や悩みを分析すると、年齢層によって異なる特徴が明らかとなった。50歳代以下では、「メンバーの人間関係」「悩みを相談する場所がない」、「新しい活動場所の発見が難しい」、「時間的な負担が大きい」、「活動のマンネリ化を克服できない」といった問題点が他の年齢層より多い傾向にある。特に「時間的な負担が大きい」と感じている割合は、他の年齢層と比較して格段に高く、就労しながらでも可能なボランティア活動のあり方が問われている。高齢層で多い悩みは「メンバーの高齢化」と「体力的な負担」である。



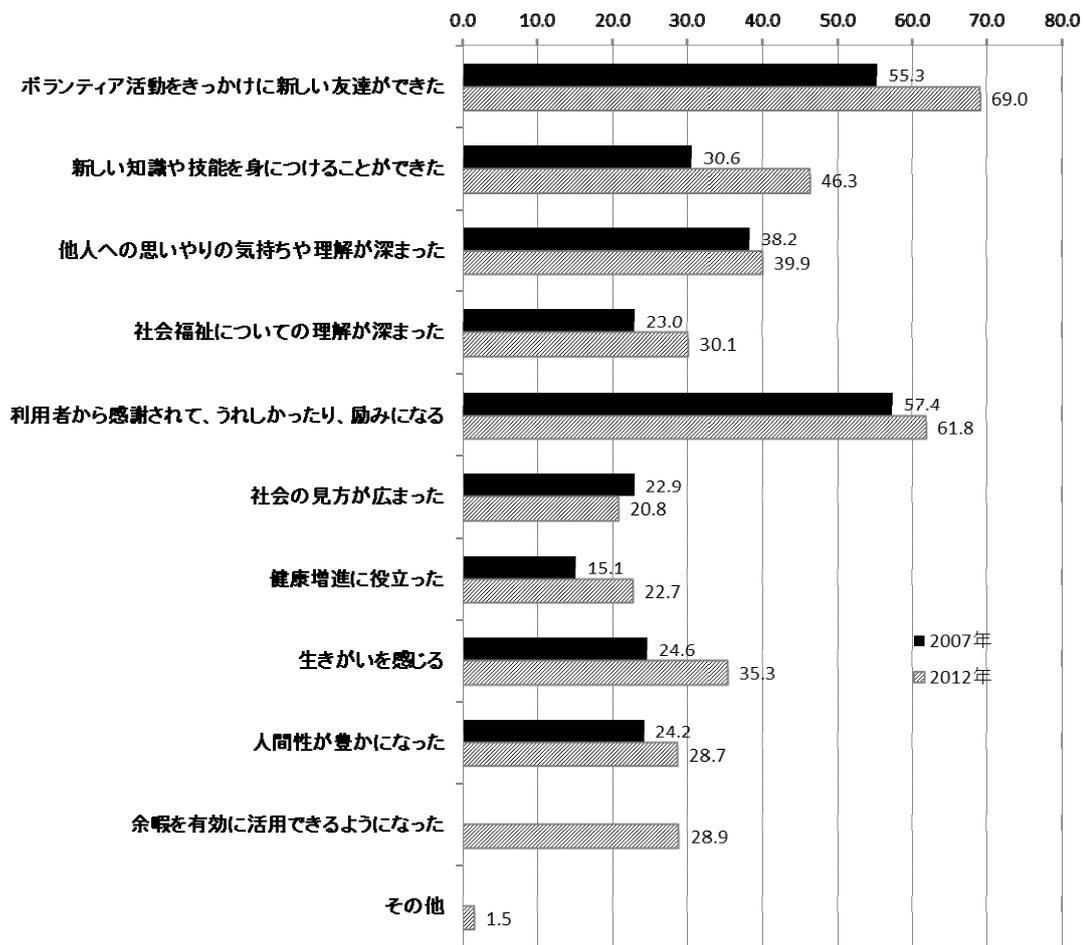
年齢層別ボランティア活動で感じる問題点や悩み (%)

Q22 あなたはボランティア活動で次のような良い点を感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

2007年と比較して良い点が増加している。「新しい友達ができる」、「新しい知識や技能が身についた」という回答が多い。ほとんどのボランティアが何らかの良い点があると回答している。

《度数分布の結果》

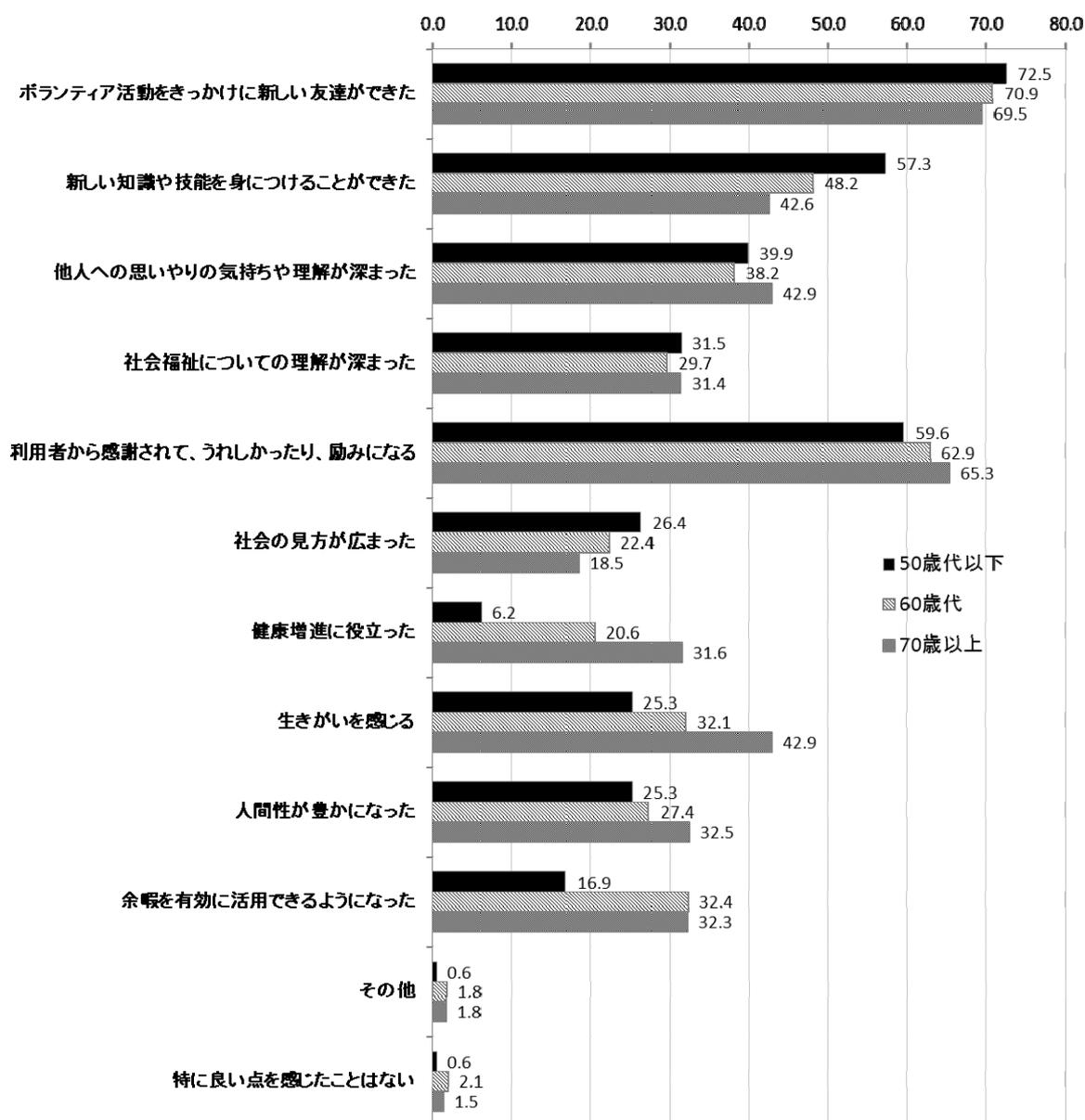
2007年と比較すると、ボランティア活動で感じる良い点は増加傾向にある。増加傾向が明確な項目は、「新しい友達ができる」、「新しい知識や技能を身につけることができた」、「社会福祉の理解が深まった」、「利用者から感謝され励みになった」、「健康増進に役立った」、「生きがいを感じる」などである。「新しい友達ができる」という回答が2012年で69.0%と最も多く、ボランティア活動を通じた人間関係の広がり、ボランティアにとって非常に重要であることが分かる。



ボランティア活動で感じる良い点 (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別）》

年齢層別にボランティア活動で感じる良い点を分析すると、年齢層によって異なる特徴が明らかとなった。50歳代以下の層で多い回答として「新しい知識や技能が身についた」、「社会の見方が広まった」が挙げられる。高齢層で多い回答として「利用者から感謝されて励みになる」、「健康増進に役立った」、「生きがいを感じる」、「人間性が豊かになった」、「余暇を有効に活用できるようになった」が挙げられる。特に高齢層では、「健康増進」や「生きがい」の項目への回答が多く、老年期のライフスタイルを豊かにするものとしてボランティア活動を捉えている面があることがうかがえる。



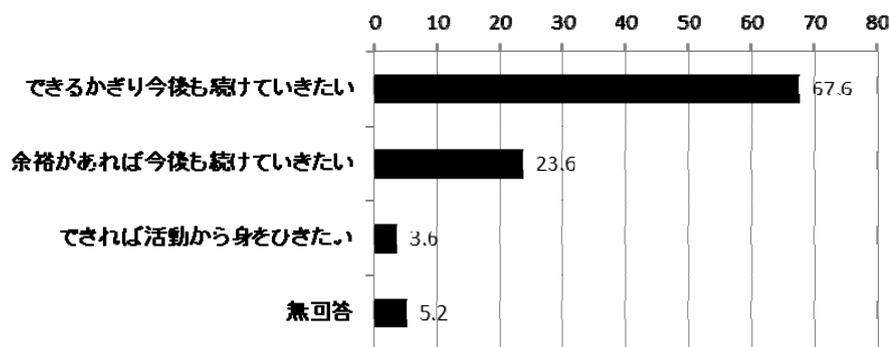
年齢層別ボランティア活動で感じる良い点 (%)

Q25 あなたは現在のボランティア活動を今後も続けたいと思いますか。

3人に2人が「できるかぎり今後もボランティア活動を続けていきたい」と回答している。

《度数分布の結果》

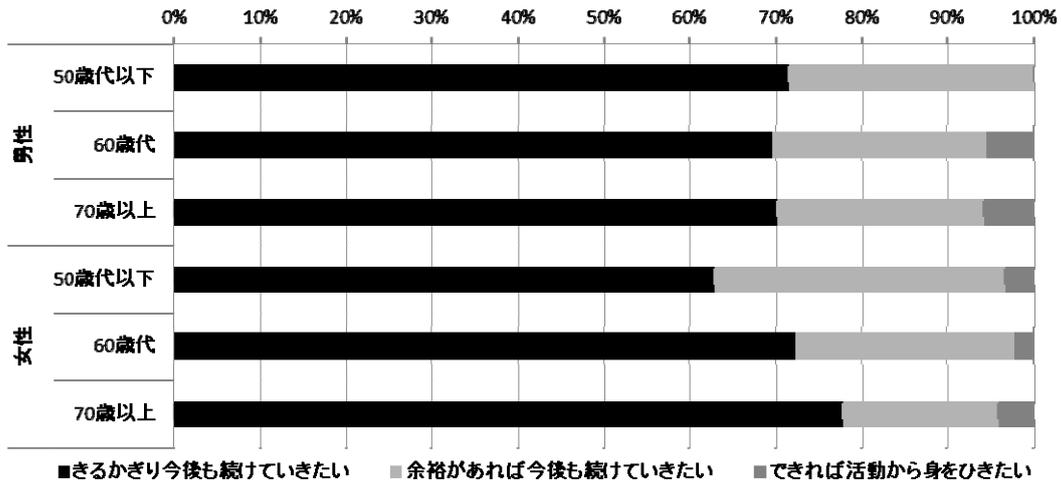
今後もボランティア活動をできる限り続けていきたいと回答した人が67.6%を占め、余裕があれば今後も続けていきたいが23.6%となっている。ほとんどのボランティアが今後の継続について肯定的な評価をしている。



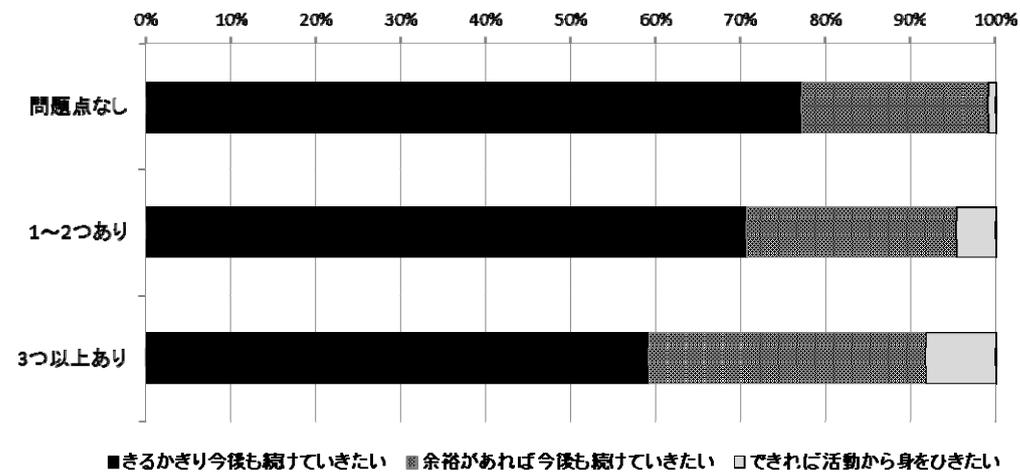
ボランティア活動の継続意向 (%)

《クロス集計分析の結果（性別・年齢層別・問題点・良い点）》

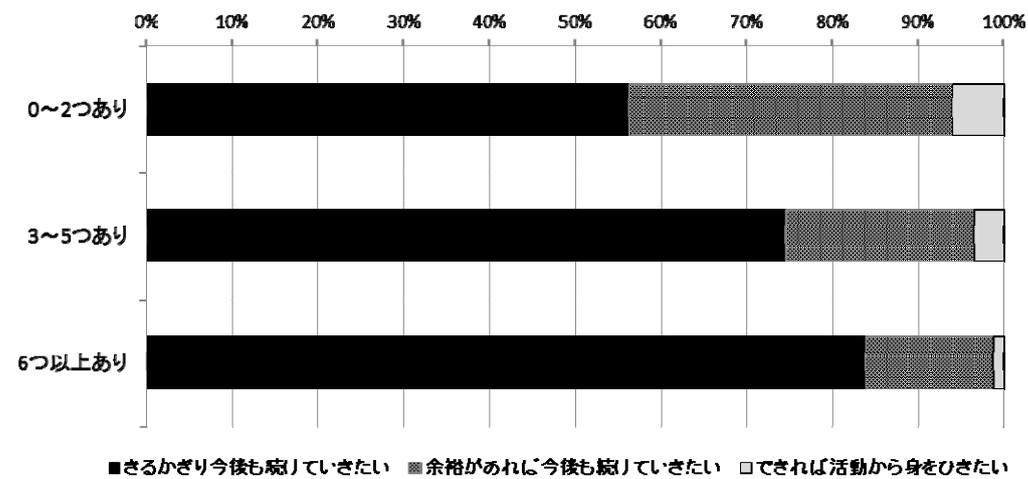
性別・年齢層別に今後の継続意向をみると、50歳代以下の女性において、継続意向が若干弱い傾向にあり、逆に70歳以上の女性では継続意向が強い傾向にある。先にみたボランティア活動で感じる問題点の数と今後の継続意向を分析したところ、感じる問題点の数が増えるほど、今後のボランティア継続意向は弱まることが明らかとなった。また逆にボランティア活動で感じる良い点の数と今後の継続意向を分析したところ、感じる良い点の数が増えるほど、今後のボランティア継続意向は強まることが明らかとなった。このことから、ボランティアが感じている問題点を減らし、良い点を増やしていくことが、ボランティアの活動継続にとって非常に重要なものとなることが明らかである。



性別・年齢層別ボランティア活動の継続意向 (%)



感じる問題点の数とボランティア活動の継続意向 (%)



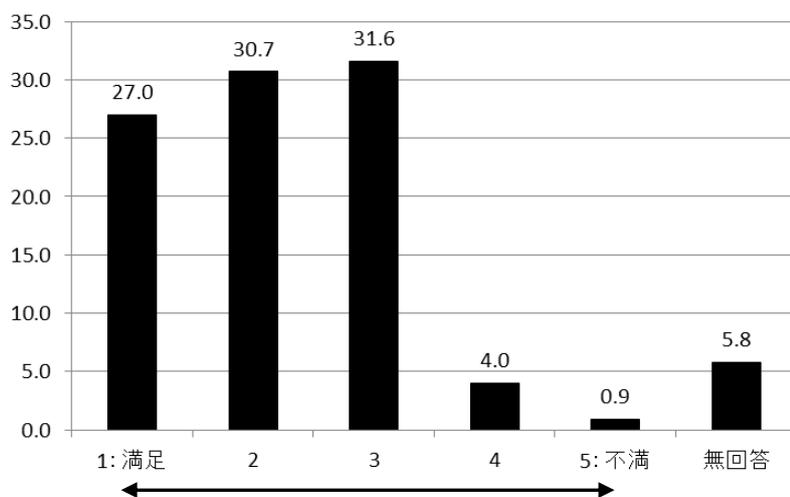
感じる良い点の数とボランティア活動の継続意向 (%)

Q26 あなたは、現在のボランティア活動に、どの程度満足していますか。

ボランティア活動の満足度は、「満足」方向に偏っているが、中間値である「3」（満足でも不満でもない）の回答割合の多さにも留意する必要がある。

《度数分布の結果》

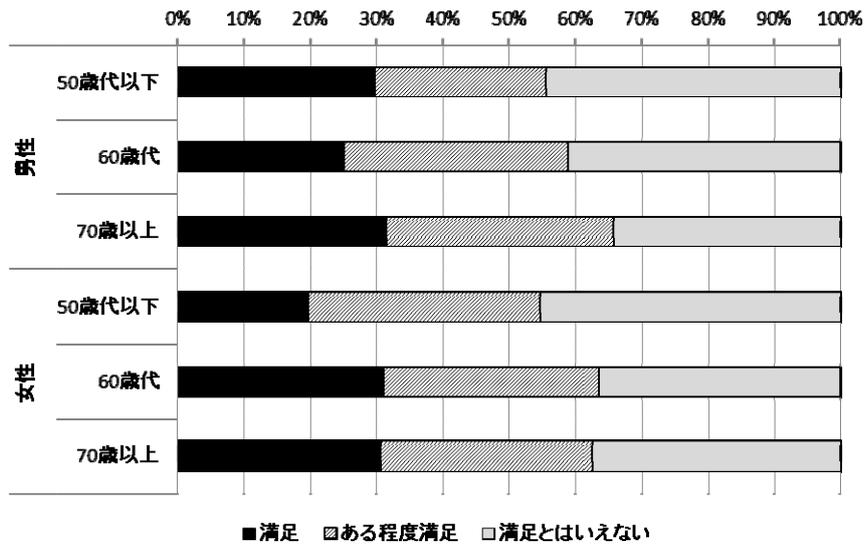
ボランティア活動に対する満足度の分布は、「1：満足」が27.0%、「2」（ある程度満足）が30.7%、「3」（満足でも不満でもない）が31.6%、「4」（やや不満）が4.0%、「5：不満」が0.9%である。おおむね満足方向に偏っているが、「3」の回答割合が多いことにも留意する必要がある。



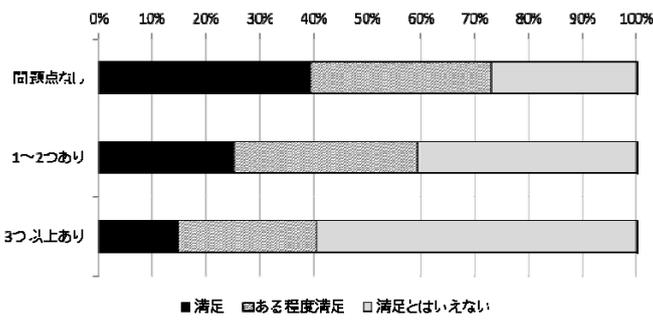
ボランティア活動に対する満足度 (%)

《クロス集計分析の結果（性別・年齢層別・問題点・良い点）》

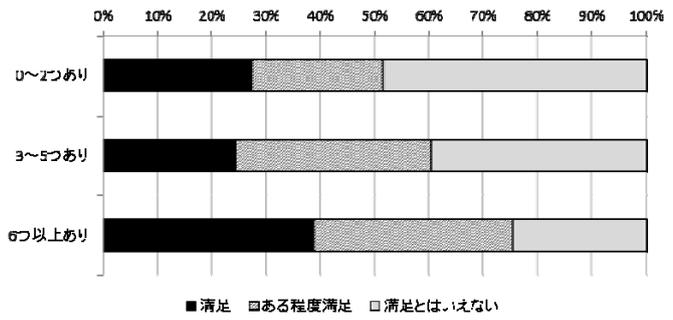
ここでは、上記の回答の「1：満足」を「満足グループ」、「2」を「ある程度満足グループ」、「3～5」を「満足とはいえないグループ」として3区分し、分析する。性別・年齢層別にこの3つのグループを分析すると、50歳代以下の女性で満足グループが少なく、満足とはいえないグループが多いことが分かる。この結果は、今後のボランティア継続意向と同様の結果である。ボランティア活動で感じる問題点の数と満足度を分析すると、感じる問題点が多いほど、満足度は低下する。逆に、良い点の数と満足度を分析すると、良い点が多いほど満足度は上昇する。ただし、その関連性は問題点の数ほど明確でない。ボランティア活動の満足度を高めるには、良い点を増やすよりも先に、問題点の改善を行うべきである。なお、満足度が低いグループでは、先にみた今後のボランティア継続意向も低い傾向にある。



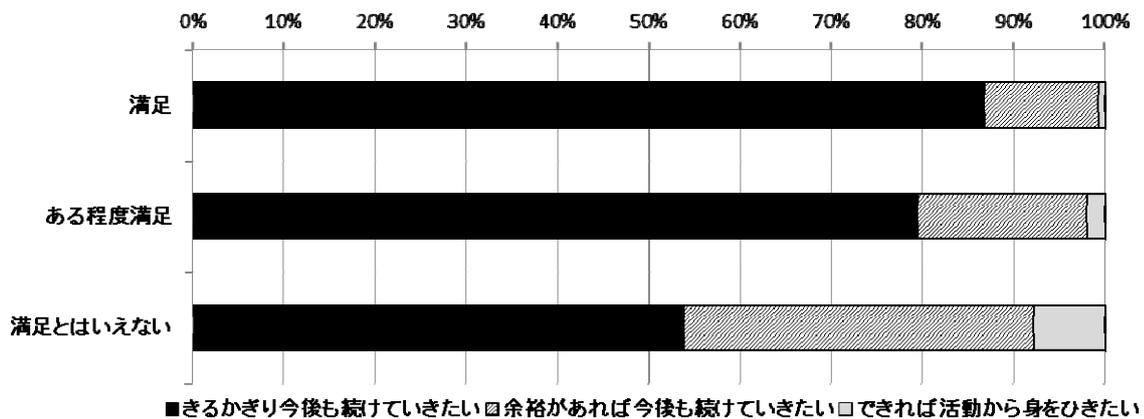
性別・年齢層別ボランティア活動に対する満足度 (%)



感じる問題点の数と満足度 (%)



感じる良い点の数と満足度 (%)



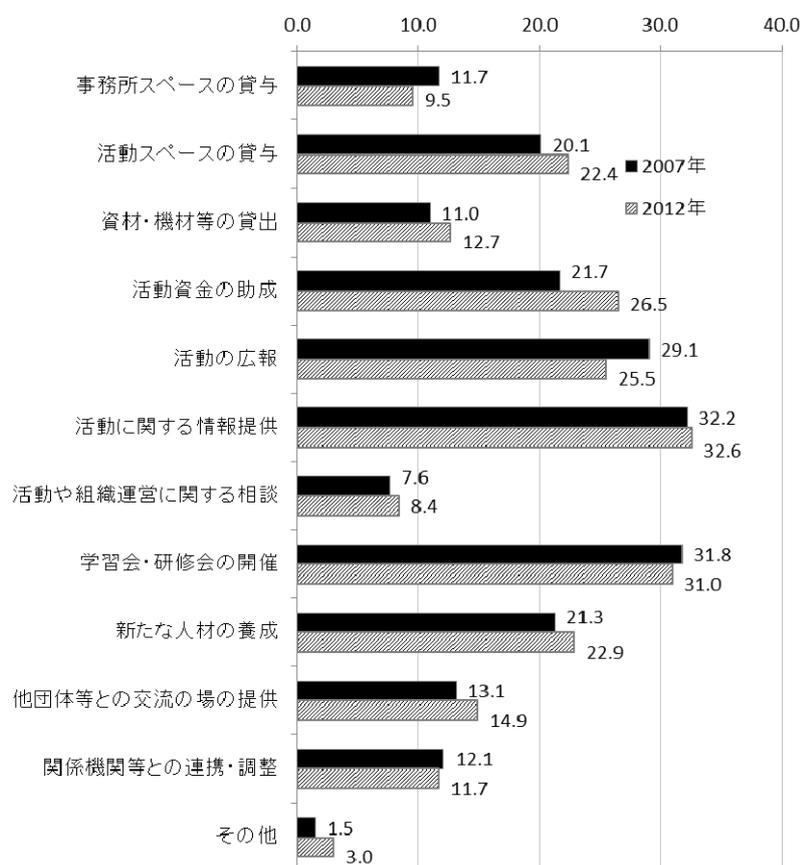
満足度と今後のボランティア継続意向 (%)

Q29 あなたは、社会福祉協議会「ボランティア・市民活動センター」にどのようなことを期待しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

ボランティア・市民活動センターに寄せられる期待として、「活動に関する情報提供」や「学習会・研修会の開催」、「活動資金の助成」、「活動の広報」が上位を占める。特に50歳代以下のボランティアからの要望が多い。

《度数分布の結果》

2012年調査において、「市民活動センター」に対する期待のうち最も回答が多いのは「活動に関する情報提供」(32.6%)、次いで「学習会・研修会の開催」(31.0%)、「活動資金の助成」(26.5%)、「活動の広報」(25.5%)と続く。これらは2007年と比較すると、大きな変化はなく、情報提供や広報活動の充実を望む声が上位を占めている。



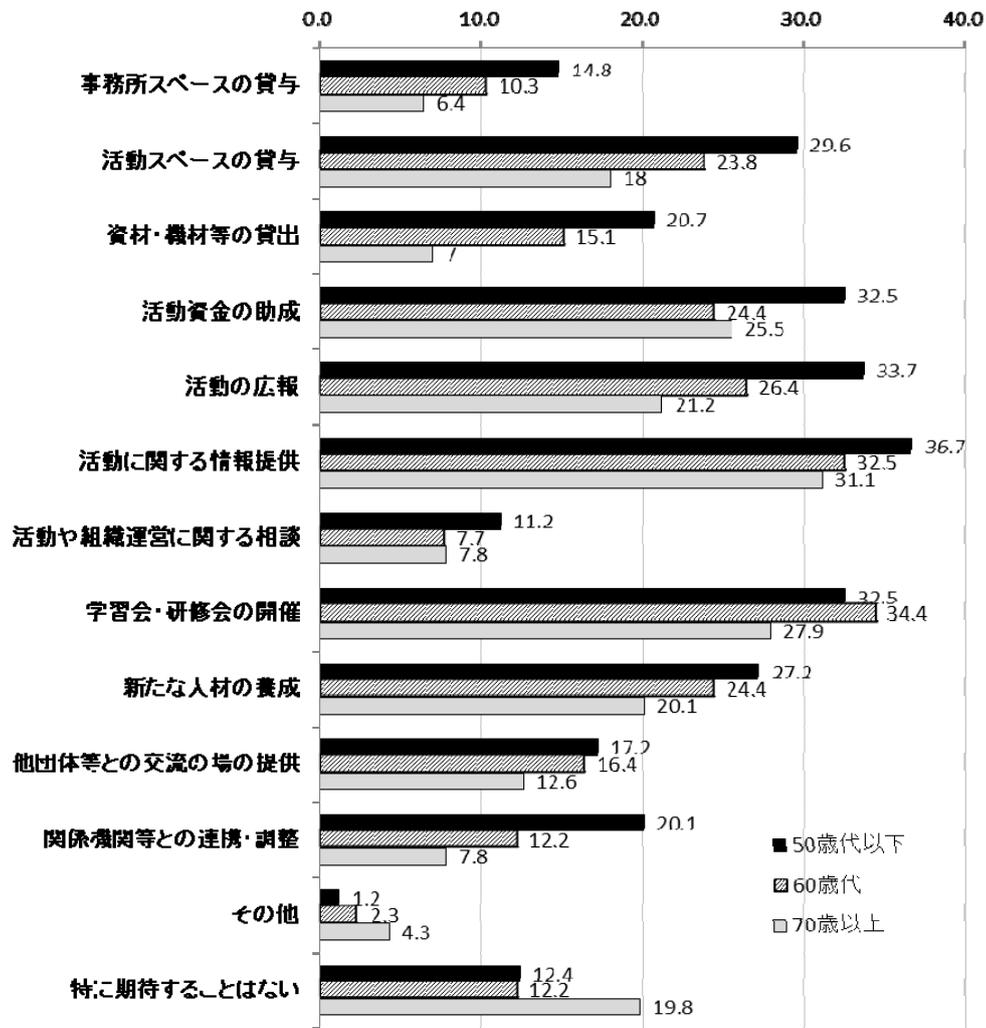
ボランティア・市民活動センターへの期待 (%)

《クロス集計分析の結果（年齢層別・ボランティア活動問題点別）》

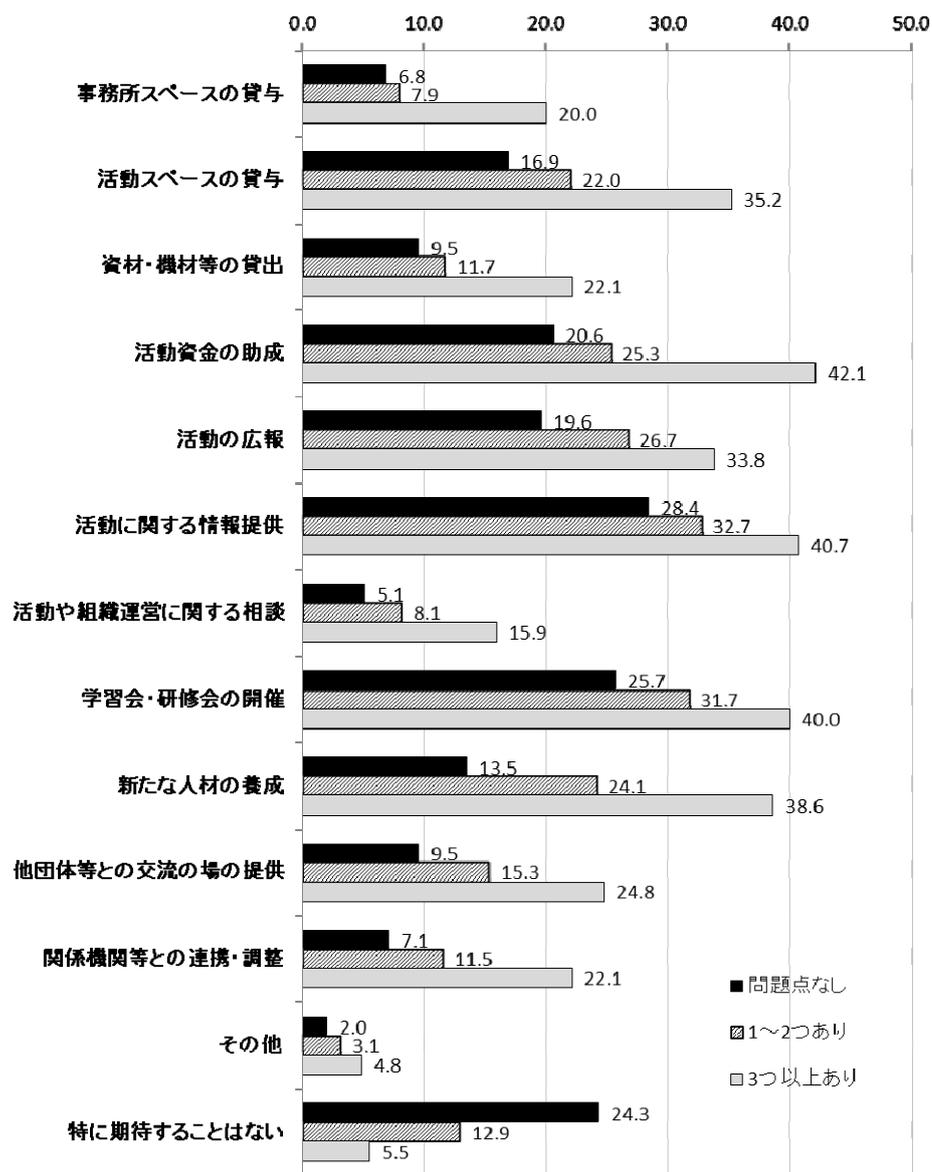
年齢層別にボランティア・市民活動センターへの期待を分析すると、50歳代以下の層において、ボランティア・市民活動センターへの期待や要望が多いことが分かる。50歳代以下の比較的若いボランティアは、ボランティア活動満足度においても高齢層と比較して低い傾向にあり、その改善をボランティア・市民活動センターに期待しているといえる。50歳代以下のボランティアは、

活動継続年数もあまり長くないこともあり、ボランティア・市民活動センターのサポートやコーディネートが欠かせないといえよう。

ボランティア活動で感じる問題や悩みの数別にボランティア・市民活動センターへの期待を分析すると、問題や悩みを多く感じている人ほど、センターへの期待や要望が多い傾向にある。今後はボランティア活動に伴う問題や悩みの軽減に向けて、ボランティア・市民活動センターの役割を發揮しなければならない。



年齢層別ボランティア・市民活動センターへの期待 (%)



問題や悩みの数別ボランティア・市民活動センターへの期待 (%)

2 ボランティアグループ・NPO の組織・活動

に関するアンケート（団体票）

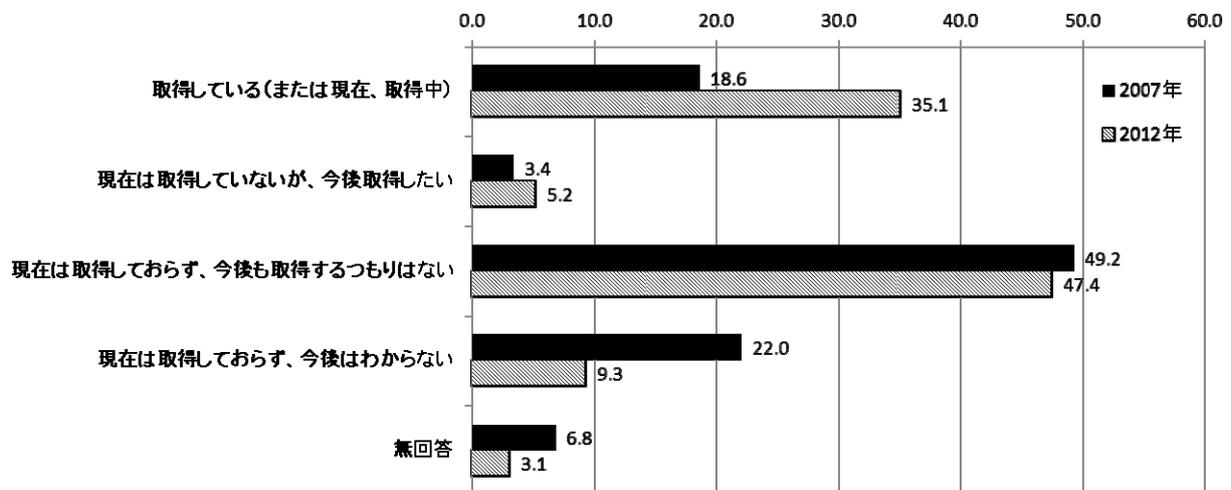
（1）団体の基本的属性

Q7 貴団体は NPO 法人格を取得していますか。

団体票アンケートに回答してくれた団体のうち、35.1%が NPO 法人格を取得している。

《度数分布の結果》

この調査は、東大阪市社会福祉協議会に登録しているボランティア団体と NPO 法人を対象に実施している。NPO 法人格の有無や今後の取得意向について尋ねると、現在「法人格を取得している」団体が 35.1%となっており、2007 年よりも増加している。「今後取得したい」という回答は 5.2%と少なく、「今後も取得するつもりはない」の回答が 47.4%を占める。



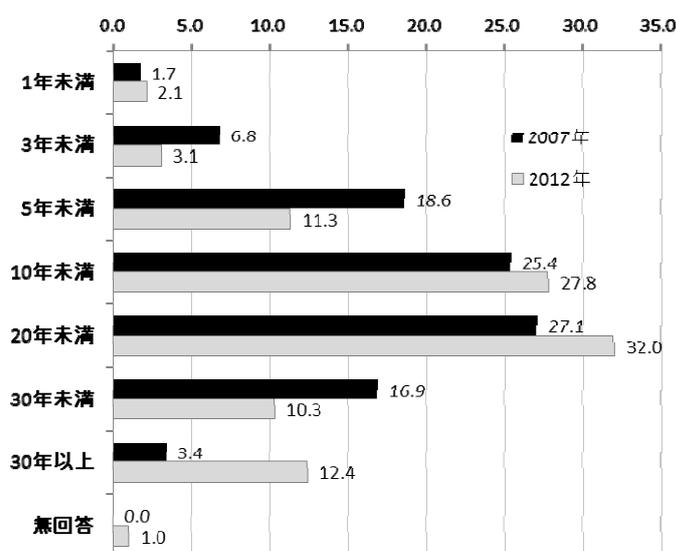
NPO 法人格の有無と取得意向 (%)

Q1 貴団体を設置されてからの年数は、おおよそ何年になりますか。

2007年と比較して、2012年では設置年数の長い団体が多くなっている。10～19年続いている団体が32.0%である。

《度数分布の結果》

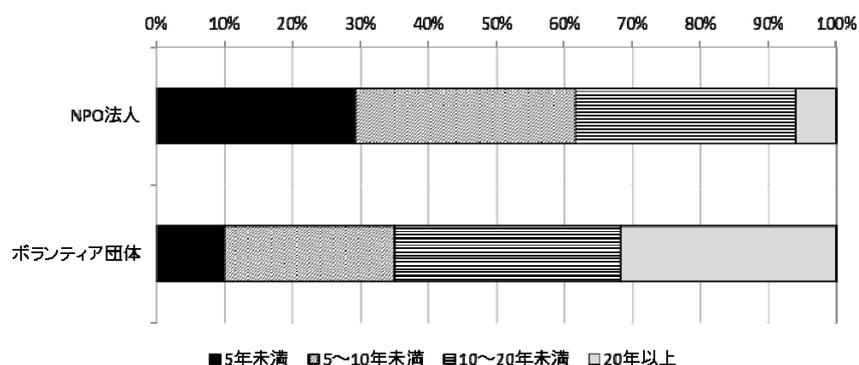
2007年と比較して、2012年の方が設置年数が長い団体が多くなっている。最も多い設置年数は「20年未満」の32.0%であり、次いで「10年未満」の27.8%となっている。「30年以上」という団体も12.4%存在する。



ボランティア団体の設置年数 (%)

《クロス集計分析の結果 (団体の種類別)》

NPO法人の有無別に設置年数を分析すると、NPO法人を取得した団体では設置年数が短く、NPO法人を取得していないボランティア団体(任意団体)では設置年数が長い傾向にある。NPO法人では設置後5年未満の団体が3割を占め、ボランティア団体では設置後20年以上の団体が3割を占める。



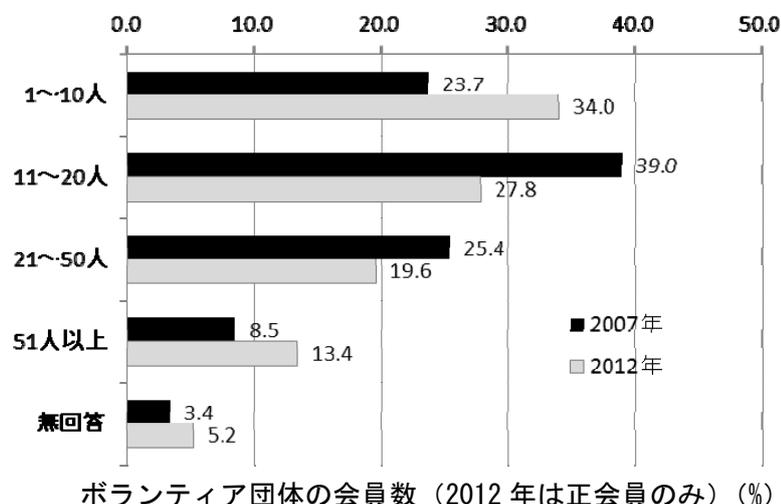
NPO法人の有無別設置年数 (%)

Q2 貴団体の会員数は何人ですか。

団体の正会員の数は、10人以下が全団体の3分の1を占める。10人以下の規模の小さな団体と51人以上の規模の大きな団体に分化している。

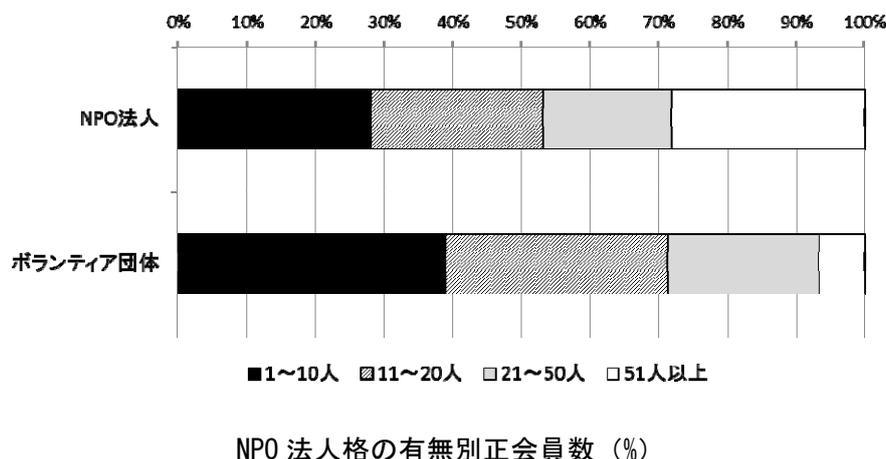
《度数分布の結果》

2007と比較して、2012年の団体の会員数は減少傾向にある。ただし、2012年の会員数の集計は、正会員に限定しており、賛助会員は含めていない点は、比較の上で注意が必要である。「1～10人」が34.0%、「11～20人」が27.8%、「21～50人」が19.6%、「51人以上」が13.4%となっており、正会員が10人以下の団体が3分の1を占める。規模の小さな団体と規模の大きな団体に分化しているようである。



《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO法人の有無別に正会員の数を分析すると、NPO法人を取得した団体では、正会員数が多く、ボランティア団体では正会員数が少ない傾向にある。NPO法人では「51人以上」の団体が3割を占めるが、ボランティア団体では10人以下の団体が4割を占める。

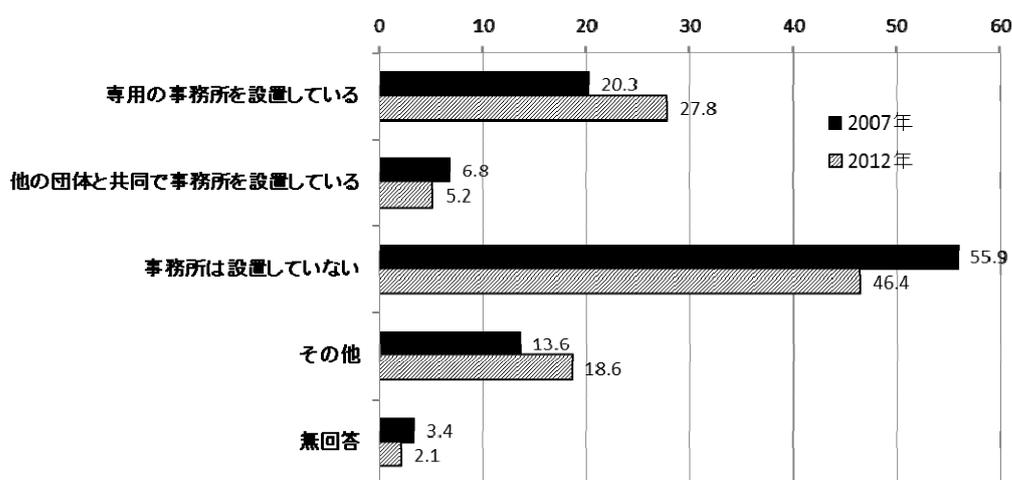


Q3 貴団体は事務所を設置していますか。

専用の事務所を設置している団体は、全体の 27.8% を占める。NPO 法人に限定すると、この割合は 58.8% である。

《度数分布の結果》

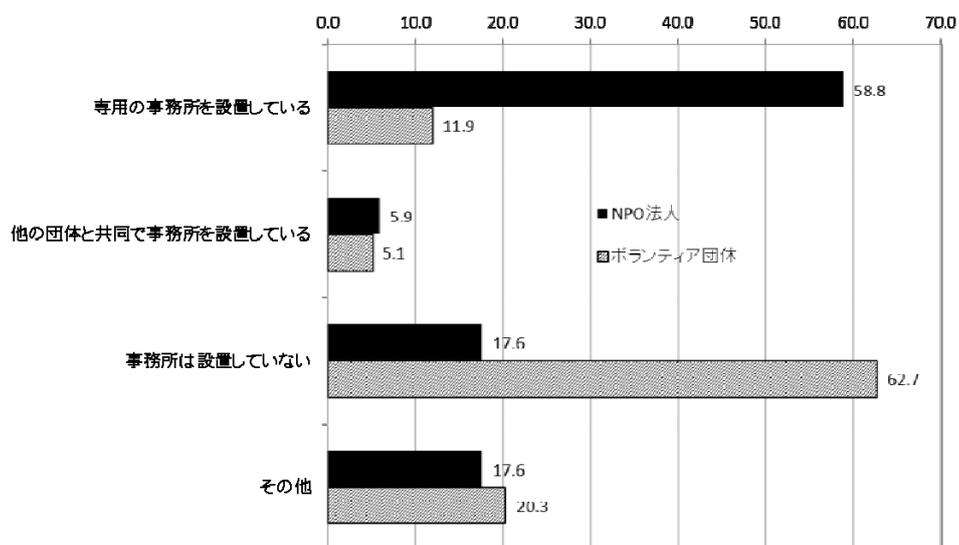
団体が保有する専用の事務所の設置状況を調べると、「専用の事務所を設置している」団体は 27.8% となっており、2007 年よりも増加している。「他の団体と共同で事務所を設置している」団体は 5.2% と少ない。



専用の事務所の設置状況 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人格の有無別に専用の事務所の設置状況を分析すると、NPO 法人格を取得した団体では、専用の事務所を設置している団体の割合が 58.8% と多い。逆に、ボランティア団体では事務所を設置していない団体が 62.7% を占めている。



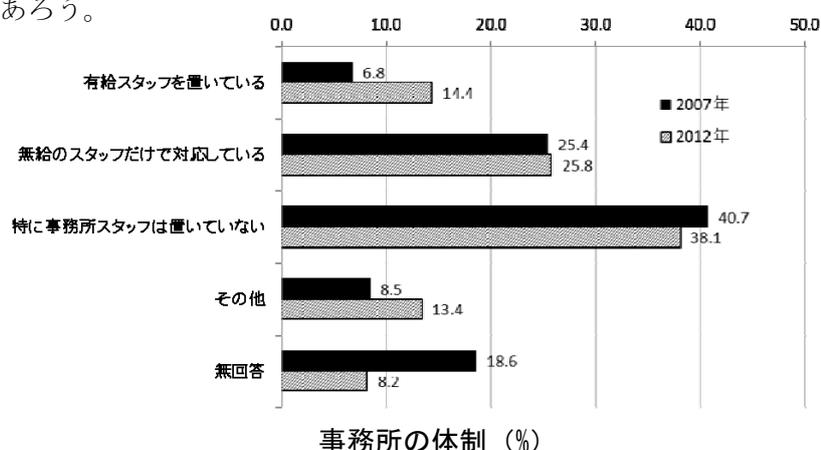
NPO 法人格の有無別専用の事務所の設置状況 (%)

Q4 貴団体の事務所（事務局）の体制はどのようなものですか。

有給スタッフを置いている団体が 14.4%、無給のスタッフだけで対応している団体が 25.4%となっている。NPO 法人に限定すると、有給スタッフを置いている団体が 39.4%である。

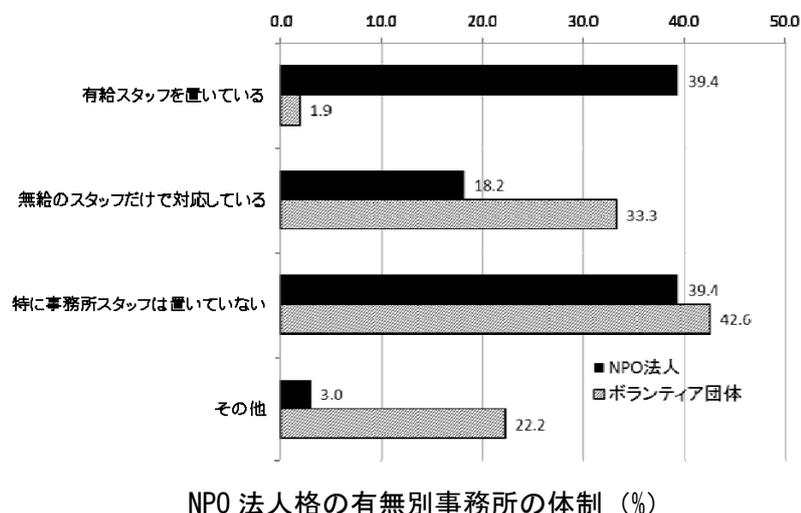
《度数分布の結果》

事務所のスタッフ体制について調べると、「有給スタッフを置いている」が 14.4%であり、2007年と比較して増加している。しかし、「無給のスタッフだけで対応している」団体は 25.8%、「事務所スタッフは置いていない」団体が 38.1%と依然多い状況にある。事務所自体もてない団体や事務所があってもスタッフを置けない団体が多く存在しているため、これらの団体に対するサポートが必要であろう。



《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人の有無別に事務所のスタッフ体制を分析すると、NPO 法人では有給スタッフを置いている割合が 39.4%である。NPO 法人では、事業運営の中核としての有給スタッフの存在が重要である。今後、NPO 法人への運営面や財政面での何らかの支援が必要になろう。ボランティア団体についてみると、事務スタッフをおいていない団体が 42.6%と多い。今後、事務局機能の一部をボランティア・市民活動センターが担うことも検討する必要があるだろう。

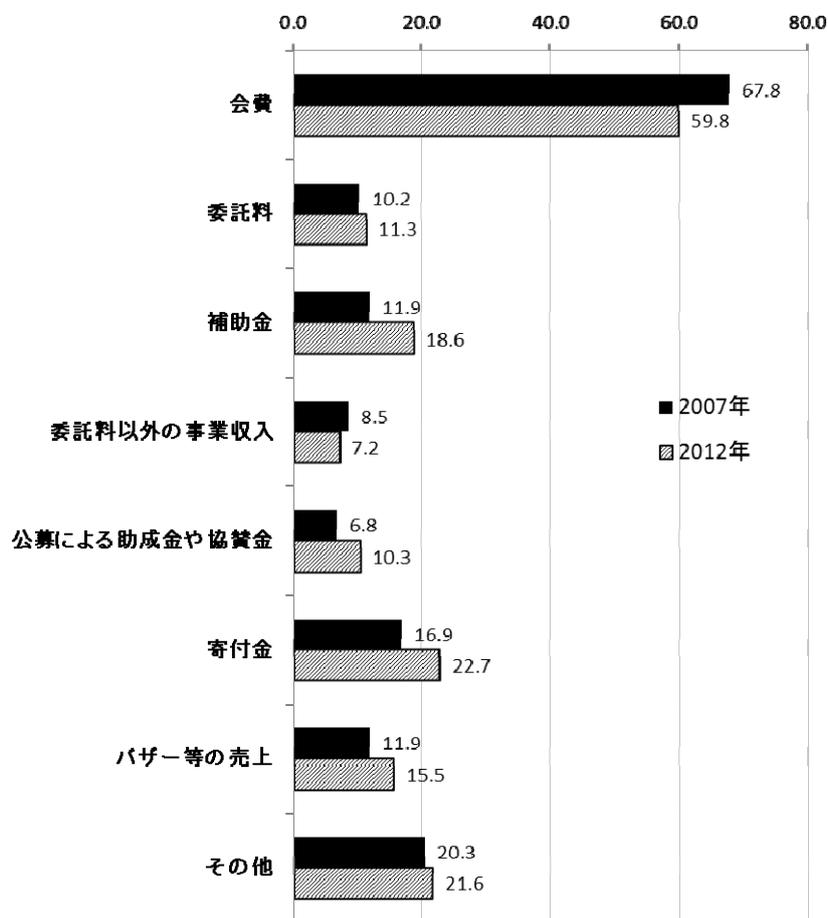


Q5 貴団体の活動資金や運営資金の種類は、以下のどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

活動や運営の資金源として、「会費」を挙げる団体が約6割。2007年と比較して「会費」の割合が減少し、「補助金」や「寄付金」を挙げる割合が増加している。

《度数分布の結果》

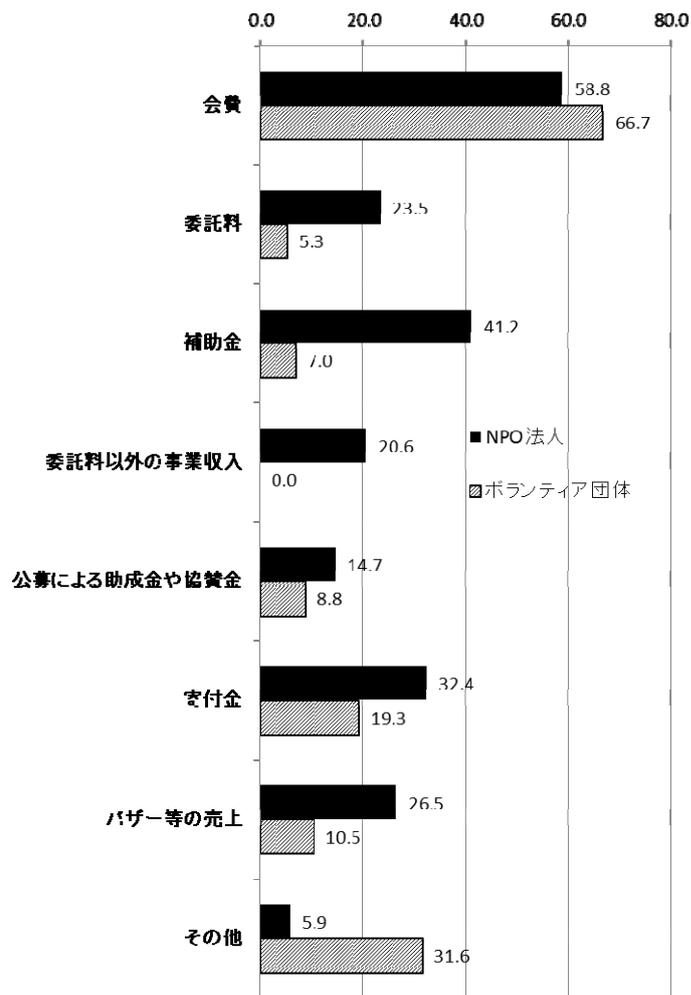
団体の活動資金や運営資金の源泉について種類を尋ねると、約6割の団体が「会費」を挙げており、資金源として突出している。次に多いのが「寄付金」の22.7%、次いで「補助金」の18.6%となっている。2007年と比較して、会費の割合が減少し、寄付金や補助金、バザー等の売上といった資金源を選択する割合が増加している。資金源が多様化している傾向が見られる。



活動や運営の資金源の種類 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO法人の有無別に団体の資金源の種類を分析すると、NPO法人はボランティア団体と比較して、補助金や委託料、委託料以外の事業収入、寄付金、バザー等の売上といった項目を挙げる割合が高い。ボランティア団体が会費収入に依存する割合が高いのに対して、NPO法人は資金源が多様になっている。



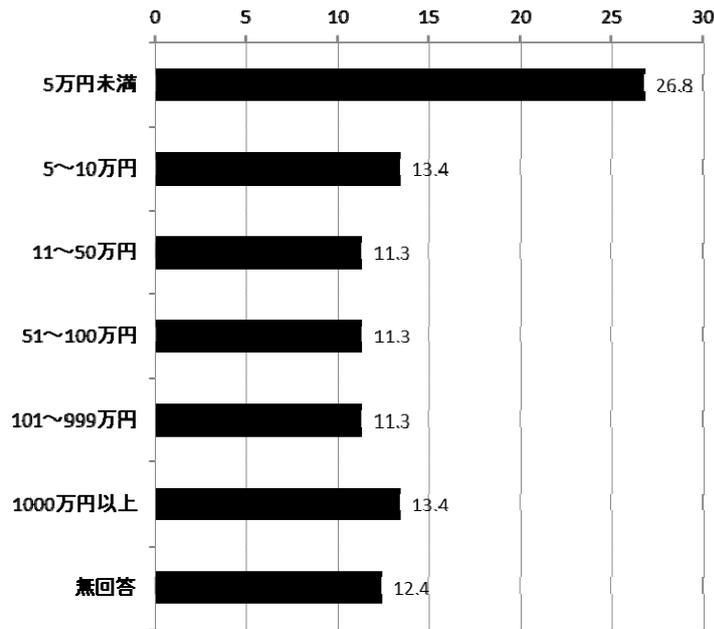
NPO 法人格の有無別活動や運営の資金源の種類 (%)

Q6 貴団体の1年間の活動資金や運営資金の合計は、おおよそ何万円ですか。

1年間の活動や運営にかかわる資金の額は、「5万円未満」が団体全体の26.8%を占める。NPO法人とボランティア団体では活動や運営にかかわる資金の額に大きな差がある。

《度数分布の結果》

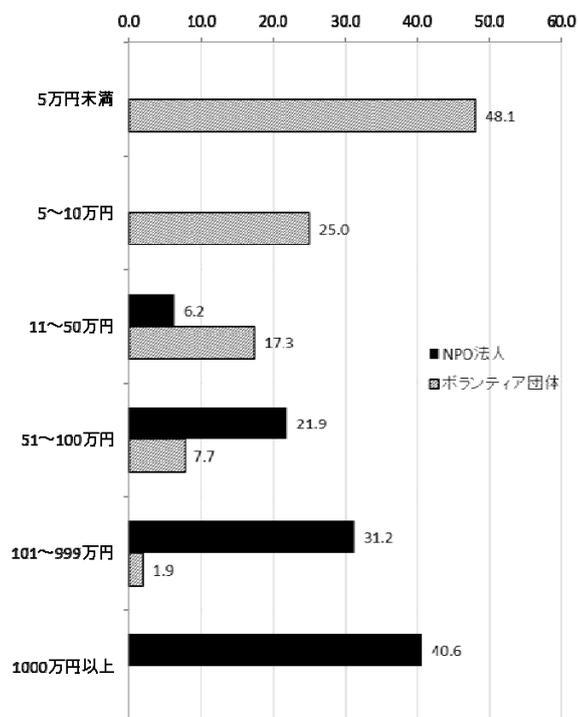
団体の1年間の活動資金の額をみると、「5万円未満」から「1,000万円以上」までその額の幅が広く分布していることが分かる。年間の活動資金が「5万円未満」の団体が26.8%を占めており、今後ボランティア団体やNPO法人への財政的な支援について検討する必要がある。



1年間の活動資金の額 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人格の有無別に、この1年間の活動資金の額を分析すると、NPO 法人とボランティア団体では非常に大きな違いがあることが分かる。NPO 法人では「1,000万円以上」が40.6%を占めるが、ボランティア団体では「5万円未満」が48.1%と約半数を占める。NPO 法人において資金源の種類と年間資金額を分析すると、委託料以外の事業収入があると回答した団体において、年間資金額が高い。



NPO 法人格の有無別 1年間の活動資金の額 (%)

(2) 団体の活動状況

Q8-1 貴団体ではどのような活動を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

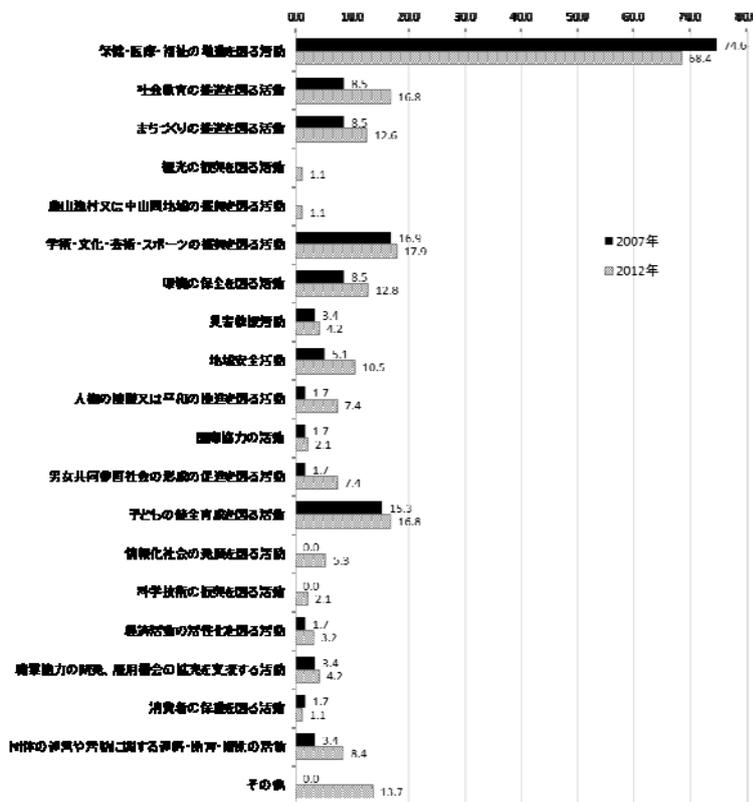
団体の活動内容は、「保健・医療・福祉」分野が68.4%と多い。NPO法人はボランティア団体と比較して、活動内容が多様である。

《度数分布の結果》

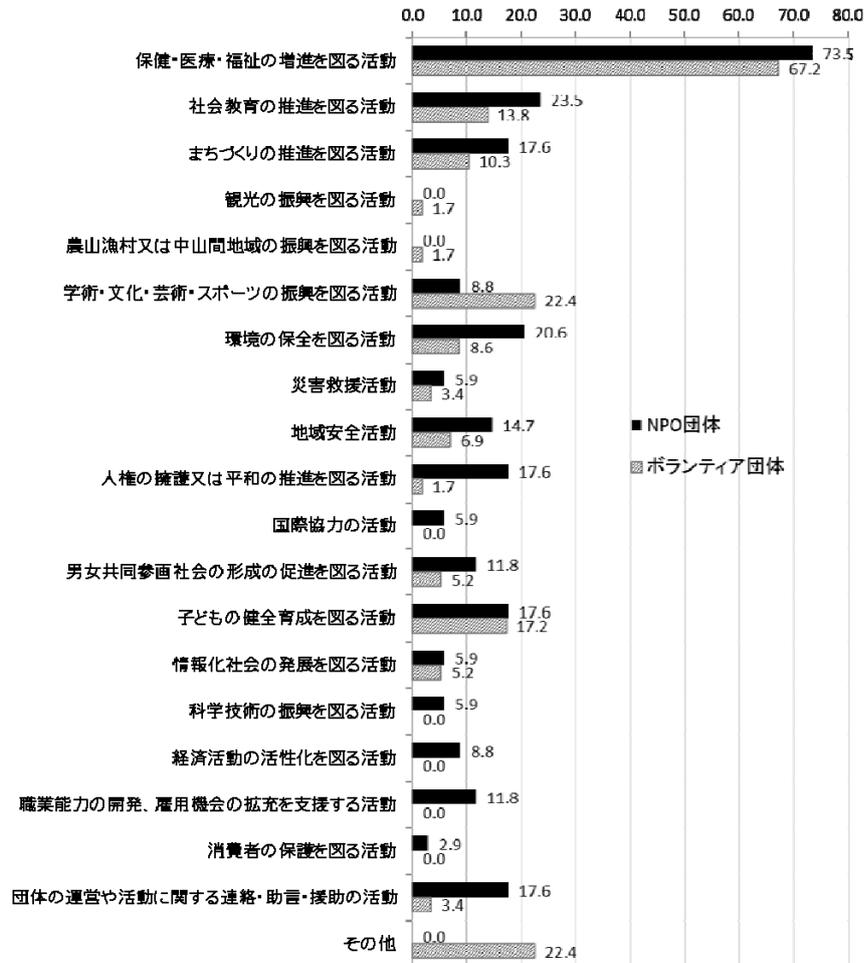
団体の活動内容について尋ねると、社会福祉協議会に登録している団体に限定されていることもあり、「保健・医療・福祉」分野の活動が68.4%と突出している。2007年のパーセンテージが抜けている活動内容項目は、2012年で新たにいった項目であることに注意していただきたい。2007年と比較して、社会教育、まちづくり、環境保全、地域安全、男女共同参画、情報化社会の発展分野の活動が増加している。

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO法人の有無別に団体の活動内容を分析すると、NPO法人で多様な活動が展開されている状況が分かる。社会教育、まちづくり、環境保全、地域安全、人権擁護、男女共同参画、科学技術振興、経済活動活性化、職業能力開発等の分野でNPO法人の回答率がボランティア団体よりも高い。



団体の活動内容 (%)



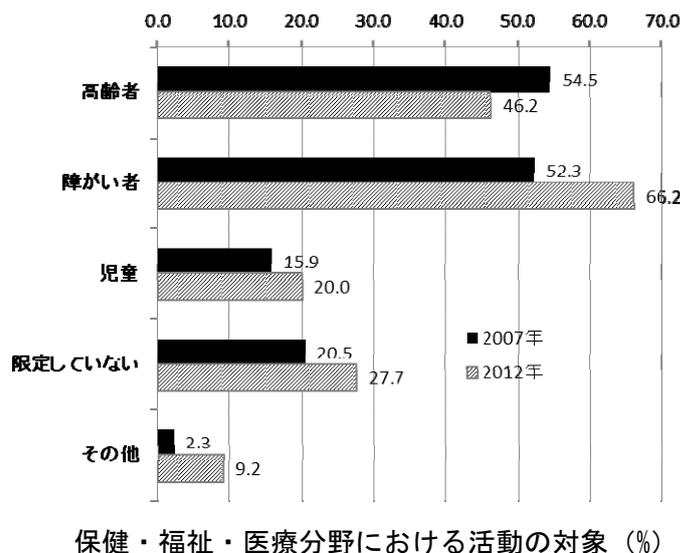
NPO 法人格の有無別団体の活動内容 (%)

Q8-2 保健・医療・福祉の増進を図る活動をされている団体にお聞きします。その活動の対象者はどのような方々ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

保健・医療・福祉分野の活動において、活動の対象は障がい者が 66.2%と最も多く、2007 年よりも増加している。

《度数分布の結果》

保健・医療・福祉の増進を図る活動を選択した団体に限定して、活動の対象を尋ねると、高齢者 46.2%、障がい者 66.2%、児童 20.0%、限定していない 27.7%となっている。2007 年と比較して、高齢者を対象とする団体が減り、障がい者を対象とする団体が増えている。

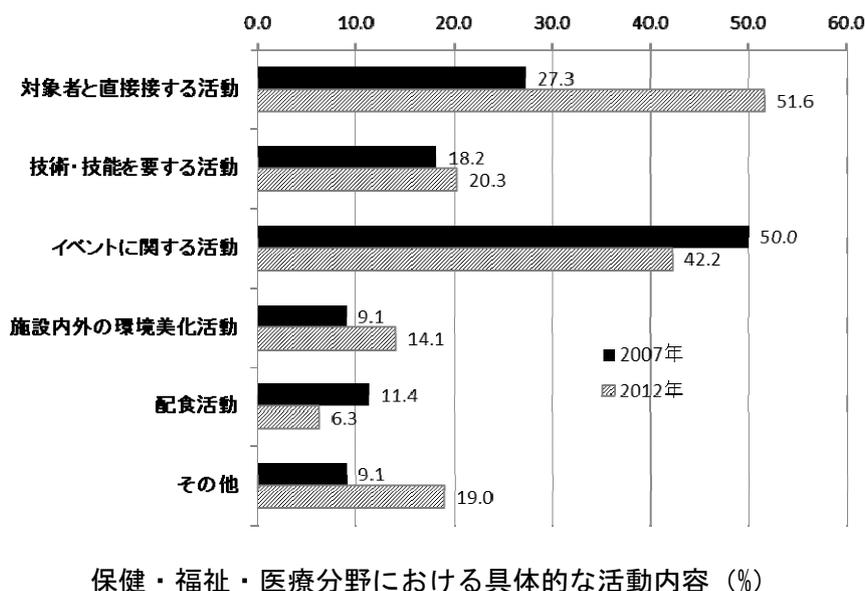


Q8-3 その活動の具体的な内容はどのようなものですか。あてはまるものすべてに〇をつけてください。

保健・医療・福祉分野における活動の具体的な内容で最も多いのは、対象者と直接接する活動（51.6%）である。2007年と比較して増加している。

《度数分布の結果》

保健・医療・福祉の増進を図る活動を選択した団体に限定して、具体的な活動内容を尋ねると、対象者と直接接する活動が51.6%と最も多く、次いでイベントに関する活動が42.2%となっている。2007年と比較して、対象者と直接接する活動が増加し、イベントに関する活動が若干減少している。

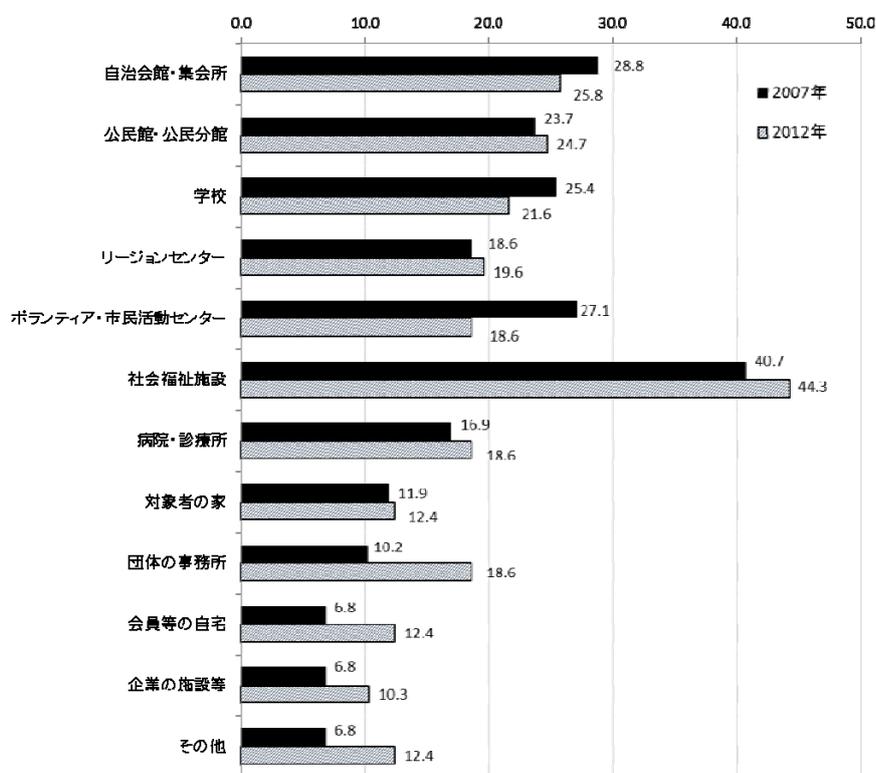


Q9 貴団体の活動場所はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

団体の活動場所でもっとも多いのは「社会福祉施設」(44.3%)である。NPO 法人の増加が影響して、活動場所では団体の事務所が増加し、ボランティア・市民活動センターが減少傾向にある。

《度数分布の結果》

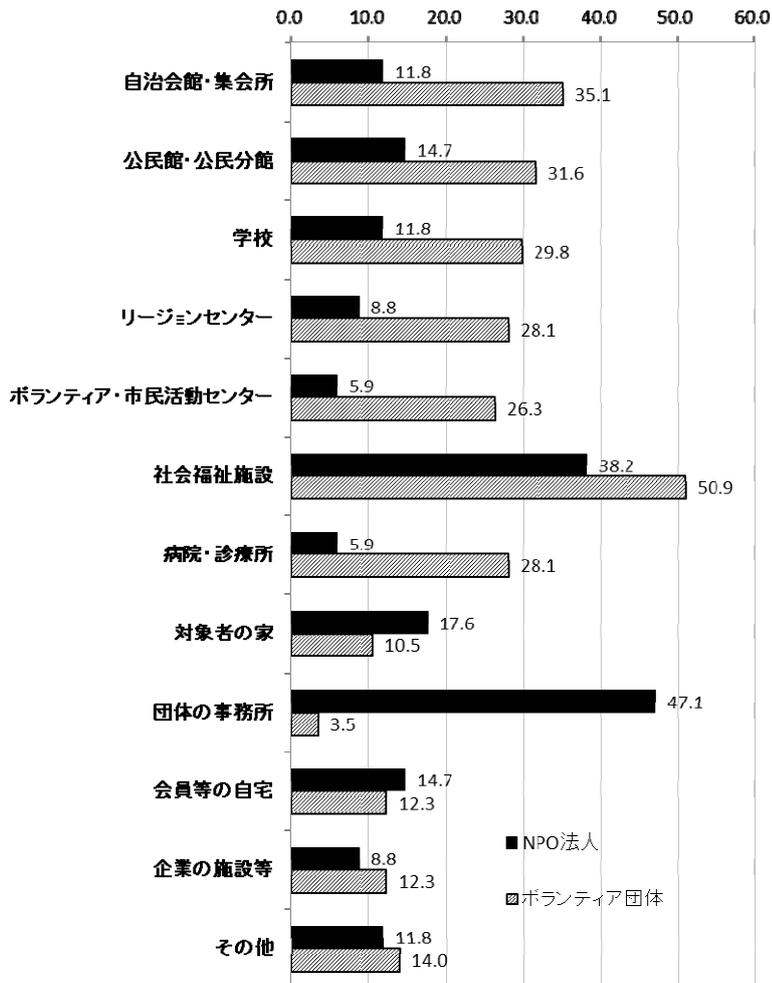
団体の活動場所について尋ねると、もっとも多いのは「社会福祉施設」であり 44.3%を占める。次いで「自治会館・集会所」(25.8%)、「公民館・公民分館」(24.7%)となる。2007年と比較して、「団体の事務所」が増加し、「ボランティア・市民活動センター」が減少している。社会福祉協議会に登録している団体のうち、NPO 法人格を取得した団体が増加していることは先に述べたが、そのことが活動場所における事務所の増加、およびボランティア・市民活動センターの減少をもたらしているのではないかと考えられる。



団体の活動場所 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人格の有無別に団体の活動場所を分析すると、NPO 法人では団体の事務所と社会福祉施設が突出している。他方、ボランティア団体は社会福祉施設や自治会館・集会所、公民館・公民分館、学校、リージョンセンター、ボランティア・市民活動センター、病院などに活動場所が分散していることが分かる。NPO 法人のボランティア・市民活動センターの利用は 5.9%にとどまっている。



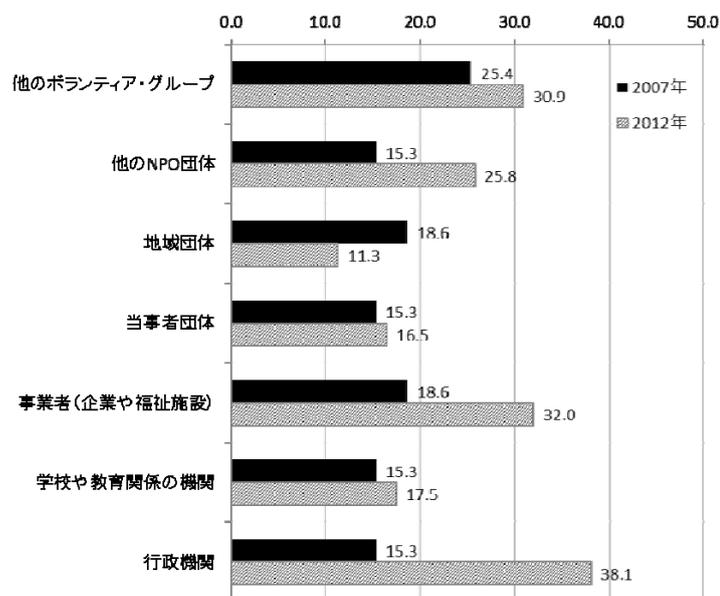
NPO 法人格の有無別団体の活動場所 (%)

Q10 貴団体は活動を行う上で、連携している団体がありますか。A~G のそれぞれについて、お答えください。

連携している団体・機関で最も多いのは、行政機関の 38.1%。ボランティア団体は「他のボランティア団体」との連携が多く 31.7%。NPO 法人はボランティア団体よりも多様な団体・機関と連携しており、特に行政機関 (67.6%)、事業所 (52.9%)、他の NPO 法人 (52.9%) との連携が進んでいる。

《度数分布の結果》

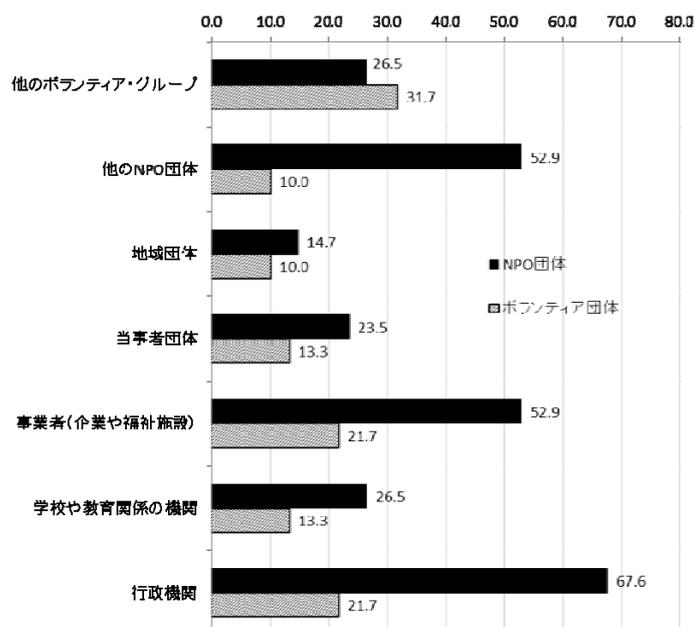
調査票の選択肢では、それぞれの団体や機関について、「1 現在、連携している」、「2 現在、連携していないが、今後連携したい」、「3 今後も連携するつもりはない」で回答を得ている。ここでは 2007 年との比較を可能にするため、「1 現在、連携している」を「連携あり」、それ以外の回答を「連携なし」（無回答を含む）として分析する。連携先として最も多く挙げられたのは行政機関の 38.1%であり、次いで事業所（企業や福祉施設）32.0%、他のボランティアグループ 30.9%となる。2007 年と比較して、連携先に挙げられる団体や機関が増加しており、団体・機関間の交流や協働が進んでいることが分かる。ただし、地域団体との連携については減少傾向にある。



連携している団体 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人格の有無別に連携している団体を分析すると、NPO 法人はボランティア団体と比較して連携している団体が多様であることが分かる。特に、NPO 法人は行政機関や他の NPO 法人、事業者との連携が進んでいる。他方、ボランティア団体は、他のボランティア団体との連携が 31.7% であるが、それ以外の団体や機関との連携が NPO 法人と比較してあまり進んでいない状況が読み取れる。団体の活動では、1 団体だけの活動よりも、他の団体との協働によって、より多くのことが実現できる。今後、ボランティア団体における他の団体・機関との連携の促進が課題として挙げられよう。



NPO 法人格の有無別連携している団体 (%)

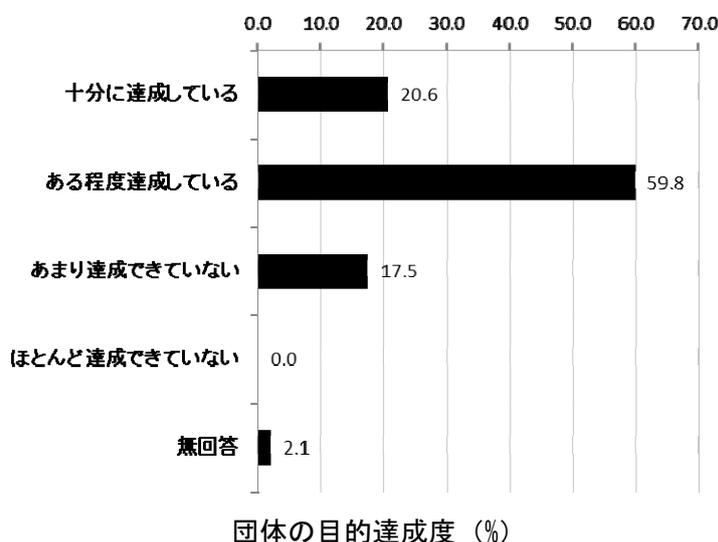
(3) 団体の活動に対する評価

Q11 貴団体は現在、団体としての目的をどの程度、達成していると思いますか。

団体の目的を「十分に達成している」団体は、全体の 20.6%である。ボランティア団体では NPO 法人と比較して、達成度が高く評価されている。

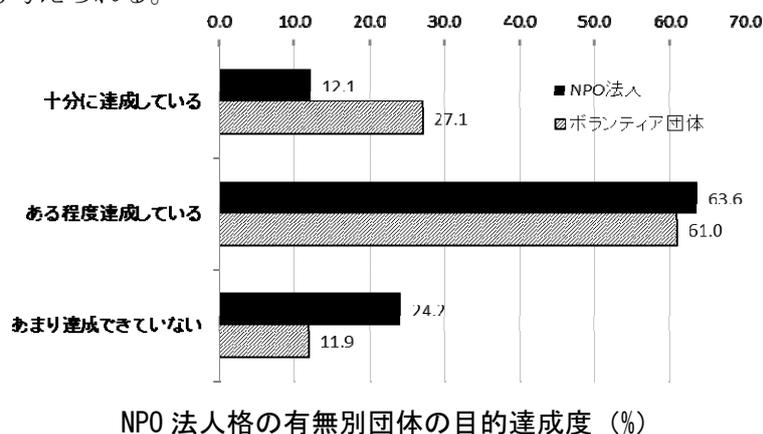
《度数分布の結果》

団体が掲げている目的の達成度について尋ねると、「十分に達成している」が 20.6%、「ある程度、達成している」が 59.8%となっている。「ほとんど達成できていない」という回答は 0%であった。



《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人の有無別に目的達成度を分析すると、NPO 法人では目的達成度を低く評価し、ボランティア団体では高く評価している傾向にある。NPO 法人では利用者との金銭の授受やスタッフの人件費が発生することが多いため、事業運営の目標を高く設定している可能性（したがって達成度は低くなる）も考えられる。

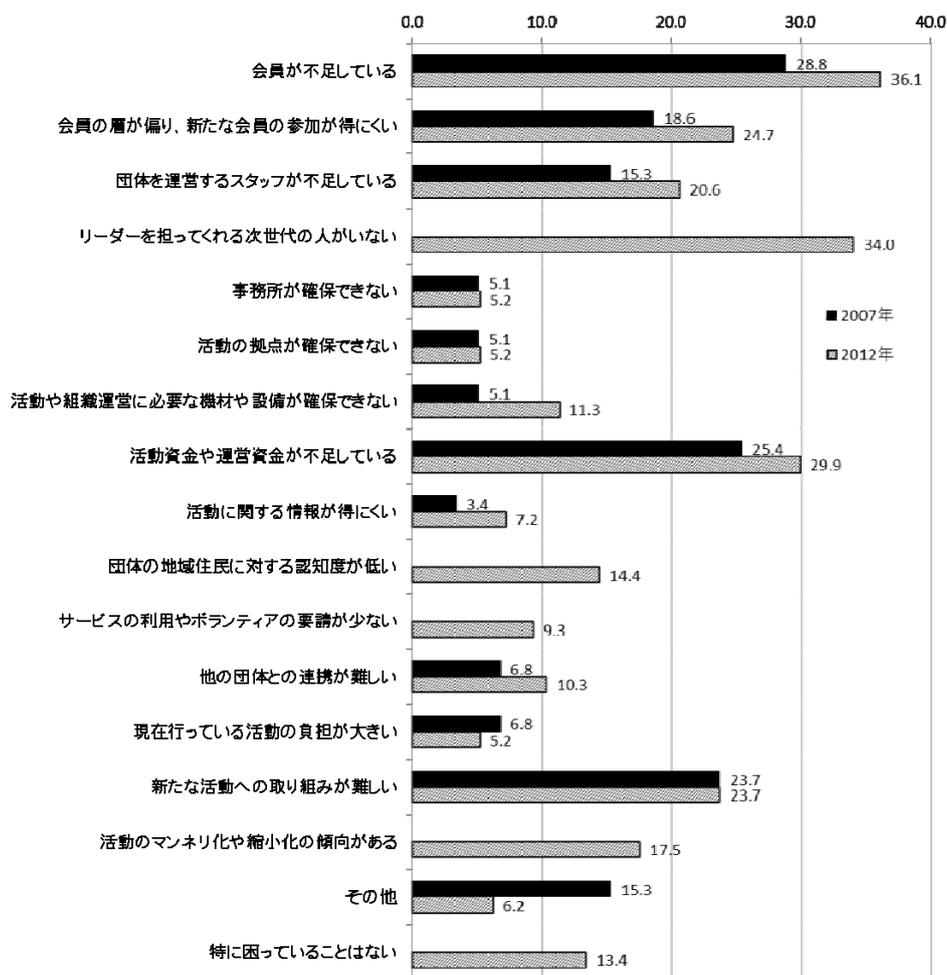


Q12 貴団体は、活動や組織運営の面で困っていることはありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

「会員が不足している」が最も多く 36.1%を占める。「リーダーを担ってくれる次世代の人がいない」も 34.0%と高い。NPO 法人では、活動資金や運営資金で悩んでいる団体が多く、ボランティア団体では人材の確保に問題を抱えている団体が多い。

《度数分布の結果》

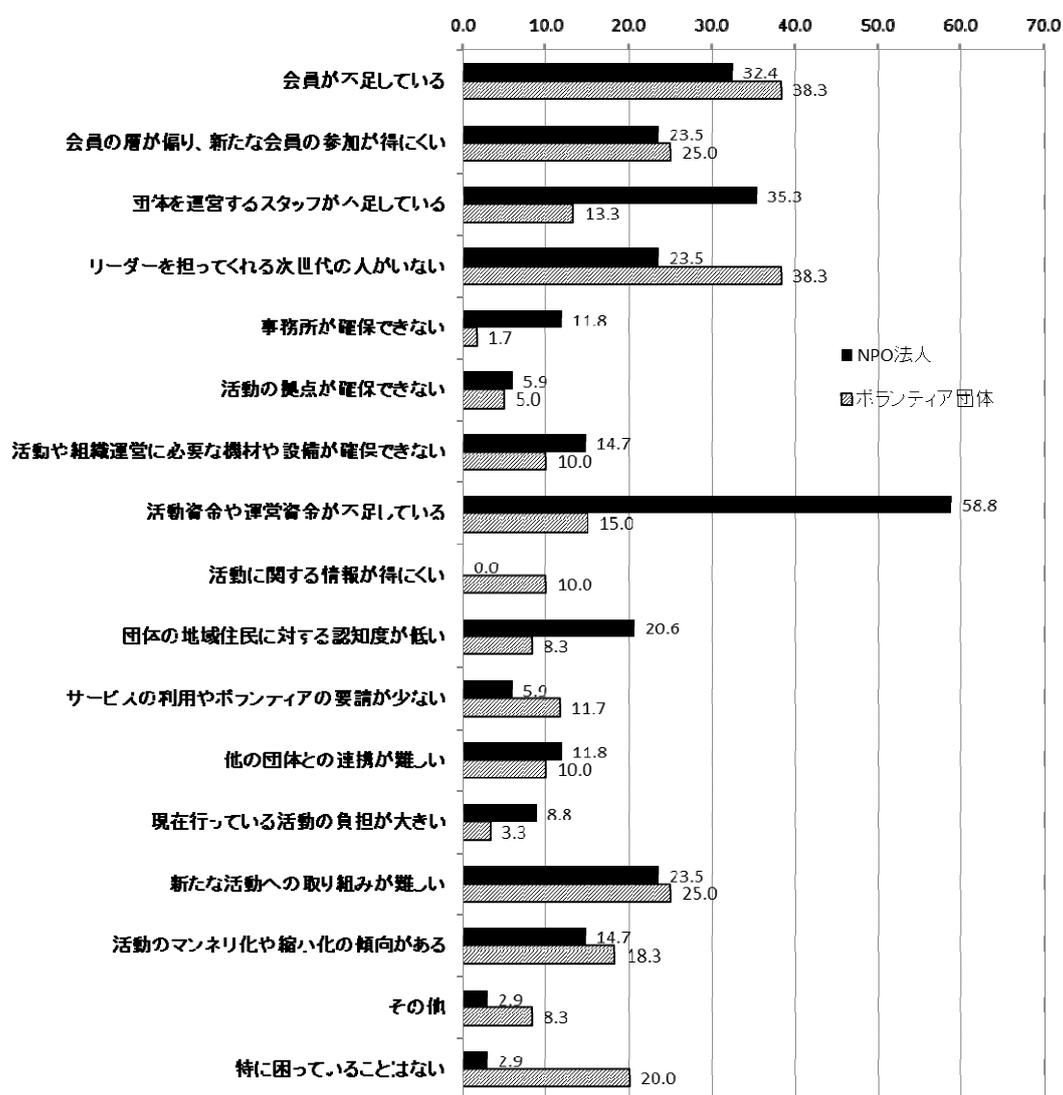
NPO 法人やボランティア団体が抱えている問題や悩みを尋ねたところ、最も多く挙げられたのは「会員が不足している」(36.1%)であった。次いで、「リーダーを担ってくれる次世代の人がいない」(34.0%)、「活動資金や運営資金が不足している」(29.9%)などが続く。2007年に横棒がなく、2012年だけに横棒がある項目は、2012年に追加した項目である。大きくみると、人材確保の問題と資金面での問題が目立っている。「活動のマンネリ化や縮小化の傾向がある」(17.5%)、「新たな活動への取り組みが難しい」(23.7%)も一定の割合を占めており、団体の活動内容に関する支援も望まれている。



団体が抱える問題や悩み (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人格の有無別に団体が抱えている問題や悩みを分析すると、NPO 法人とボランティア団体で問題や悩みの現れ方に違いがみられる。NPO 法人における特徴的な問題は、「活動資金や運営資金が不足している」(58.8%)であり、資金面で苦慮している団体が多いことが分かる。「団体を運営するスタッフが不足している」(35.3%)も NPO 法人の悩みの特徴であり、事務所があっても、有給スタッフを雇う資金が不足していることと関連していると思われる。「団体の地域住民に対する認知度が低い」と感じる NPO 法人も 20.6%存在している。ボランティア団体における特徴的な問題は、「会員が不足している」(38.3%)、「リーダーを担ってくれる次世代の人がいない」(38.3%)であり、人材確保の問題を挙げる団体が多い。若年層や中年層のボランティア団体への参加を促すような新たな取り組みが必要であろう。



NPO 法人格の有無別団体が抱える問題や悩み (%)

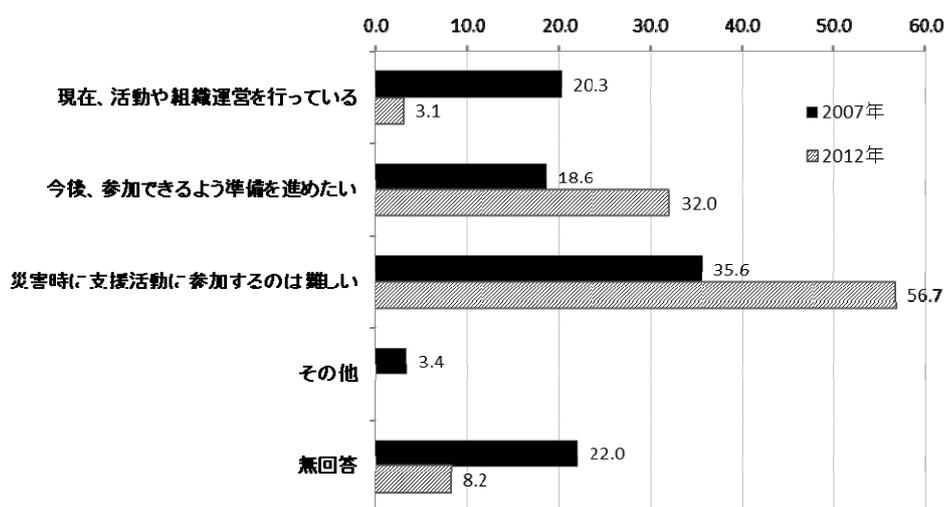
Q13 貴団体では、災害時の支援活動への参加について、どのようにお考えですか。

災害時の支援を考慮して活動している団体が3%、災害支援活動に参加できる準備を進めたいと考えている団体が32.0%である。

《度数分布の結果》

NPO 法人やボランティア団体における災害時の支援活動の参加意向を尋ねると、「災害時の支援活動を考慮して活動や組織運営を行っている」団体が 3.1%と少なく、「災害時に支援活動に参加するのは難しい」と考えている団体が 56.7%と半数以上を占めている。2007 年と比較して、災害時の支援活動に対する参加意向が消極的になっている理由は、調査方法上の問題と 2011 年 3 月に生じた東日本大震災の影響が考えられる。調査法上の問題として、2007 年の調査票では、質問文に「地震等の大規模災害の際の支援体制づくりが喫緊の課題となっているなかで、豊かな経験や能力を活かして柔軟に活動できるボランティア・NPO への期待が高まっています」という文言が入っていた。これは「威光暗示効果」と呼ばれるものであり、回答を積極的な方向に誘導してしまう作用がある。また、東日本大震災の現地での被害状況を目の当たりにして、その難しさが認識されたという事情も消極的な回答に影響した可能性がある。また、団体参加者が高齢化しているという事情も考慮する必要がある。

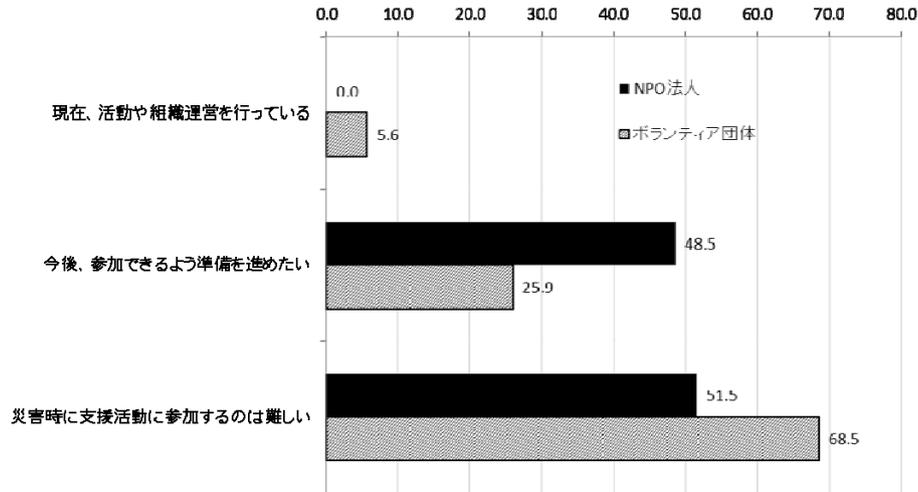
2012 年 2 月より、社会福祉協議会では、常設型災害ボランティアセンターを設置しており、災害支援ボランティアの養成が喫緊の課題となっている。今回の調査結果を踏まえ、登録団体へ働きかけていく必要がある。



災害時の支援活動への参加意向 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人の有無別に災害時の支援活動の参加意向を分析すると、NPO 法人では今後準備を進めたいと考えている団体と、参加は難しいと考えている団体が 5 割ずつ分布している。ボランティア団体では、参加は難しいと考えている団体が 7 割を占めている。



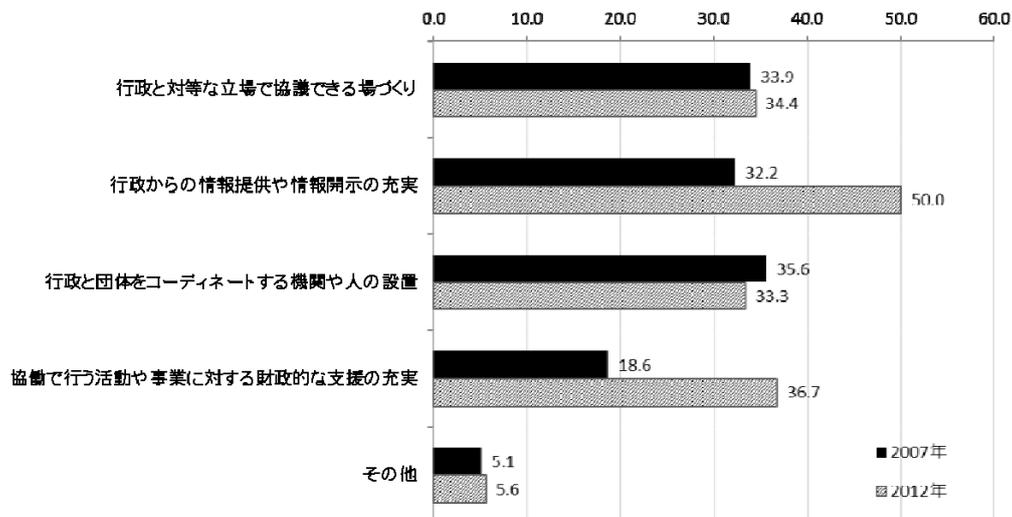
NPO 法人格の有無別災害時の支援活動への参加意向 (%)

Q14 ボランティア団体や NPO が行政と協働して事業を行っていく上で、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

行政との協働に関して多く寄せられる要望は、「情報提供や情報開示の充実」が 50.0%。ボランティア団体と比較して、NPO 法人では行政に対する「財政的な支援」を要望する声が多い。

《度数分布の結果》

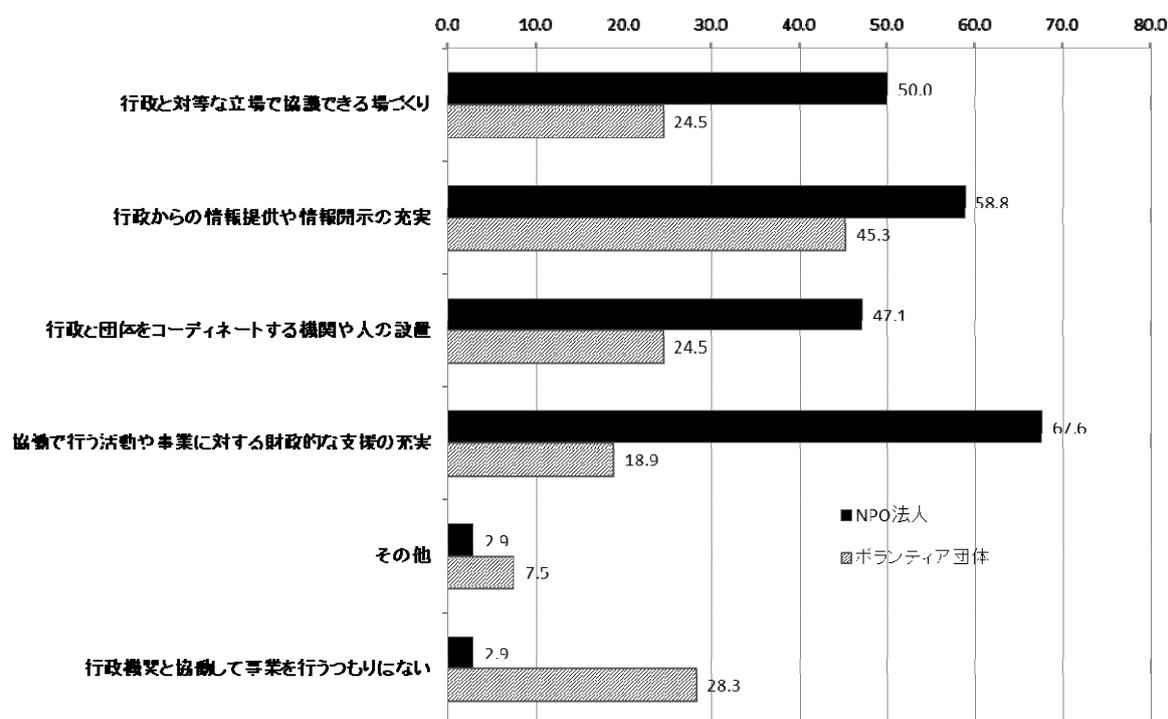
行政との協働について、要望を尋ねたところ、「情報提供や情報開示の充実」を挙げる団体が 5 割と最も多かった。その他の「対等な立場で協議できる場づくり」、「行政と団体をコーディネートする機関や人の設置」、「活動や事業に対する財政的な支援の充実」についても要望が高く、35% 前後の回答率である。東大阪市や社会福祉協議会では、これらの多くの要望を受けとめ、具体的に施策を展開しなければならない。



行政との協働に関する要望 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人格の有無別に行政との協働に関する要望を分析すると、NPO 法人とボランティア団体では、行政に対する要望の中身に違いがみられる。NPO 法人では、「活動や事業に対する財政的な支援の充実」を挙げる団体が 67.6%と高く、先にみた団体が抱える問題点と整合的な結果である。他の項目においても、NPO 法人はボランティア団体と比較して、回答率が高く様々な面において、行政との協働を望んでいることが把握できる。



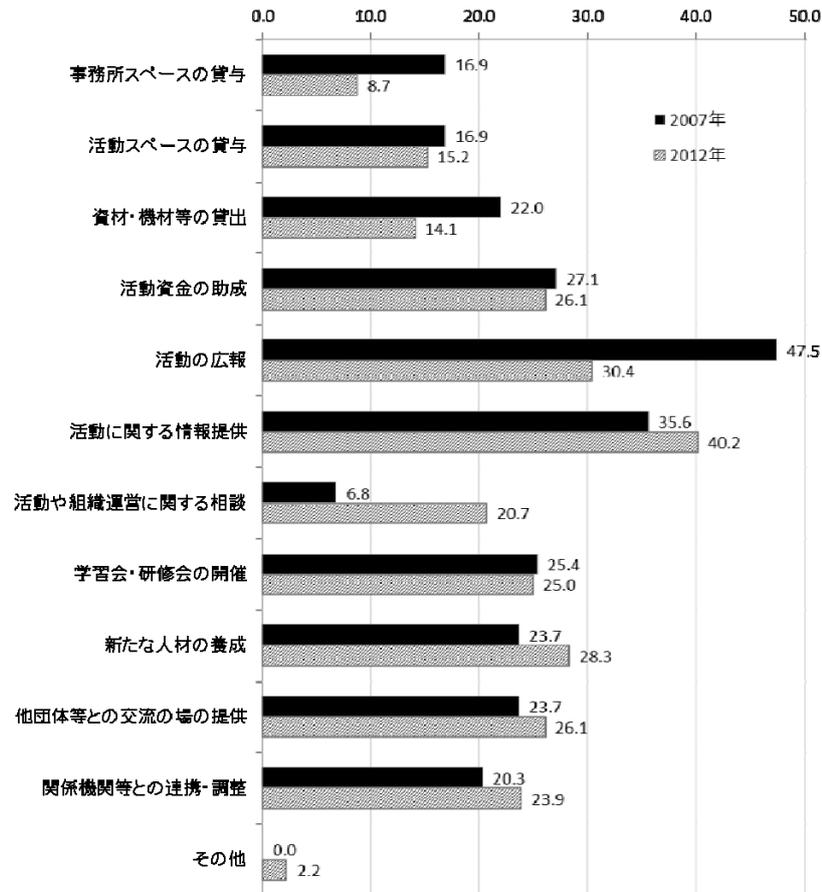
NPO 法人格の有無別行政との協働に関する要望 (%)

Q15 貴団体では、社会福祉協議会「ボランティア・市民活動センター」にどのようなことを期待しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

ボランティア・市民活動センターへの要望として、「活動に関する情報提供」が 40.2%、「活動の広報」が 30.4%となっている。

《度数分布の結果》

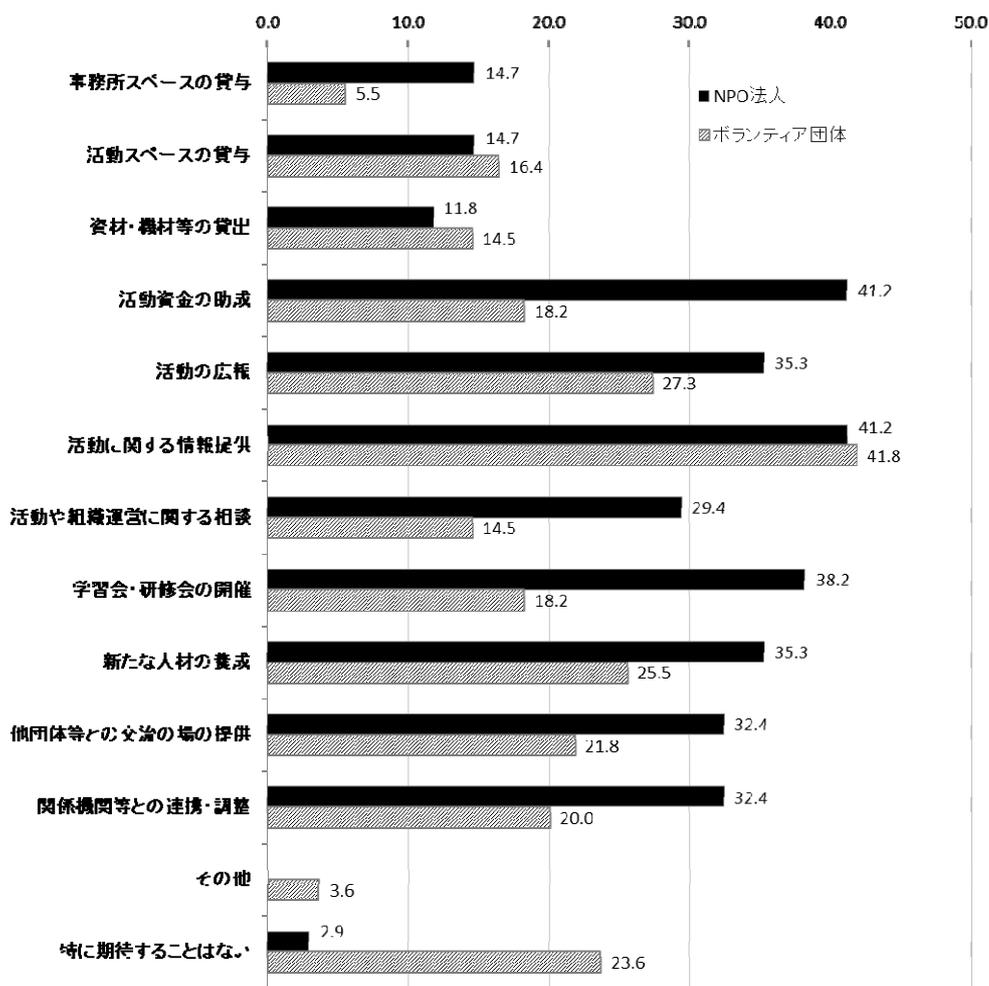
NPO 法人やボランティア団体が、ボランティア・市民活動センターに寄せる要望をみると、「活動に関する情報提供」が 40.2%、「活動の広報」が 30.4%と高い。市内で展開されている情報を集約し、積極的に公開することが望まれている。「新たな人材の養成」(28.3%)、「他団体との交流の場の提供」(26.1%)、「活動資金の助成」(26.1%)、「学習会・研究会の開催」(25.0%)といった項目の回答率も高い。



ボランティア・市民活動センターに対する要望 (%)

《クロス集計分析の結果（団体の種類別）》

NPO 法人の有無別に、ボランティア・市民活動センターへの要望を分析すると、NPO 法人は多くの項目において、ボランティア団体よりも高い回答率となっている。NPO 法人は様々な分野において、ボランティア・市民活動センターに期待を寄せているということになる。NPO 法人で回答率が高いのは、「活動資金の助成」(41.2%)と「活動に関する情報提供」(41.2%)である。次いで、「学習会・研修会の開催」(38.2%)、「活動の広報」(35.3%)、「新たな人材の養成」(35.3%)が続く。ボランティア・市民活動センターでは、これらの要望を今後の事業計画に反映する必要がある。特に、ボランティア団体や NPO 法人の市民活動に関する情報を集約し、ホームページや広報誌において、広く市民に認知してもらうことが急務である。また、ボランティア・市民活動センターが行っている事業やイベントを関連団体に迅速に広く知ってもらうような、インターネットを活用した情報ネットワーク網の構築も必要であろう。



NPO 法人格の有無別ボランティア・市民活動センターに対する要望 (%)

調査結果からみえてきたこと

1. 東大阪市民のボランティア経験率は高い？

今回の調査は、個人票では東大阪市社会福祉協議会に登録しているボランティアグループ、および社会福祉協議会に登録している個人ボランティア 2,175 名を、団体票では東大阪市社会福祉協議会に登録しているボランティアグループと東大阪市に拠点を置く NPO 法人 285 団体を対象として行われている。今回の調査結果を読み取る際には、次の 2 つのことを念頭に置く必要がある。まず、第 1 に、「社会福祉協議会に登録している」という対象抽出の限定である。この限定から必然的に福祉分野ボランティアの占める割合が多くなる。東大阪市民のなかには、社会福祉協議会に登録していないボランティアおよび団体も多数存在するが、その人々の意見は今回の調査からはわからないということである。第 2 に、個人票においては、ボランティアに限定しているという点である。ボランティアに限定することで、ボランティア活動に関する行動や意識の詳細を尋ねることが可能となるが、逆に、ボランティアをしたことがない東大阪市民の意見は聴くことができない。

そこで、今回の調査結果を検討する前に、補足的な情報から簡単に紹介しておきたい。東大阪は、他の地域と比べてボランティアをしたことがある人の割合が高いのか、低いのか、といった基礎的な情報を把握しておく必要がある。市町村が作成する「地域福祉計画」や社会福祉協議会が主となって作成する「地域福祉活動計画」においては、住民参加の観点からアンケート形式の定量的社会調査や座談会のような質的手法が用いられる。しかし、そこでは、過去と比較して、自分のまちの状態がどう変化しているか、他の地域と比較して自分のまちの状態がどのようになっているのか、ということあまり検討されない。「活発化してきた」、「促進されている」、「うちの地域はボランティアが多い、少ない」といった意見は、あくまで何かと比較した上での言明である。政策立案に調査結果を活かすには、時間軸上の比較の観点と、地域軸上の比較の観点が重要であろう。今回の調査結果報告書では、5 年前の 2007 年との比較を考慮して作成されている。できる限り 5 年前の調査票を比較可能なかたちで活用した。ただし、他地域との比較はなされていないので、ここで簡単に紹介しておきたい。

図 1 は、20～79 歳層の過去 1 年間のボランティア活動経験率を、人口 20 万人以上の日本全国の都市部と東大阪市で比較したものである。日本全国の結果は、大阪商業大学 JGSS 研究センターが東京大学社会科学研究所の協力を得て行っている Japanese General Social Surveys（日本版総合的社会調査）の都市部のデータから分析している（抽出方法：層化 2 段無作為抽出法。調査時期：2010 年 2 月。都市部の有効回収数：1,156 人）。東大阪市の結果は、ボランティアをしていない人も含めた東大阪市の一般市民を対象に行ったものである（抽出方法：2 段無作為抽出法。調査時期：2010 年 10 月。有効回収数：601）。20～79 歳層全体の過去 1 年間のボランティア経験率は、日本全国の都市部で 40.2%、東大阪市で 29.8%であり、10 ポイントほど全国の都市部と比べて低くなっている。男女別・年齢層別に結果をみると、東大阪市では中年期の女性のボランティア経験率が低い傾向がある。東大阪市で低い傾向があるのは、東大阪市が人口の転出入率が高い 50 万人規模の大都市であるということや、世帯収入が全国と比較して低く、家計を維持するための就労に忙しいという事情が考えられる。裏を返せば、この結果は東大阪市においてボランテ

ィアに参加したいと考える潜在的な人々が数多く存在するということである。表1は、2010年の東大阪市民への調査結果であるが、過去1年間にボランティア経験がない人のなかにも、今後ボランティアに参加したいと回答した人が約3割にのぼる。逆に、ボランティア経験者のなかにも、「今後参加したいと思わない」というグループが3割存在している。

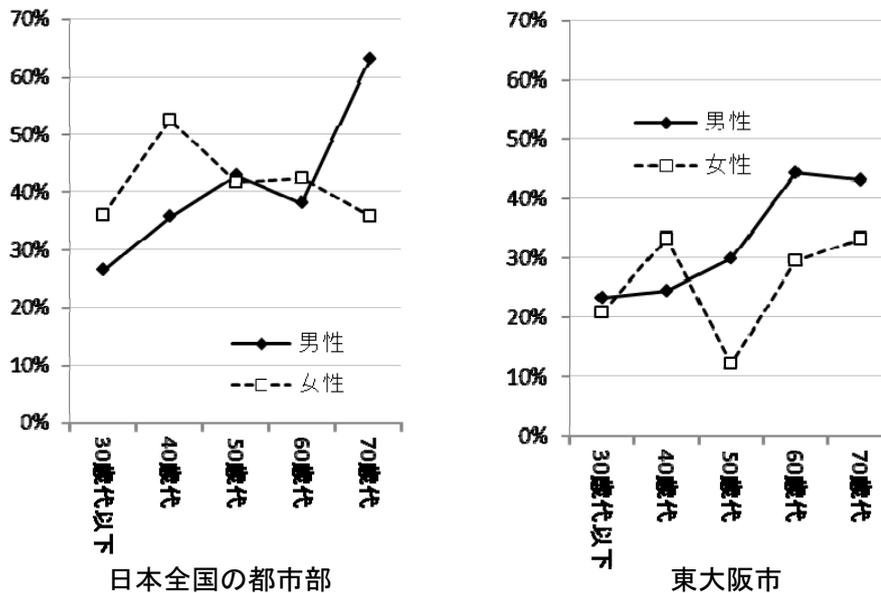


図1 過去1年間のボランティア経験 (2010年)

表1 過去1年間のボランティア経験と今後のボランティア参加意向

	ぜひ参加 したい	できれば 参加したい	参加したいと 思わない	無回答	計
ボランティア経験なし	10人 2.4%	119人 28.3%	285人 67.9%	6人 1.4%	420人 100.0%
ボランティア経験あり	17人 9.6%	106人 59.6%	54人 30.3%	1人 0.6%	178人 100.0%
計	27人 4.5%	225人 37.6%	339人 56.7%	7人 1.2%	598人 100.0%

ボランティアに限定した今回の調査結果は、「ボランティアを経験していないが、今後ボランティアに参加したい」層をいかに包摂し、また、「ボランティアを経験しているが、今後ボランティアに参加したいと思わない」層をいかにして低減させることができるのかを考える最良の材料となる。

2. 多様な市民の参加と情報の公開・共有の必要性

今回の調査結果から東大阪市社会福祉協議会に登録しているボランティアの特徴が明らかになった。性別は女性が4分の3(75.4%)を占め、60歳代と70歳代の人々で約7割を占める。5年前と比較して、女性の割合と70歳代の割合(39.8%)が増加している。女性の割合が多いのは、今回の調査が「社会福祉協議会に登録している」すなわち、福祉分野のボランティアが多く含ま

れるためである。また、ボランティアの就労状態をみると、7割が無職層・専業主婦層であり、東大阪市に住んで30年以上になる人々が約7割を占める（東大阪市の一般市民では30年以上の居住年数は4割）。世帯年収は「世間一般と比べて平均的」と回答する人々が47.2%であった。これらの結果から、昔から東大阪市に住んでおり、専業主婦を主とする前期高齢女性が中心的担い手となっていることがわかる。この結果は、他の市町村の社会福祉協議会の調査と同様のものである。

この結果は、高齢期にボランティアとして活躍できる門戸が開かれていると捉えることができる。今後も高齢層の人々が地域福祉活動の担い手となっていただくことが期待されている。しかし、他方で、学生、中高年の男性、東大阪市に移り住んで間もない転入者層、就労者層のさらなる参加も必要である。地域福祉（活動）計画は高齢者、障がい者、児童といった分野別の仕組みづくりではなく、一般市民の生活も包括した生活のあらゆる側面に関連する仕組みづくりのほうである。したがって、その担い手も市民の多様性が保たれていることが望ましい。

ボランティア活動で感じた問題や悩み（個人票 Q21）の分析では、「メンバーが高齢化している」が40.0%と最も多く挙げられている。活動や組織運営の面で困っていること（団体票 Q12）では、「会員が不足している」が36.1%、「会員の層が偏り、新たな会員の参加が得にくい」が24.7%、「リーダーを担ってくれる次世代の人がいない」が34.0%と高い割合を示している。自由記述欄をみると、「だんだんと歳を重ねて、体力がなくなってきた」、「ボランティアが減少し、高齢化し、続けるのが難しくなっている」という意見も寄せられている。

では、どのようにすれば、これまでボランティアに参加していない市民の参加を促進することができるのだろうか。最も重要なことは、「情報の公開と共有」である。ボランティア・市民活動センターへの期待（個人票 Q29）で多く挙げられることは、「活動に関する情報提供」（32.6%）、「活動の広報」（25.5%）である。同じく団体票（Q15）におけるボランティア・市民活動センターへの期待においても「活動に関する情報提供」（40.2%）、「活動の広報」（30.4%）が第1位と第2位を占めている。東大阪市に対しても団体票 Q14 において、「行政からの情報提供や情報開示の充実」（50.0%）が最も多く挙げられている。

図2は、東大阪市の20～79歳の一般市民を対象に行った地域組織や福祉関連団体の認知度に関する2010年の調査結果である。これによると、自治会・町内会やリージョンセンターについては「活動内容を知っている」割合が高いが、社会福祉協議会やその中に設置されているボランティア・市民活動センターについては、「活動内容を知っている」のは1割程度にとどまり、「名前は聞いたことがある」、「名前を聞いたことがない」層が多くを占めている。「校区福祉委員会」についても同様の傾向がある。個別のボランティア団体やNPO法人の認知度は尋ねていないが、東大阪市の一般市民への認知度は、ボランティア・市民活動センターや校区福祉委員会よりもさらに低いことは容易に予想される。

東大阪市や社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターの website において、登録団体の代表者の連絡先や、活動内容、活動頻度、活動場所、活動風景、メンバーとして参加して欲しい人の特徴などを検索しやすく分かりやすいものに改善することや、市や社会福祉協議会のイベントにおいて広報を行うこと、市民の目に触れやすい場所（駅や繁華街、リージョンセンター、公民館、役所内など）に掲示すること、自治会の回覧板や市および社会福祉協議会の広報誌に記事を掲載すること、ボランティアの勧誘を行うイベントを開催すること、どのようなボランティア

活動への要請が多いのかといった情報を集約すること、ボランティア登録者にインターネットを利用して情報を提供すること、など様々な手法を駆使し、一般市民への認知度を高めるとともに、多様な市民を包摂する取り組みを長期的に継続することが必要である。

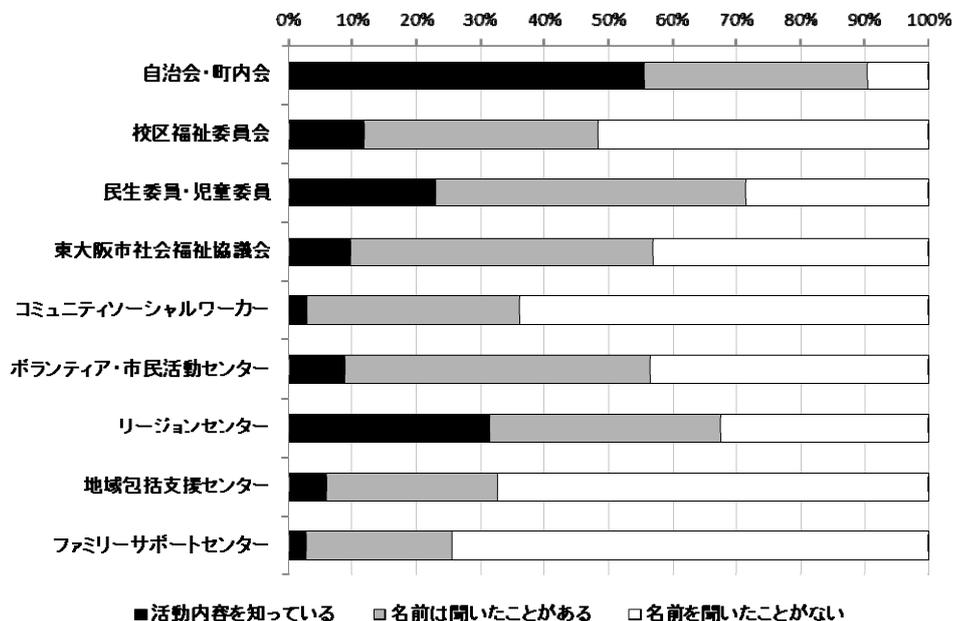


図2 東大阪市の一般市民における各種団体・組織の認知度（2010年）

3. 年齢層によって異なるボランティア観

50歳代以下の若手のボランティアは、高齢層のボランティアと比較して、ボランティアへの参加経路や、ボランティアをすることによって得たいものが異なっている。ボランティアになった参加経路の分析（個人票 Q12）では、若手のボランティアは口コミ効果（地域組織の呼びかけや、地域組織以外の友人・知人からの誘い）が高齢層と比較して弱い。逆に広報誌や website の情報によってボランティアに登録した人々の割合が高い傾向にある。ボランティア活動を始めた動機の分析（個人票 Q13）では、50歳代以下の層において、「活動に興味がある」（37.3%）や「技術や技能を習得したい」（20.3%）、「技能や能力、経験を活かしたい」（34.5%）といった項目において、高齢層より高い回答率を示している。高齢層で多い動機は、ライフスタイルの充実に関連したものが多。例えば、70歳以上のボランティアでは「余暇を有効に過ごしたい」（49.8%）、「自分の生きがいを発見したい」（40.8%）といった回答率が高い。これらの動機の年齢層による差は、ボランティアをしていて感じる良い点（個人票 Q22）の違いにも反映されている。50歳代以下の層では「新しい知識や技能を身につけることができた」（57.3%）が高い回答率を示すが、70歳代以上の層では「健康増進に役立った」（31.6%）、「生きがいを感じる」（42.9%）といった項目が他の年齢層と比較して高い。

ボランティア活動の満足度の分析（個人票 Q26）では、50歳代以下の層ほど満足度が低い傾向にある。問題点や悩みの分析（個人票 Q21）では50歳代以下の層において「メンバーの人間関係でうまくいかないことがある」（18.0%）、「時間的な負担が大きい」（21.9%）、「活動のマンネリ化を克服できない」（12.9%）といった回答率が他の年齢層と比較して高い。若年層ではミッション

(社会的使命) 達成型のボランティア活動や、能力発揮型のボランティア活動を望んでいる割合が高いため、高齢層に多い余暇充実型のボランティア活動のなかに入ると「マンネリ化」として見えてしまったり、意識が異なる高齢世代との人間関係がうまくいかなくなったりする可能性がある。

先述したように、東大阪市ではボランティアの高齢化の問題に直面している。50歳代以下の若手層をうまくボランティア活動に包摂し、定着してもらうには、年齢層によるボランティアへの参加経路の違いや、ボランティア活動に求めているものの違いを認識し、それぞれの年齢層にフィットした活動内容を工夫していくことが必要となるだろう。今後、ボランティア・市民活動センターが、団体の年齢構成や団体の活動内容に配慮しつつ、若手ボランティアへのコーディネート機能を発揮することが望まれる。また、若手ボランティアの獲得は、どの団体においても喫緊の課題として挙げられているため、ボランティアを集めた討論の場をもつことも必要である。

4. 財政面での支援の必要性

今回の調査では、団体票において活動資金や運営資金に関する設問を追加している。活動資金や運営資金の1年間の額を尋ねたところ、全団体の26.8%は「5万円未満」という少額の運営資金で活動を続けている。ボランティア団体に限定すると、この割合は48.1%にのぼる。ボランティア団体では、ボランティアに人件費や謝礼を渡していないものの、イベントの開催や備品の調達、通信費、交通費など、団体運営に金銭面での負担がまったくかからないわけではない。

NPO法人では、委託料や補助金などの公的な支援を受けている団体が多いが、委託料以外の事業収入がある団体は2割にとどまっている。また、NPO法人であっても、専用の事務所を設置している団体は6割、有給スタッフを置いている団体は4割にとどまっている。団体が抱えている問題や悩み(団体票Q12)では、NPO法人の58.8%が「活動資金や運営資金が不足している」と回答しており、ボランティア・市民活動センターへの期待(団体票Q15)では41.2%が「活動資金の助成」を要望していることをみても、公的な財政の支援の必要性が明確である。NPO法人に関しては、大阪NPOセンターからの経営に関する専門家の長期的な派遣といったことも今後検討する必要がある。

5. 関連団体間の連携を強める必要性

人と人のネットワークを構築し、地域組織化を図ることは非常に重要なことであり、さらに、団体間の連携を強化することも必要である。団体間が連携することで、情報の共有が促進され、新たなアイデアや取り組みが生まれたり、事業の安定的・継続的な運営が可能になったりするからである。団体票Q10において、関連団体間の連携状況を尋ねている。5年前と比較すると、地縁組織との連携を除いて、関連団体間の連携が増している。

ボランティア団体とNPO法人別に連携先をみると、ボランティア団体では、他のボランティア団体との連携が最も高く、31.7%となっている。しかし、ボランティア団体同士の連携以外では、連携している割合が10~20%にとどまっている。NPO法人では、行政機関(67.6%)、事業所(52.9%)、他のNPO法人(52.9%)と高い連携割合を示している。

今後の課題としては、現在連携している割合が低いボランティア団体とNPO法人や行政機関との連携、ボランティア団体やNPO法人と地縁組織との連携を強化することであろう。特に、町内

会・自治会は、地域住民に最も身近で、裾野の広い組織展開をしている団体である。テーマ型のボランティア団体やNPO 法人が町内会・自治会と協働することで、町内会・自治会の情報連絡網を活用し、一般の地域住民に福祉関連団体の存在や福祉関連イベントの開催に関する認知度を高めることができる。今回の調査結果では、①町内会・自治会、②ボランティア団体、③NPO 法人がそれぞれ独立して活動している傾向が読み取れる。これら3者は利害関心が異なることも事実であるが、ボランティア・市民活動センターや東大阪市のコーディネートのもとで、共通の地域課題について話し合い、問題意識を共有する場を確保することが大切であろう。

自由回答欄の回答内容

[個人票]

Q30 その他、ご自身のボランティア活動を振り返り、感じることやセンターへご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

■感謝・喜び

自由記述の内容
4月から美術センターの監視ボランティアを始めたが、このボランティアに出会うことができ、とてもうれしく思っている。
50歳の時に「盲人ガイド」をした。盲の方から教わることがたくさんあり、とてもいい学習になった。
Q22（ボランティア活動をしていて良かった点）で答えたように活動により余暇を有効に活動できれば年令の割にはありがたいと思い参加させて頂いています。まわりの人達も前向きな人が多く教えられる事が色々あって感謝しています。
いつも、活動にご協力いただきありがとうございます。
いつもありがとうございます。
いろいろな人との出会いに感謝しています。
サービスセンターで唄の伴奏していて同い年の人が多くて楽しい。
すべてに感謝しながら、ささやかなボランティア活動に満足しています。
センターの人もいい人で気持ち良く活動できています。
たくさんの人たちとの交流があり、とても楽しくしている。
だんだんと歳を重ねて、体力がなくなってきた。自分の健康管理をしながら、できる範囲だ。社会参加ができるボランティア活動に満足している。
ボランティアが楽しい。子供の安全のためこれからも続けたい。
ボランティアセンターの皆様には室の提供、ほか活動の相談 e t c いろいろとお世話になり、ありがたく感謝です。ボランティア活動を続けるに当り、センターの担当者様とのある程度の交流会があっても、より楽に活動できるのではと思うことがあります。
ボランティアでたくさんの方に喜んで頂いて生きがいを感じます。してあげているという思いや一人よがりの気持ちを持たないように心がけていますが、色んな考え方のボランティアの方もいますので複雑です。上から見ない、かと言ってへり下らない、言いたいことは言いたい。
ボランティアに生きがいがあり、楽しくてたまりません。
ボランティアはやりがいや生きがいにつながり楽しく続いている。
ボランティアは自分自身の成長になる。
ボランティアは生きがいです。
ボランティア活動に月一回ぐらい行っていますが喜んでもらい、また、自分自身も楽しんでます。介護センターを回っていい勉強させていただいています。社会勉強にもなります。
ボランティア活動にもいろいろな場合があると思いますが、新しい知識が身につけるようになった事と利用者から感謝されると励みになります。これからもできるかぎり続けて行きたいと思います。
ボランティア活動を通じ、いやされたり、人との会話など経験させてもらい、うれしく思っている。
ボランティア活動を通じて、いろいろな出会いがあり、勉強させてもらって大変うれしい。
みなさんに喜んでいただき有難うとお礼を言われると逆に今まで生きて地域社会に恩返しが少しでも出来、生きがいを感じ、前向きに取り組めます。一生勉強一生青春をモットーに！
一人暮らしでもさみしくない忙しい日々で自分の無理のない範囲で続けたい。
活動することでボケ防止になる。
活動に感動しました。子供の頃から社会参加として活動に参加していれば、ボランティアを支えることになると思います。
活動に参加してまだ日も浅く、月に一度の活動をクリアするのに精一杯です。これといった意見はありませんが、充実感があります。
教えられることが多々あります。
現在はヘルスメイトとして得た知識で隣近所の一人暮らしの方々に、時々手作りのおかずを届けておしゃべりを楽しんでいます。

現在参加しているグループの人たちに恵まれ、充実した活動ができていると思う。
高齢者ですが、皆様と楽しくすごせる幸せを感じています。
今、美術センターのボランティアをさせていただいて14年になります。絵が好きで年3回の特別展の開催をさせていただいてますが、本当に毎日が勉強できることうれしく思います。大事な作品の監視係ですので、気を使うこともおおいですが、来られた方が喜んでくださるときはボランティアをしていてよかったと思います。
今のところ、自分は楽しく、お手伝いしています。
困ってる人の力になれてうれしい。
私たちも感謝申し上げます。私たちも続けていきます。
私のしていた活動は時間的なゆとり、経済的なゆとりがないと続けにくい分野だとつくづく思う。だから、若い方が増えにくいかなと。でもボランティアをしていたからこそ今の仕事につけたのでラッキーでした。(そのかわり活動はできなくなりましたが…)
私はお年寄りとの話し相手となり、ふれ合う事を大事にする活動をしています。始めは暗い感じだったのだが少しずつ明るく笑顔がみられる様になりうれしく思っております。
私も老人ですが健康であることの喜びです。
私自身の毎日が忙しく体も健康で感謝しています。
自治会などの手伝いでもやってみて出来る者がやらせてもらうことにより社会が動く行事が実施出来ることが分かり、やっけていて近所の人、地域の人と話が出来る楽しいです。
自分のボランティアとは、自分の余暇を楽しむためであり、ボランティアができることは幸せで、楽しい。
自分の自由な時間に参加出来るので無理が無いのが良い。1年に一度バスツアーが楽しみです。
自分も相手も成長し、生きる喜びを感じる事が大事。
自分自身が楽しいボランティアである、自分自身の体にもよく、ボケ防止にも役立っているように思えます。
手芸のボランティアを始めて皆様と良い交流が出来生きがいを感じています。私に出来るかぎりつづけていけたらいいなあと思っています。
少しの役に立てばと思いボランティアを始めました。笑顔を見れると、こちらもうれしくなります。
新しい仲間に出会えた。
人との出会いが多くて勉強になる。
人と人の出会いに感謝しています。
人に感謝されたり喜ばれるのがとてもうれしく、涙が出そうになった。これからも、思いやりを持ち、お年寄りを大切にしたい。
先輩たちがとても気さくで楽しいです。
多くを学び、大勢の方々と出会えたことに感謝する。
退職後、ボランティアに参加したのは健康維持を図るため。友達ができ、集まって話すことができ楽しい。
大阪市外から参加しています。東大阪はボランティア活動が熱心な気がします。ボランティアで通うようになって、東大阪市の良さが分かるようになりました。
大勢の人々と接することがあり、知らないことをたくさん知ることができてよかった。
誰かの役に立てるのは、とても幸せなことなので皆さんにも分けてあげたいです。
知識が向上したこと。
長年させてもらいありがとうございます。できる限り頑張ります。
適度な運動ができ、林がきれいになり、楽しみながら社会貢献できることにやりがいを感じている。
都合の良い時間、都合のよいペースで参加させてもらっています。無理なく、参加させてもらっている事に対して、有難く思っています。
東大阪市での仕事が、私の仕事のすべてであり、東大阪でボランティアできる幸せを感じています。
法人のボランティアグループで老人の住まいを訪問し、食事や掃除をしているが直接話ができて喜んでもらえうれしい。
無理なく参加させていただいていますのでそれも私には、良かったと思います。
友人がたくさんできた。美術センターの方々から感謝されていること。自分の趣味とあっていること。
利用者の方に喜んでもらえてよかった。若い人にもっと頑張ってほしい。
良い勉強になることが多いです。何でもやってみたいです。体の続く限り、みなさんの邪魔にならないように、とおもっています。私にとって老人センターはとても有意義な活動がいっぱいあります。いつも楽しみにしています。
老人会より小学校の低学年と楽しく遊んでいる。年に一回小学校5・6年と団子汁を作って楽しんでいる。小学校の草取りを一緒にしている。

■継続・努力

自由記述の内容
60年の経験を活かして命ある限り社会に還元していきたいと思います。
Q25（今後のボランティア継続意向）について何十年後か先のことを考えてこれからもボランティアに取り組みたい。
あまり無理しない。
うれしい顔を見るたびに頑張ることができ今後も続けたい。
これからも皆さんと共通の考えを持って取り組んでいきたい。
これからも高齢者の見守りをやっていきたい。
つらいこともあったがこれからもがんばっていきたい。
できるようになれば参加したい。
ボランティアを自分のためにも頑張っていきたい。
ボランティア活動にかかわり20年になります。これからも元気で仕事にボランティアに頑張りたいです。
ボランティア活動をライフワークとしております。
まだまだ活動は続けていきたいが、高齢化のため十分活動できない。
外国の方に日本語を教えている。これからもがんばりたい。
外国人に日本語を教えていて利用者がいないときは活動ができないので少しでも多く活動をしたい。
楽しむことを第1とした、ボランティア活動にしたい。
活動を始めてまだ間もないが、先輩方を見習って、続けていきたい。
気負いせず長く続けたい。
元気なうちは続けたい。
元気な限り地域の役に立ちたいと思います。
現在のままをできるだけ長く続けていきたいです。
高大等専門知識を身に付けて各地に分散して活動しているが、その年代の少グループの活動をしていく場合が多い。若い人たちを育てていきたい。
高齢者の送迎を続けたい。
高齢者の配食の会で学んだことでもっと地域で配食ボランティアを一人暮らしの方にしてあげたい。
今ではなく、何年か先の地域のためにお手伝いできればと思っています。
今後もボランティア、市民活動センターの活動に協力させて頂きたいと思っています。
今後も愛ガードを続けていきたいです。
今後も楽しく参加していきたい。
今後少しずつボランティア活動をしていきたいです。
参加して初めて大切さがわかった。今後も続けたい。
市政だよりをみて手作り教室に通う趣味を見つけた。市政だよりを通じて活動の場を広げていきたい。
市内に住んでいるが東大阪市での活動も考えていきたい。
私も、もう年齢がいきますので、健康で元気でがんばっていければと思っています。もう少しは頑張っていけそうです。
私自身のペースで細く長く続けさせていただき、有難く思っています。これからも続けていきたいです。
時間の余裕を見つけて活動したいです。
自分にできる範囲内でやっているなのでこのまま頑張る。
自分の経験を生かして自分のできる範囲でこれからも続けていこうと思っています。
自分の高齢期に向かってき、体調が思わしくない時など続けていくのが不安であるが、出来るだけ続けていきたい。
自分の出来る範囲でボランティアをしています。
自分の得意な分野で役に立てたら幸せです。
自分の特技を生かしたボランティアをしたい。
自分もいつかボランティアをしてみたい。
自分もお世話になっているので、できる限り恩返しをしたい。
自分自身も明日がわが身と思ひ頑張ります。
生涯続けていきたい。

生活の一部としてこの先も続けられるような毎日していきたい。
地域活性化の役に立ちたい。
年に数回ですがボランティアに参加できるように心がけている。
年齢的に腰両膝が痛いですが心は豊かです。この状態で参加出来ることに感謝しています。これからもボランティア活動を続けて行きたいと思います。
無理なく頑張ります。
無理のない範囲で活動していきたいと思います。今出来る事、先方が望んでいる事を自分達の出来る範囲で提供し、提供する側、受ける側、相方が楽しく心豊かな充実した時間を共有できるように心がけています。すべて自費の活動なので限界は常に有りますが、がんばります。
無理をせず頑張りたい。
老人ホーム慰問をしていて楽しんでもらえるように頑張っている。
老人介護施設に56人が新舞踊カラオケ時々踊等毎月訪問させて頂いております。身体が不自由な方が多いので1時間以内でたのしんで頂こうと今後も頑張っ続けようと思います。

■不満・不安

自由記述の内容
ボランティアしている人の気持ちを知りたい。
ボランティアに関心のない人が多い。
ボランティアは資格やルールに厳しい。
ボランティアは他人にあまり言えない位しかやっておらず、年齢的に体力に自信がもてない。
ボランティアをさせていただいた時はまだ若かったので人に喜んでもらって良かったのですが、自身年齢になり自転車に乗っての仕事なので、転んだりしないか不安を感じていますが、今のボランティアはもう少し続けていきたいと思っています。
ボランティア活動の講習を受けても家の事情で長く活動できないためあまり活かすことができない。
ボランティア活動を無理にしてしまうことがある。
ボランティア活動東大阪市の時交通費や食事代がかかることがあり、小銭がなくなることがある。
もう少しボランティアに参加したいと思いましたが、自分の母親が高齢のためそちらのほうに今は時間を使っています。
我々のグループは75歳から85歳の年齢で体力がついていけない。
関係施設で不愉快な対応をされた。
金銭面での負担が多すぎて活動に影響がある。
後継者が見つからない。
行政からの指導はありますが、あつれきも有り、自由に行動できない面もあります。
高齢者が多い地域に住みながら聞く耳を持つ人が少ない。
今ボランティアの中心者が病気がちで負担が偏っていることが問題。
仕事内容とボランティア活動が似ていて、ボランティアは報酬がもらえないので魅力を感じなくなりました。ボランティアの難しさを感じている。
私は腰が痛いからお手伝いできない。
自己負担が大きい。
周囲との関わり方が難しい。
所属するボランティアの会の方向性が講習を受けて参加させていただいた当所に比べ変化しているように思われる。
助成金などの申し込みの書類が多すぎる。
二人暮らしで一人が高齢になりなかなかでにくい故、思うように参加できなくなりました。特に人の事を考えお世話する事が出来なくなります。
日本語教育ボランティアをしており、活動を通して地域の外国人学習者の悩みなどをうかがっている。ボランティアの高齢化が気になる。
年齢的に終了が近い。
年齢的に体力が衰えてきて、足腰が痛くなってきたのでいつまで続けられるか不安だ。
膝関節に不安を抱えているので、ボランティア活動が出来ないことが残念である。

■要望・改善（活動場所の確保）

自由記述の内容
スピーカーその他を置いておくスペースを無料で貸して頂きたいです。畳1枚弱です。
活動する為の、練習場所がほしい。15人ほどの。
活動場所がいつでも使用できる専用の所があればいいのにと常にかけています。
高齢者がゆっくり過ごせる場所がほしいと思います。
自治体の会館を貸してほしい。

■要望・改善（活動資金の援助）

自由記述の内容
NPOのお金が少ない。
イベント活動先訪問、教材、最低限度の活動資金の要求。高齢者が今後増加、老人ホームへの活動に参加望む。
ボランティア活動に経済的負担が大きいと人が集まらないと思うし、活動できる人材不足になると思う。現在の日本の状況では心の余裕が少ない人が多いと思われ、ボランティア活動までできる余裕のある人が減ってきているようにも思います。また、東北地震の影響でそちらにボランティアが集中しているのでは？ともあります。
移動が必要な交通費等、援助が少しでも有れば助かります。
活動センターを市役所内に移動してほしい。
活動資金の援助をしてほしい。
活動資金の助成がほしい。
経費をもうすこしかけてほしい。
交通費をだしてほしい。
交通費支給の自治体もある。それが望ましい。
交通費支給の制度がほしい。
市は各種団体に活動援助金を渡しているが多くの団体は100万円以上の繰越金を持っており、また、役員による横領も多く見られる。全部の団体に会計のチェックは無理と思うが、長年になる団体については抜き打ちの会計監査を行うべきである。また、活動援助金の全廃も含め考えるべきである。
自己負担への対応。
自分のスキルアップのための講座などの開催のための予算がほしい。
掃除用具が古いのが多く使いづらい。活動費は必要分はいただきたい。
大阪府の福祉における助成金が減っているので活動団体が寄付を個々に求められることもあるので支援するのが容易ではないと思います。
地域ふれあい交流会の参加者を増やす企画を立案してほしい。他市の施設の入場料の補助を考えてほしい。
任意のボランティア活動についても、市又は府の援助支援が必要だと感じた。自治会の長による独裁もよくないと思う。
予算が足りない。

■要望・改善（広報・情報）

自由記述の内容
シニアにとって、ボランティア活動は健康的にいいと思う。誰もが活動しやすく、活動したいと思えるような広報、情報提供を望みます。
どういうボランティアに参加できるのか余りPRされてないので市政日より自治会回覧等で通知してはどうか。
ヘルスメイトの活動や育成のための講習会に参加をすることを推薦します。口コミでしか知る機会がないのもっと知ってもらえる方法はないのか？
ボランティア、市民活動センターの組織や内容知らないまま参加しているので研修会があれば良いと思います。
ボランティアには参加したいが、案内がほしい。
ボランティアをしたいと思っても、一般の人にまで情報が行き届いていない現状があり打破する案をあげて、実行してほしい。
ボランティアをできるところを教えてほしい。
ボランティアをやってみたい人と利用したい人との結びつきをどうしていくか？

ボランティアを必要としている人のためにボランティアの認知を増やす活動をしてほしい。
ボランティア活動をしたいが、どのように申し込めばいいかわからないので情報提供してほしい。
ボランティア活動団体の交流や、活動の広報、市民の方々へ活動を知ってもらうための手助けがほしい。
ボランティア団体の一覧表を届けてほしい。一覧表には団体の事務局や代表者の連絡先を入れてほしい。
軽度の認知症の皆さんに参考にしてほしい。市民は案外ボランティア・市民活動センターの存在を知らない人が多い。この機会に市民が積極的に活動してほしい。
語りや本の読み聞かせを通じて子供たちと心通いあえたという実感がある。自分たちの活動を理解し広報の機会を作ってほしい。
自分の地域では情報もなく他の自治会の役員さんを知ってる人がいて、そちらの方の行事に参加しています。市民活動の参加の仕方がよくわからない。
社会的に成功した人や富豪にはボランティア等の社会奉仕経験者が多いです。「ビッグ（金持ち）になりたいければボランティアをしよう」等のキャッチフレーズや「運が良くなりたいたいものはボランティアするべし」といった若い人が興味を引くキャッチコピー等で、若い人や特に不良少年少女にボランティア活動に参加してもらって、東大阪が、ボランティアの街になってゆけばいいと思います。10代、20代の若い人が増えてほしいと思います。
社会福祉協議会については、新聞からしか知識を得ることがなく、いまやっているボランティアが社会福祉活動になるとは思わなかった。
若い人の参加が少ないので淋しい。PRの方法を考えたい。
若者にアピールしてほしい。
存在意義を高めアピールする。
地域に住む外国人のための日本語教室や障がい者支援のボランティアのアピールがしたい。
地域の掲示板にボランティアの情報を張ればいい。
美術センターにおいて、参加したいイベントが有りましたが、連絡情報不足で参加できなかった事、非常に残念でした。平等に何とか連絡する方法はないものかと思います。
募金活動などの仕事の情報は公的機関なら集めて調整できるのではないかと思います。

■要望・改善（人材確保・人材育成）

自由記述の内容
60歳以上の若い高齢者がボランティアに参加できる何か方法はないか？ネットワークを作って活動を活性化させたい。
センターの利用者以外でも気軽に参加してほしい。
センター主催のボランティア講座の修了生のボランティア活動への定着率は伸びているのか？
プロのNPOのひとに来てもらいたい。
ボランティアする人が高齢者が多いので若い人を募集したい。
ボランティアの自己啓発。
ボランティアの人材育成の場を多くしてほしい。
ボランティアをする人は高齢者が多いので、行政に改善を求める。
ボランティア講座や学習会を、多くの人に聞いてほしい。
やりたいことが多く手伝ってくれる人がほしい。
会員が段々高齢になり、若い人の入会が少ない。（子供が小さい事や仕事に出る人が多い為）会員が減少している。活動する時は長時間になる為、又、交通費等の援助もない為、助成金を増やして欲しい。
活動グループの代表者の交代を希望。
研修を受けて活動したいと意欲のあった方が次々と活動中止となり、残念です。長い目で活動できるための、ステップが必要かと思います。研修数回で、実践は無理がある様に思う。地域の中で細やかなサポート体制が取れる組織づくりが必要だと思っています。
元気な年寄りが多いので、できるだけ参加人数を増やしてほしい。
若い人に社会でボランティアをしてもらいたい。
若い人に来てもらいたい。
人材育成。
人材育成が必要。
男性の参加が少ない。
長い間少人数で頑張っている。新たな人材教育が課題
病院ボランティアを今年より辞退いたしました。後に関わる人達を養成してください。約12年間続けました。

■要望・改善（その他）

自由記述の内容
NPOだけでなく市の協力も必要。
いったん登録すると、家の事情で行けないときに周りの人に迷惑をかけるのではと心配で、なかなか登録に踏み切れない。
このアンケートの結果を生かしてください。
これから援助してもらおうとき不安な面があります。
ボランティアグループの交流会の開催（発表会兼）。
ボランティアだからこの辺で手を打っておこうではダメ。
ボランティアと問われた場合は、何をしても人の為がボランティアになるのかが疑問である。一口にボランティアとは何を在ればあてはめられるのか。
ボランティアをしている人は、時々初心にかえり、我が身を振り返るべき。
ボランティア活動には活動の皆様との人間関係が円滑にいくことが活動しやすい場になると思います。これは自分が克服するしかないのではと悩みました。この年になればある程度乗り切ることができました。
ボランティア団体に登録していても実際に参加しない人もいます。
もっと自治体にセンターからの依頼がほしい。
歌ってほしい歌があるのならばホームのほうで言ってくれば歌いたい。
語学教室での成果を図るため、年一回程度で弁論大会が開催される。特別賞とか努力賞などをあげてほしい。
高齢化にともない意識向上を図るために生涯学習の道を広くしてほしい。
今後色々な課題に対して行政市民活動しているグループ間の連携が必要とされる。
災害救護活動にもっと簡単に参加できるようにしてほしい。
子供たちにゴミ拾いしてもらいたい。
子供のためのいろいろな試みをしてほしい。
市の公共施設を借りるとき、施設内での会食をできるようにしてほしい。
地域について各団体の横のつながりに疑問を感じる。ボランティアの本質的なあり方を学びたい。
地域のなかで壁が大きすぎるので参加しやすくしてほしい。
長年の活動の中で、私たちの意見を繁栄する場が全くない。
東大阪の大きさに見合った活動しやすい拠点が市民の声を活かして新しくできればいいと思う。
東大阪地域の外国市民の方が住みやすいように今後ともお願いします。

■その他の感想

自由記述の内容
NGO 会員、NPO 役員として国際協力（教育支援）活動を行っているが参加の若者の意識の二極化が感じられる。
お茶の湯とフラワーアレンジの講師をしているが、ボランティアは、自分の環境や生活に余裕がなければできない。そして、健康にも。ボランティアに参加される方もやはり経済的な余裕のある方が参加する気持ちになると思います。
ボランティアはしてあげるではなく自分自身のためにという思いで参加しています。
ボランティアは人を思って自分のためにする。仕事は人のためにする。
ボランティア活動は自分のペースにあわせて無理のないように長く続けられることが大切に思います。もっと若者にも参加してほしい。
まだ、経験が少ないので、現在はあまり、意見はありません。
歌が好きなので何か役に立ちたい。
会社、定年後パート勤務になり時間のあいている時に参加させてもらっています。小学校の同級生の人達がおもしろく活動しております。もっと友人を誘いたいと思います。足が悪くなって困っていましたが動けるようになり喜んでおります。
活動する事により人の気持もわかる様になり又、自分自身お世話になる時の事を考えて注意しなければいけない事もある様に思いました。
気が付けば家族を犠牲にして、ボランティア活動をやっていた自分がありました。今後は、家族に甘えてばかりせず、大事にしながらか活動できるように心がけたいと思っています。ただのおせっかいおばさんが私の目標です。

気軽に参加できるボランティアがあれば参加したい。
空いた時間に自分のできることを自分のできる範囲内でしていくことをモットーとしている。
現在介護の仕事をしているが、自分の職を生かした活動がしたいと思う。
広域に渡って活動しておりますと、市の行政単位でかなり地域差があるように思われます。
高齢化により今までの活動ができないことを残念に思う。身の回りのことをしていきたい。
国民年金者への処遇。
最近とみにセンターの活動に期待している。
昨年登録しましたが、まだ活動はしたことがありません。希望は対人のボランティアではなく、私はミシンを掛けることが好きなので、体の不自由な人の着る物等の直しなど、できれば在宅でできる事がしたいのです。ボランティアに強制されたり、振り回されたりは、したくないのです。アンケート希望で○印を入れています。雑草がはえやすい。
子供への活動中考えさせられることがある。
市民活動センターさんより、よく TEL いただいております。
私は組織としての活動はしていない。
自分がやりたいことをやらしてもらっている。
自分のしてることに責任をもち、しているという態度にならない。
自分は大阪市内に住んでいるので、あまりボランティア活動を始めて年数もたっていませんので東大阪ボランティア活動の事も詳しく知りませんのでアンケートの回答もあまり的をえた回答ができていないと思います事お許し下さい。
自分自身が楽しんでいるだけでないかと。
社会福祉協議会は老人介護を扱っているだけと思った。
若い時は色々とお勉強のつもりでやりましたが今は自分の事だけで精いっぱいです。
住んでいる地域に老人が多く月に3回ほどボランティアに参加している。
新しく始めるボランティアの保険や保障。
毎年新しくなる機器がほしいです。受講の方達は持ち込みでパソコンのセブンとか2010年型を持ってこられます。プリンター等も新しい物が1台ほしいです。
人のために火をともしれば我がまえあきらかなるがごとし。
人様に役立てればいいと思います。
長年、大阪船場で商をし商業者の子弟にスパルタ教育を実施し、廃業するまでその様子がNHK多民放各社で放映され北海道から九州まで講演しました。
定年してさみしい。
東大阪市外で視覚障害者のサポートを50才からしています(山ネット)サポートロープを付け山登り(登山)。
道徳の考え方について、考えていきたい。
福祉委員会で地域サービスの地域一人暮らしの人に食事会など誘いたい。
無理にすることでもないし、自分のできる範囲でするのがボランティアかと。
老人パワーを生かした街作り。
老人施設の慰問を2回経験しました。職員の方、ボランティアの方、きびきびとお世話しておられましたが、老人の方々の表情が少し暗い感じがしました。心の中まで癒すことはむづかしいです。

[団体票]

Q16 「ボランティア・市民活動センター」に期待される内容について、具体的なご意見やご要望がありましたら、お書きください。

■ボランティア団体

カテゴリー	設置年数	自由記述内容
不満・不安	5年未満	メンバーの中に認知症の人がいて困っている。迷惑な高齢者と思われぬように自分たちのことは自分たちでやっつけていこうと思っています。
要望・改善（人材確保・人材育成）	5～10年未満	人材も高齢になりつつあるので若い方が研修会に参加していただけるような学習会がほしい。
	10～20年未満	高齢化が原因で活動が収縮している。
	10～20年未満	会員数が少ないため当日どのような事態が発生するかわからないので思い切って参加できません。他のグループとの連携を望んでいます。
要望・改善（広報・情報）	5～10年未満	やってもらいたいこと。1、各団体間の連携、ネットワークづくり、活動の交流。2、人材育成、60歳代の若い人達がボランティアに参加してくれるような方法を考えて下さい。3、日常的な経費の助成をしてもらいたい。
	5～10年未満	ボランティア活動成果不備等、私たち活動の今後の課題が多い。利用者の満足度など改善点の報告をしてほしいです。
	10～20年未満	提案してもなかなか聞き入れもらえない。しかも、その説明もない。新しい人材も大事ですが、個々の意見も今一度受け入れる耳を持ってほしい。おろしたらそれで終わるのではなく、結果の把握も大事なことだと思います。
	10～20年未満	各団体の役員並びに代表が一同に会したことがないように思う。1つ1つの各団体の活動も紹介していただきたい。
	10～20年未満	各団体の内容を知っていただいて、ボランティアの紹介などをしてもらえれば助かります。
	10～20年未満	一時的なボランティアを望む人々、学生たちと関わる機会が多いので、そういった人たちが参加できる活動があれば知らせたい。
	10～20年未満	ボランティアが減少し、高齢化し、続けるのが難しくなっている。（自転車で配食するため）現在は介護保険との関連の中での活動なので、もっと配食活動のあり方としてボランティア意識が希薄化するのではと思うので学習会や講義を開き、大切な活動であることを広めていただきたい。
	20年以上	中、高齢者の団体の為思う様に（肉体的）活動は仲々難しいボランティア連絡会の行事等においては出来るだけ参加する様会員には、いつもお願いしています。個人的には、自治会の行事を初め学校の見守りには積極的に活動している人達が多い。各グループ活動は、積極的な活動は多いが、福祉関係には、もう一つ協力が難しい現状です。会報等でお願している。
	20年以上	ボランティア参加者募集、宣伝してほしいです。

■NPO法人

カテゴリー	設置年数	自由記述内容
感謝・喜び	10～20年未満	機関紙発行の際に印刷機、ありがとうございます。
要望・改善（活動資金の援助）	20年以上	人材確保、知識の向上のため、活動経費の助成を望む。
要望・改善（広報・情報）	5年未満	弊法人の活動の過程で得られた研究成果を発表する場や関連機関、その他関連企業との連携を行う際の仲介などの役割を担っていただければと思います。
	5～10年未満	広くボランティアの希望をとらえ、紹介してほしい。各団体が本当に必要なもの（物・人・場所）がそろっているか把握する必要がある。
	5～10年未満	月1回ペースでレク活動をしていきたい。V0活動の説明をしやすくしてほしい。
	5～10年未満	スタッフ不足のため、新しい情報を得るのが遅れるため、早く情報がほしい。対処法を教えてほしい。
	10～20年未満	市と協働して、市民の広報と活動の場の増強を希望。
要望・改善（その他）	5年未満	団体と団体、団体と個人をつなぐ中間支援組織になってほしい。
	10～20年未満	プラットフォームとして機能・体制・制度を早急に確立してください。

Q17 その他、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

■ボランティア団体

カテゴリー	設置年数	自由記述内容
感謝・喜び	10～20年未満	ボランティア活動を通じていろいろなことを学ばせていただき感謝しています。自分のできる範囲で社会とつながり豊かな老後をご過ごしたいです。
不満・不安	5～10年未満	研修会会場の確保ができなくて困っている。
	5～10年未満	学校内のクラブであり、活動に制約が多い。学校の活動への理解が乏しく残念。社会福祉協議会への登録すら渋られた。
	10～20年未満	高齢化による会員の減少。
	20年以上	行政と協働したとしても、私たちにできることは限られている。
	20年以上	会員に高齢者が多く活動には、無理な点も有る自団体の中で、グループによりボランティア活動に、消極的な面が有る。又引き寄せるのに限界有り、各グループ活動には積極的に参加は、熱心で有るが、ボランティア活動には、協力をお願いしているが、仲々参加する人が少い。中には一生懸命やっている方が、おられるがその数が増えるよう努力している現在です。
要望・改善（活動資金の援助）	10～20年未満	パソコンが旧式なので新型のパソコンがほしい。プリンタも旧式のため新型がほしい。受講生の方のパソコンの方が新型で対応しにくい。
要望・改善（その他）	5～10年未満	東大阪市がもっと活発にボランティア活動ができるようにしてほしい。
	10～20年未満	お仕事こなすのではなく、もう少しボランティアに温かい目を向けてほしい。良い接し方を希望します。
	20年以上	NPOとボランティアをひとくくり統計することに無理があるのではないかと。回答しにくい質問が多い。

■NPO 法人

カテゴリー	設置年数	自由記述内容
継続・努力	10～20年未満	東大阪市に住む外国人市民のために役に立ちたい。
不満・不安	10～20年未満	時間の許す限り、ボランティア活動に参加したいのだが、利用者の支援に追われ、余裕がない。
要望・改善（活動資金の援助）	10～20年未満	資金難。広く市民に認知と理解を強めてほしい。他のボランティア団体と交流できれば、活性化に繋がる。
	10～20年未満	支援、会費増をはかりたい。
要望・改善（広報・情報）	5年未満	今回のアンケートで初めて「ボランティア・市民活動センター」の存在を知った。弊法人の活動を推進する際、貴団体が発信されている情報を参考にさせていただきたいと思う。

調査票

2012年9月

【個人票】

(調査企画・実施) 東大阪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
(調査協力) 大阪商業大学 総合経営学部 宍戸研究室

ボランティア活動に関する アンケート

平素はボランティア活動やボランティア・市民活動センターの運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。東大阪市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターでは、活動されている方々のご意見を活かしてボランティア活動の推進を図るとともにセンター事業の充実を図っていくよう、定期的にアンケート調査を行っています。

この調査は、ボランティア・市民活動センターに登録しているボランティアグループのメンバーのみなさんに回答をお願いしています。調査結果はすべて統計的に処理し、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してございませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

回答について

- ・このアンケート用紙は、封筒の宛名の方ご本人様が記入ください。
- ・質問番号順にお答えください。
- ・お答えは、回答番号に○印をつけてください。
- ・() や には、具体的にご記入ください。
- ・ご記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかどうかお確かめ願います。
- ・ご記入いただいた調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れ、10月10日(水)までにポストに投函ください。切手は不要です。

お問い合わせ先

東大阪市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター
住所：〒577-0054
東大阪市高井田元町1-2-13 市立総合福祉センター4階
e-mail: hosi01@heartnet-hoshakyo.org
TEL: 06-6789-5550 FAX: 06-6789-2924

最初に、あなた様ご自身のことについて、おうかがいします。

Q1 あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

Q2 あなたの現在の年齢をお答えください。

--	--

 歳

Q3 あなたが現在お住まいの地域は、東大阪市内のどこにあたりますか。あてはまるリージョンに○をつけてください。

- | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|----|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 |
| A | B | C | D | E | F | G | 市外 |



Q4 あなたは、現在の地域に住んで、おおよそ何年になりますか。

おおよそ

--	--

 年

Q5 あなたは現在、収入をともなうお仕事をしていますか。している場合、その主なお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。

- 1 学生
- 2 自営業主・自由業者又はその家族従業員
- 3 経営者・役員
- 4 正規の社員・職員
- 5 パート・アルバイト・嘱託・臨時・派遣・内職
- 6 現在、仕事をしていない

Q6 現在、一緒に住んでいる方は、あなたを含めて何人ですか。

あなたを含めて

--	--

 人

Q7 現在、あなたと一緒に住んでいる方は、どなたですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。ひとり暮らしの方は、11に○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-----------|-----------|
| 1 配偶者 | 5 祖父母 | 9 その他の親族 |
| 2 子ども | 6 子どもの配偶者 | 10 親族以外の方 |
| 3 あなたの親 | 7 孫 | |
| 4 あなたのきょうだい | 8 配偶者の親 | 11 ひとり暮らし |

(以下全員の方に)

Q12 現在のボランティア活動を始めた最初のきっかけは何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 自治会や女性部会、PTA など地域の組織の呼びかけで
- 2 地域の組織以外の家族・友人・知人から誘われて
- 3 東大阪市や社会福祉協議会の広報誌を見て
- 4 市や社会福祉協議会のホームページを見て
- 5 道路に設置されている自治会の掲示版を見て
- 6 ボランティアや市民活動団体のホームページを見て
- 7 学校や職場の行事として
- 8 何の情報もなく、一人で始めた
- 9 その他 ()

Q13 あなたが現在のボランティア活動をはじめた動機は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 他人や社会のために役に立ちたいから
- 2 自分の技能や能力、経験を活かしたいから
- 3 自分の生きがいを発見したいから
- 4 余暇を有効に過ごしたいから
- 5 友人を得たいから
- 6 自分の身につく技術や技能を習得したいから
- 7 活動に興味があるから
- 8 本、映画、テレビなどで感動したから
- 9 以前にボランティアのお世話になったことがあるから
- 10 自分自身がボランティアのお世話になるかもしれないから
- 11 ボランティアの養成講座を受講したから
- 12 学校や職場、宗教の影響を受けたから
- 13 友人の影響を受けたから
- 14 その他 ()

Q14 現在のボランティア活動はおおよそ何人のメンバーでしていますか。複数の団体に加入している方は、最も積極的に参加している団体についてお答えください。

- | | | | | |
|-----|------|--------|--------|-------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 1人で | 2～9人 | 10～19人 | 20～49人 | 50人以上 |

Q15 あなたがボランティア活動に参加した時の状況は、次のA・Bのどちらに近かったですか。あてはまる番号(1～4)に○をつけてください。

A 自ら進んで 自発的に	1 Aに近い	2 どちらかといえば Aに近い	3 どちらかといえば Bに近い	4 Bに近い	B 周囲の状況から 半強制的に
--------------------	-----------	-----------------------	-----------------------	-----------	-----------------------

Q16 現在、あなたはどのくらいの頻度で、ボランティア活動を行っていますか。

- | | | | | |
|----------|------------|------------|------------|---------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ほぼ
毎日 | 週に
1～数回 | 月に
1～数回 | 年に
1～数回 | ほとんど
していない |

Q17 あなたは、現在行っているボランティア活動を何年間続けていますか。1年未満の場合は0と記入ください。

おおよそ 年間

Q18 あなたが行っているボランティア活動の活動場所はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1 自治会館・集会所 | 7 病院・診療所 |
| 2 公民館・公民分館 | 8 対象者の家 |
| 3 学校 | 9 グループの事務所 |
| 4 リージョンセンター | 10 あなたの家又はグループメンバーの家 |
| 5 ボランティア・市民活動センター | 11 その他 () |
| 6 社会福祉施設 | |

Q19 あなたは校区福祉委員会の活動に参加していますか。

- 1 ボランティアとして参加したことがある
- 2 住民の立場で参加したことがある
- 3 校区福祉委員会は知っているが、参加したことがない
- 4 校区福祉委員会を知らない

Q20 あなたはNPO（非営利組織）の活動に参加していますか。

- 1 NPOのメンバーとして活動に参加している
- 2 NPOのメンバーではないが、活動に参加したことがある
- 3 知っているNPOはあるが、活動に参加したことはない
- 4 NPOのことは知らない

Q21 あなたはボランティア活動で次のような問題や悩みを感じることはありませんか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 メンバーの人間関係でうまくいかないことがある
- 2 メンバーが高齢化している
- 3 活動のすすめ方や活動上の悩みを相談する人がいない
- 4 新しい活動の場の発見が難しい
- 5 活動そのものについて疑問や矛盾を感じる
- 6 家族や近隣の理解が得られない
- 7 ボランティア・市民活動センターや行政機関と意見の食い違いがある
- 8 時間的な負担が大きい
- 9 経済的な負担が大きい
- 10 体力的な負担が大きい
- 11 活動のマンネリ化を克服できない
- 12 ボランティアの力だけではどうすることもできず、限界を感じる
- 13 その他 ()
- 14 特に問題や悩みを感じたことはない

Q22 あなたはボランティア活動で次のような良い点を感じることがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 ボランティア活動をきっかけに新しい友達ができた
- 2 新しい知識や技能を身につけることができた
- 3 他人への思いやりの気持ちや理解が深まった
- 4 社会福祉についての理解が深まった
- 5 利用者から感謝されて、うれしかったり、励みになる
- 6 社会の見方が広まった
- 7 健康増進に役立った
- 8 生きがいを感じる
- 9 人間性が豊かになった
- 10 余暇を有効に活用できるようになった
- 11 その他 ()
- 12 特に良い点を感じたことはない

Q23 あなたが現在行っているボランティア活動の地理的な範囲は、おおよそどのくらいの範囲ですか。

- 1 自分の住んでいる小学校区内
- 2 自分の住んでいるリージョン内
- 3 東大阪市内
- 4 東大阪市外

Q24 あなたは今後してみたいと思うボランティア活動がありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 保健・医療・福祉の増進を図る活動
- 2 社会教育の推進を図る活動
- 3 まちづくりの推進を図る活動
- 4 観光の振興を図る活動
- 5 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- 6 学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動
- 7 環境の保全を図る活動
- 8 災害救援活動
- 9 地域安全活動
- 10 人権の擁護または平和の推進を図る活動
- 11 国際協力の活動
- 12 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- 13 子どもの健全育成を図る活動
- 14 情報化社会の発展を図る活動
- 15 科学技術の振興を図る活動
- 16 経済活動の活性化を図る活動
- 17 職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
- 18 消費者の保護を図る活動
- 19 その他 ()
- 20 今後してみたいボランティア活動はない

Q25 あなたは現在のボランティア活動を今後も続けたいと思いますか。

- 1 できるかぎり今後も続けていきたい
- 2 余裕があれば今後も続けていきたい
- 3 できれば活動から身をひきたい

Q26 あなたは、現在のボランティア活動に、どの程度満足していますか。



Q27 あなたご自身は、どのくらいの頻度で、町内会・自治会の活動（これに関連した地域活動を含む）に参加していますか。

- | | | | | | |
|------|------------|------------|------|------------|-----------------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| ほぼ毎週 | 月に
2～3回 | 月に
1回程度 | 年に数回 | 年に
1回程度 | まったく
参加していない |

Q28 あなたは、これまでに地域組織（町内会・自治会、PTA、子ども会、女性部会、青年団など居住地域内の組織）の役職についたことがありますか。

- 1 ある 2 ない

Q29 あなたは、社会福祉協議会「ボランティア・市民活動センター」にどのようなことを期待しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------|--------------------------------|
| 1 事務所スペースの貸与 | 7 活動や組織運営に関する相談 |
| 2 活動スペースの貸与 | 8 学習会・研修会の開催 |
| 3 資材・機材等の貸出 | 9 新たな人材の養成 |
| 4 活動資金の助成 | 10 他団体等との交流の場の提供 |
| 5 活動の広報 | 11 関係機関等との連携・調整 |
| 6 活動に関する情報提供 | 12 その他（ ） |
| | 13 特に期待することはない |

Q30 その他、ご自身のボランティア活動を振り返り、感じることやセンターへご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

ご協力、誠にありがとうございました。

皆さまからいただいた貴重な情報は、今後の市民活動の推進のために活用させていただきます。
誠にお手数ではございますが、同封の返信用封筒（切手不要）をお使いいただき、お近くの郵便ポストにご投函ください。

2012年9月

【団体票】

(調査企画・実施) 東大阪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター
(調査協力) 大阪商業大学 総合経営学部 宍戸研究室

ボランティアグループ・NPOの組織・活動 に関するアンケート

平素はボランティア活動、NPO活動やボランティア・市民活動センターの運営にご協力いただき、誠にありがとうございます。東大阪市社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターでは、活動されている方々のご意見を活かしてボランティア活動・NPO活動等の推進を図るとともにセンター事業の充実を図っていくよう、定期的にアンケート調査を行っています。

この調査は、ボランティア・市民活動センターに登録しているボランティアグループと市内に本拠地を置くNPOに回答をお願いしています。調査結果はすべて統計的に処理し、ご回答いただいた方にご迷惑をおかけすることは決してございませんので、率直なご意見をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査の回答につきましては、できる限り、代表者のご意見だけでなくメンバーの方々のご意見も踏まえた団体としてのご意向を記入いただければと思います。お忙しいところ誠に恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

回答について

- ・このアンケート用紙は、封筒の宛名の方ご本人様が記入ください。
- ・質問番号順にお答えください。
- ・お答えは、回答番号に○印をつけてください。
- ・() や には、具体的にご記入ください。
- ・ご記入が終わりましたら、もう一度、回答漏れがないかどうかお確かめ願います。
- ・ご記入いただいた調査票は、無記名のまま同封の返信用封筒に入れ、10月10日(水)までにポストに投函ください。切手は不要です。

お問い合わせ先

東大阪市社会福祉協議会 ボランティア・市民活動センター
住所：〒577-0054
東大阪市高井田元町1-2-13 市立総合福祉センター4階
e-mail: hosi01@heartnet-hoshakyo.org
TEL: 06-6789-5550 FAX: 06-6789-2924

Q1 貴団体を設置されてからの年数は、おおよそ何年になりますか。

- | | | | | | | |
|----------|------------|------------|-------------|--------------|--------------|-----------|
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 1年
未満 | 1～3年
未満 | 3～5年
未満 | 5～10年
未満 | 10～20年
未満 | 20～30年
未満 | 30年
以上 |

Q2 貴団体の会員数は何人ですか。

正会員 () 人
賛助会員 () 人
その他 () 人 (具体的に:)

Q3 貴団体は事務所を設置していますか。

- | | |
|----------------------|---------------|
| 1 専用の事務所を設置している | 3 事務所は設置していない |
| 2 他の団体と共同で事務所を設置している | 4 その他 () |

Q4 貴団体の事務所(事務局)の体制はどのようなものですか。

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 有給スタッフを置いている | 3 無給のスタッフだけで対応している |
| 2 特に事務所スタッフは置いていない | 4 その他 () |

Q5 貴団体の活動資金や運営資金の種類は、以下のどれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1 会費 | 5 公募による助成金や協賛金 |
| 2 委託料 | 6 寄付金 |
| 3 補助金 | 7 バザー等の売上 |
| 4 委託料以外の事業収入 | 8 その他 () |

Q6 貴団体の1年間の活動資金や運営資金の合計は、おおよそ何万円ですか。

おおよそ

--	--	--	--

 万円

Q7 貴団体はNPO法人格を取得していますか。

- 1 取得している(または現在、取得中)
- 2 現在は取得していないが、今後取得したい
- 3 現在は取得しておらず、今後も取得するつもりはない
- 4 現在は取得しておらず、今後はわからない

Q8-1 貴団体ではどのような活動を行っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 保健・医療・福祉の増進を図る活動
- 2 社会教育の推進を図る活動
- 3 まちづくりの推進を図る活動
- 4 観光の振興を図る活動
- 5 農山漁村又は中山間地域の振興を図る活動
- 6 学術・文化・芸術・スポーツの振興を図る活動
- 7 環境の保全を図る活動
- 8 災害救援活動
- 9 地域安全活動
- 10 人権の擁護又は平和の推進を図る活動
- 11 国際協力の活動
- 12 男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
- 13 子どもの健全育成を図る活動
- 14 情報化社会の発展を図る活動
- 15 科学技術の振興を図る活動
- 16 経済活動の活性化を図る活動
- 17 職業能力の開発、雇用機会の拡充を支援する活動
- 18 消費者の保護を図る活動
- 19 活動を行う団体の運営や活動に関する連絡・助言・援助の活動
- 20 その他 ()

Q8-2 保健・医療・福祉の増進を図る活動をされている団体にお聞きます。その活動の対象者はどのような方々ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------|-----------|
| 1 高齢者 | 4 限定していない |
| 2 障がい者 | 5 その他 () |
| 3 児童 | |

Q8-3 その活動の具体的な内容はどのようなものですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 対象者と直接接する活動（介助・介護など）
- 2 技術・技能を要する活動（手話・点訳など）
- 3 イベントに関する活動（準備・演芸訪問など）
- 4 施設内外の環境美化活動（清掃・洗濯など）
- 5 配食活動（調理・配食など）
- 6 その他 ()

（以下全員の方に）

Q9 貴団体の活動場所はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|-------------------|------------|
| 1 自治会館・集会所 | 7 病院・診療所 |
| 2 公民館・公民分館 | 8 対象者の家 |
| 3 学校 | 9 団体の事務所 |
| 4 リージョンセンター | 10 会員等の自宅 |
| 5 ボランティア・市民活動センター | 11 企業の施設等 |
| 6 社会福祉施設 | 12 その他 () |

Q13 貴団体では、災害時の支援活動への参加について、どのようにお考えですか。

- 1 現在、災害時の支援活動を考慮して活動や組織運営を行っている
- 2 今後、災害時に支援活動に参加できるよう準備を進めたい
- 3 災害時に支援活動に参加するのは難しいだろう

Q14 ボランティア団体やNPOが行政と協働して事業を行っていく上で、どのような取組が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1 行政と対等な立場で協議できる場づくり
- 2 行政からの情報提供や情報開示の充実
- 3 行政と団体をコーディネートする機関や人の設置
- 4 協働で行う活動や事業に対する財政的な支援の充実
- 5 その他 ()
- 6 行政機関と協働して事業を行うつもりはない

Q15 貴団体では、社会福祉協議会「ボランティア・市民活動センター」にどのようなことを期待しますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- | | |
|--------------|------------------|
| 1 事務所スペースの貸与 | 7 活動や組織運営に関する相談 |
| 2 活動スペースの貸与 | 8 学習会・研修会の開催 |
| 3 資材・機材等の貸出 | 9 新たな人材の養成 |
| 4 活動資金の助成 | 10 他団体等との交流の場の提供 |
| 5 活動の広報 | 11 関係機関等との連携・調整 |
| 6 活動に関する情報提供 | 12 その他 () |
| | 13 特に期待することはない |

裏面もごぞいます

Q16 「ボランティア・市民活動センター」に期待される内容について、具体的なお意見やご要望がありましたら、お書きください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

Q17 その他、ご意見等がありましたら、ご自由にお書きください。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/>

ご協力、誠にありがとうございました。

皆さまからいただいた貴重な情報は、今後の市民活動の推進のために活用させていただきます。
誠にお手数ではございますが、同封の返信用封筒（切手不要）をお使いいただき、お近くの郵便ポストにご投函ください。

2012 年度版
ボランティア活動に関するアンケート
ボランティアグループ・NPO の組織・活動に関するアンケート
調査結果報告書

2013 年 3 月
社会福祉法人 東大阪市社会福祉協議会
ボランティア・市民活動センター

作成協力 大阪商業大学 宍戸ゼミナール

〒577-0054 東大阪市高井田元町 1 丁目 2 番 13 号
東大阪市立総合福祉センター 4 階
TEL 06-6789-5550 FAX 06-6789-2924

ホームページ <http://www.heartnet-hoshakyo.org/>
E-mail hosi01@cap.ocn.ne.jp